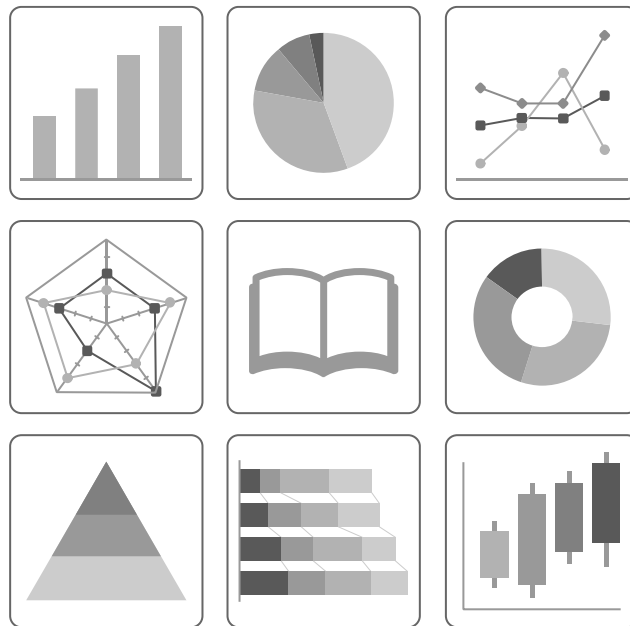


掛川市

男女共同参画に関する 市民意識調査結果



令和3年2月

掛 川 市

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	1
II	調査結果	2
(1)	あなたご自身のことについて.....	2
(2)	男女共同参画について.....	8
(3)	子育て・教育について.....	21
(4)	家庭生活全般について.....	30
(5)	ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について.....	44
(6)	女性の社会進出について.....	50
(7-1)	男女間等の暴力（ドメスティック・バイオレンス＝DV）について.....	67
(7-2)	男女間等の暴力（セクシュアル・ハラスメント＝セクハラ）について.....	76
(8)	地域活動について.....	84
(9)	就労について.....	100
(10)	性の多様性について.....	118
(11)	老後・介護について.....	123
(12)	心身環境について.....	131
(13)	市に要望する施策について.....	139
III	自由意見	143

I 調査の概要

1 調査の目的

男女共同参画に関する意識やワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）などについて意見を聞き、「第4次掛川市男女共同参画行動計画」策定の基礎資料として、調査を実施するものです。

2 調査対象

市民意識調査：掛川市在住の18歳以上の方の中から1,800人を無作為抽出

3 調査期間

令和2年12月4日から令和2年12月18日

4 調査方法

郵送による配布・回収

5 回収状況

	配布数	有効回答数	有効回答率
市民意識調査	1,800通	815通	45.3%

6 調査結果の表示方法

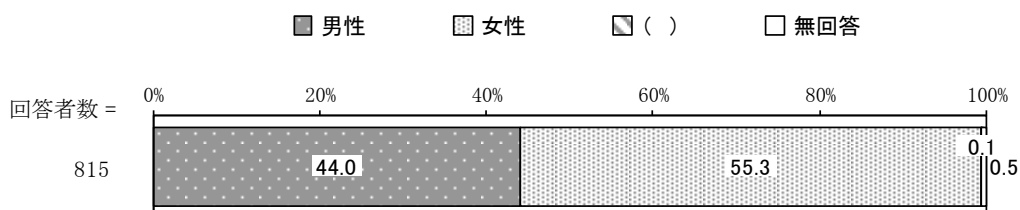
- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを■で網かけをしています。（無回答を除く）
- ・回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。

II 調査結果

(1) あなたご自身のことについて

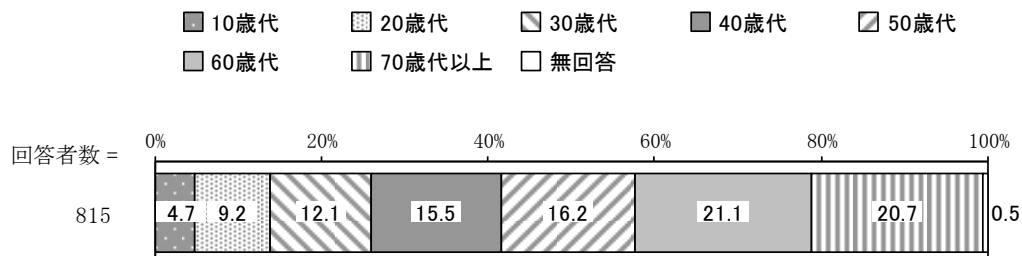
問1 あなたの性別を教えてください。(1つに○)

「女性」の割合が55.3%と最も高く、次いで「男性」の割合が44.0%となっています。



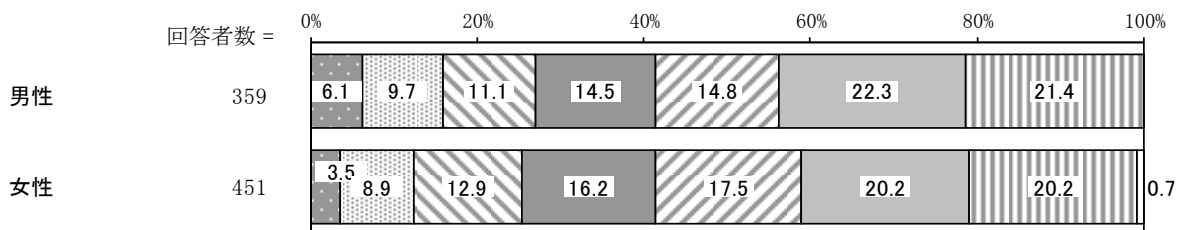
問2 あなたの年齢を教えてください。(令和2年11月20日現在)(1つに○)

「60歳代」の割合が21.1%と最も高く、次いで「70歳代以上」の割合が20.7%、「50歳代」の割合が16.2%となっています。



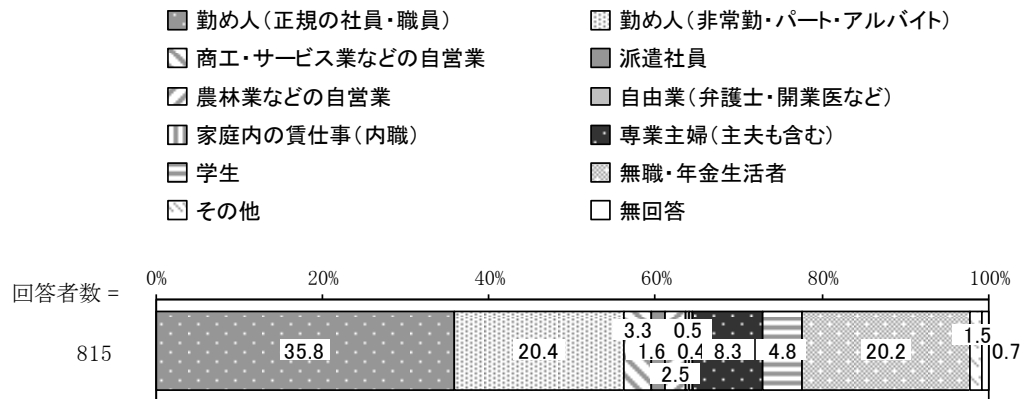
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



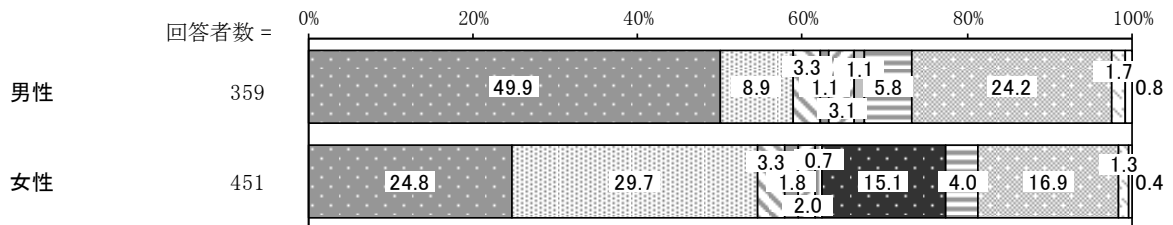
問3 あなたの職業をお答えください。(1つに○)

「勤め人（正規の社員・職員）」の割合が 35.8%と最も高く、次いで「勤め人（非常勤・パート・アルバイト）」の割合が 20.4%、「無職・年金生活者」の割合が 20.2%となっています。



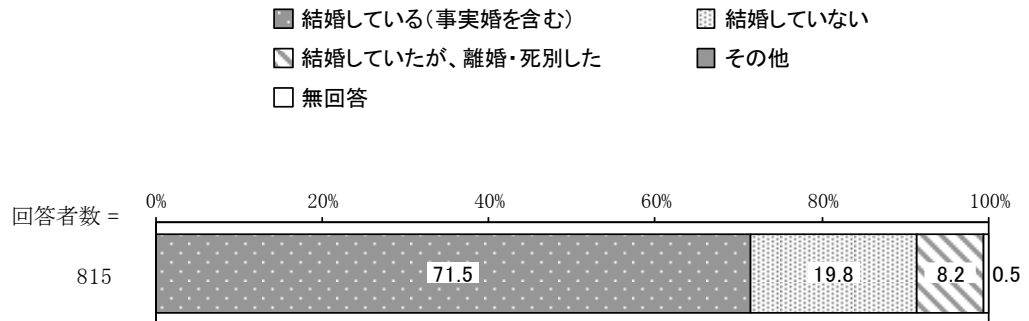
【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「勤め人（正規の社員・職員）」「無職・年金生活者」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「勤め人（非常勤・パート・アルバイト）」「専業主婦（主夫も含む）」の割合が高くなっています。



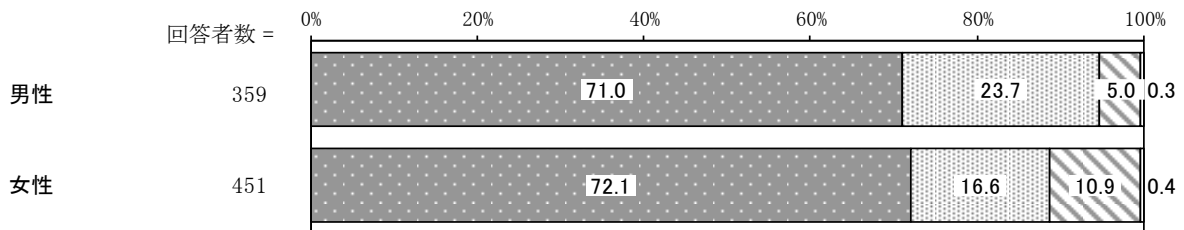
問4 あなたは現在結婚していますか。(1つに○)

「結婚している(事実婚を含む)」の割合が71.5%と最も高く、次いで「結婚していない」の割合が19.8%となっています。



【性別】

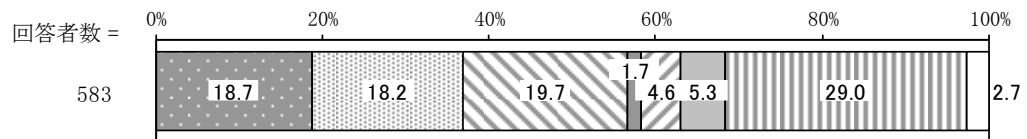
性別でみると、女性に比べ、男性で「結婚していない」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「結婚していたが、離婚・死別した」の割合が高くなっています。



**問5 <現在配偶者のいらっしゃる方に伺います。>
ご夫婦のお仕事の状況をお答えください。(1つに〇)**

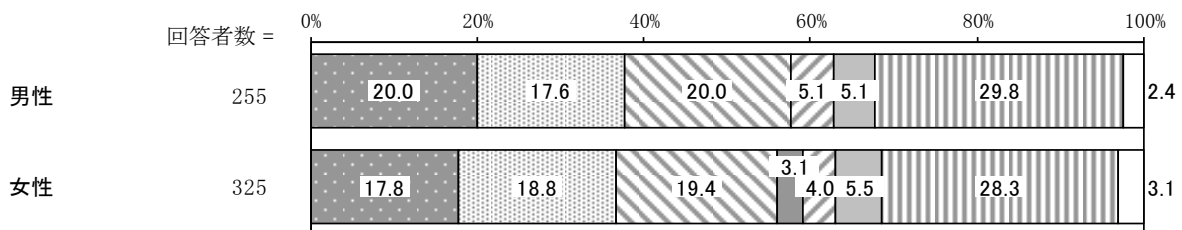
「夫のみ正規の社員・職員」の割合が19.7%と最も高く、次いで「夫婦共に正規の社員・職員」の割合が18.7%、「共働きで、夫、妻どちらかが正規の社員・職員」の割合が18.2%となっています。

- 夫婦共に正規の社員・職員
- 夫のみ正規の社員・職員
- 夫のみ非正規の社員・職員
- その他
- 共働きで、夫、妻どちらかが正規の社員・職員
- 妻のみ正規の社員・職員
- 妻のみ非正規の社員・職員
- 無回答



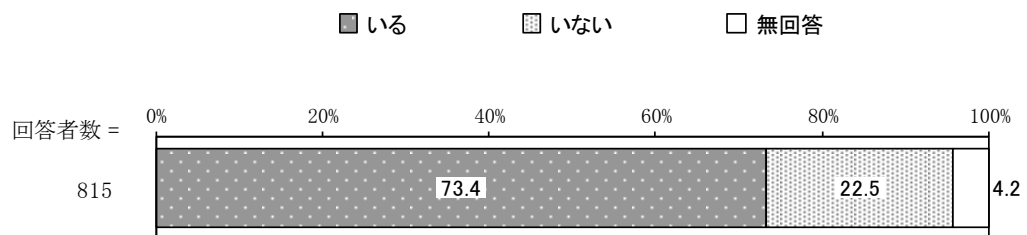
【性別】

性別で見ると、大きな差異はみられません。



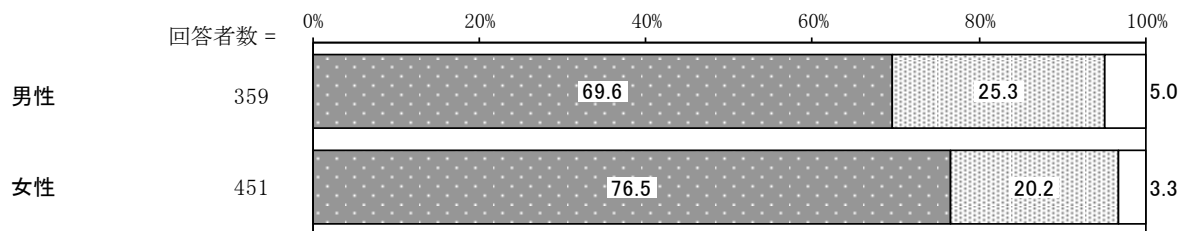
問6 あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。(別居を含む)(1つに○)

「いる」の割合が73.4%、「いない」の割合が22.5%となっています。



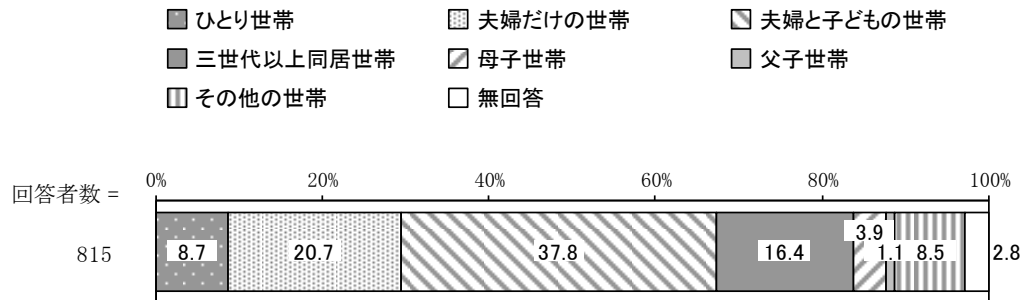
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「いない」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「いる」の割合が高くなっています。



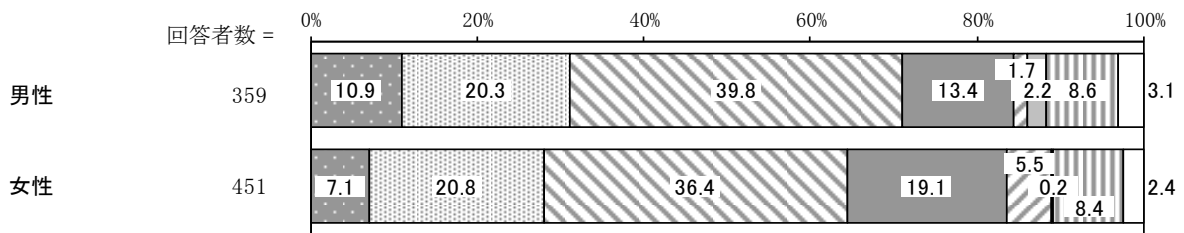
問7 あなたのご家族の構成を教えてください。(1つに○)

「夫婦と子どもの世帯」の割合が37.8%と最も高く、次いで「夫婦だけの世帯」の割合が20.7%、「三世代以上同居世帯」の割合が16.4%となっています。



【性別】

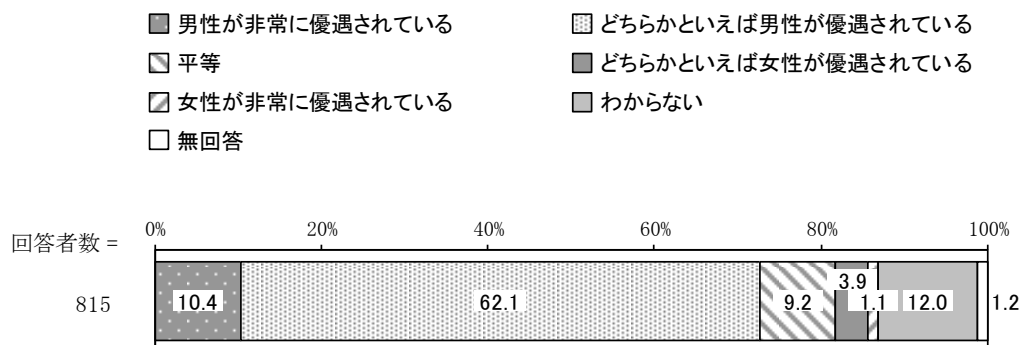
性別でみると、男性に比べ、女性で「三世代以上同居世帯」の割合が高くなっています。



(2) 男女共同参画について

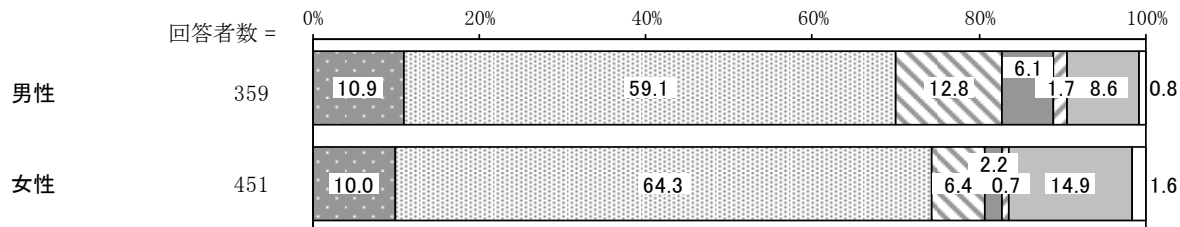
問8 あなたは、社会全体で見た場合、男女は平等になっていると思いますか。(1つに○)

「どちらかといえば男性が優遇されている」の割合が62.1%と最も高く、次いで「わからない」の割合が12.0%、「男性が非常に優遇されている」の割合が10.4%となっています。



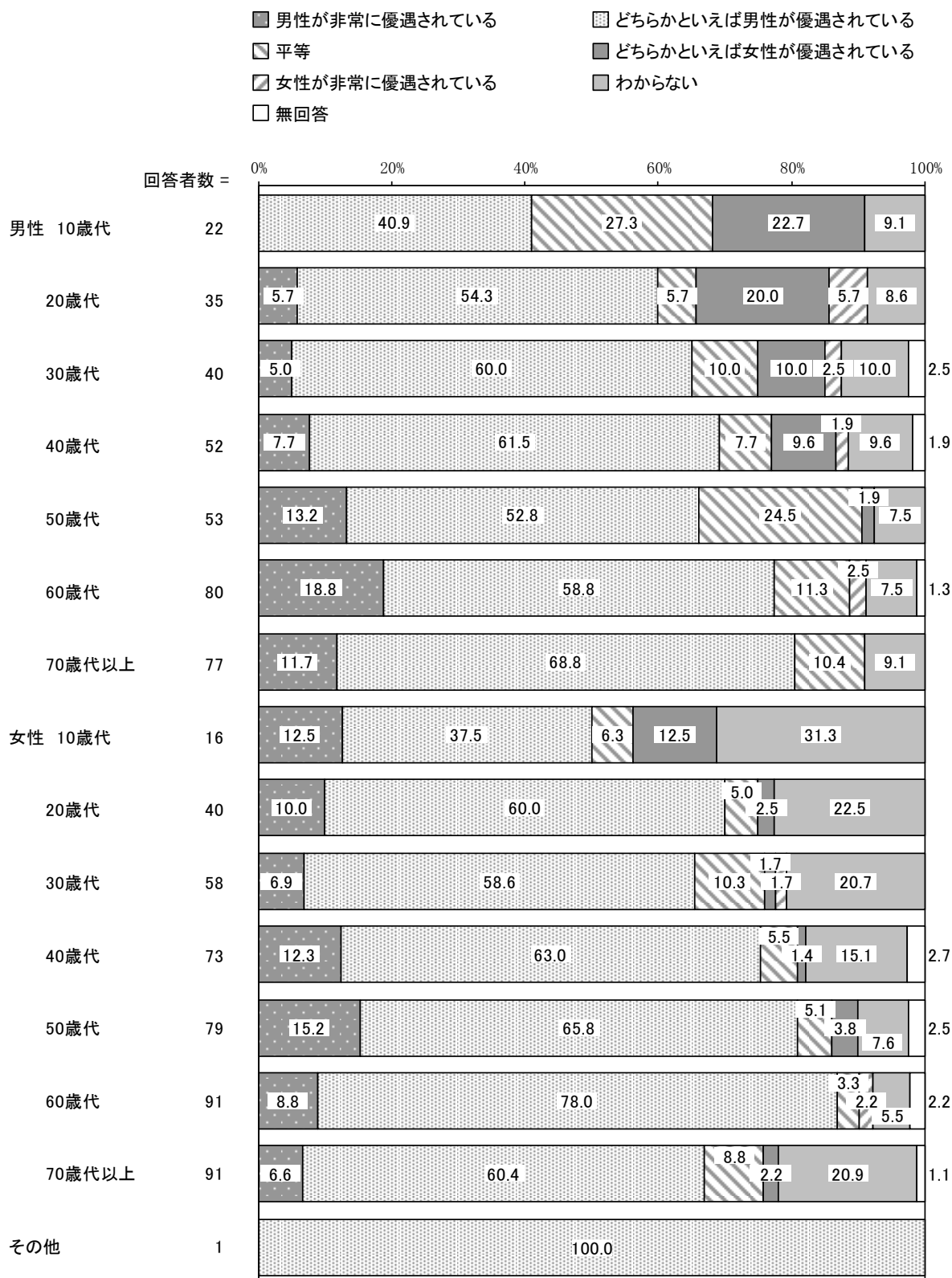
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「平等」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「どちらかといえば男性が優遇されている」「わからない」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

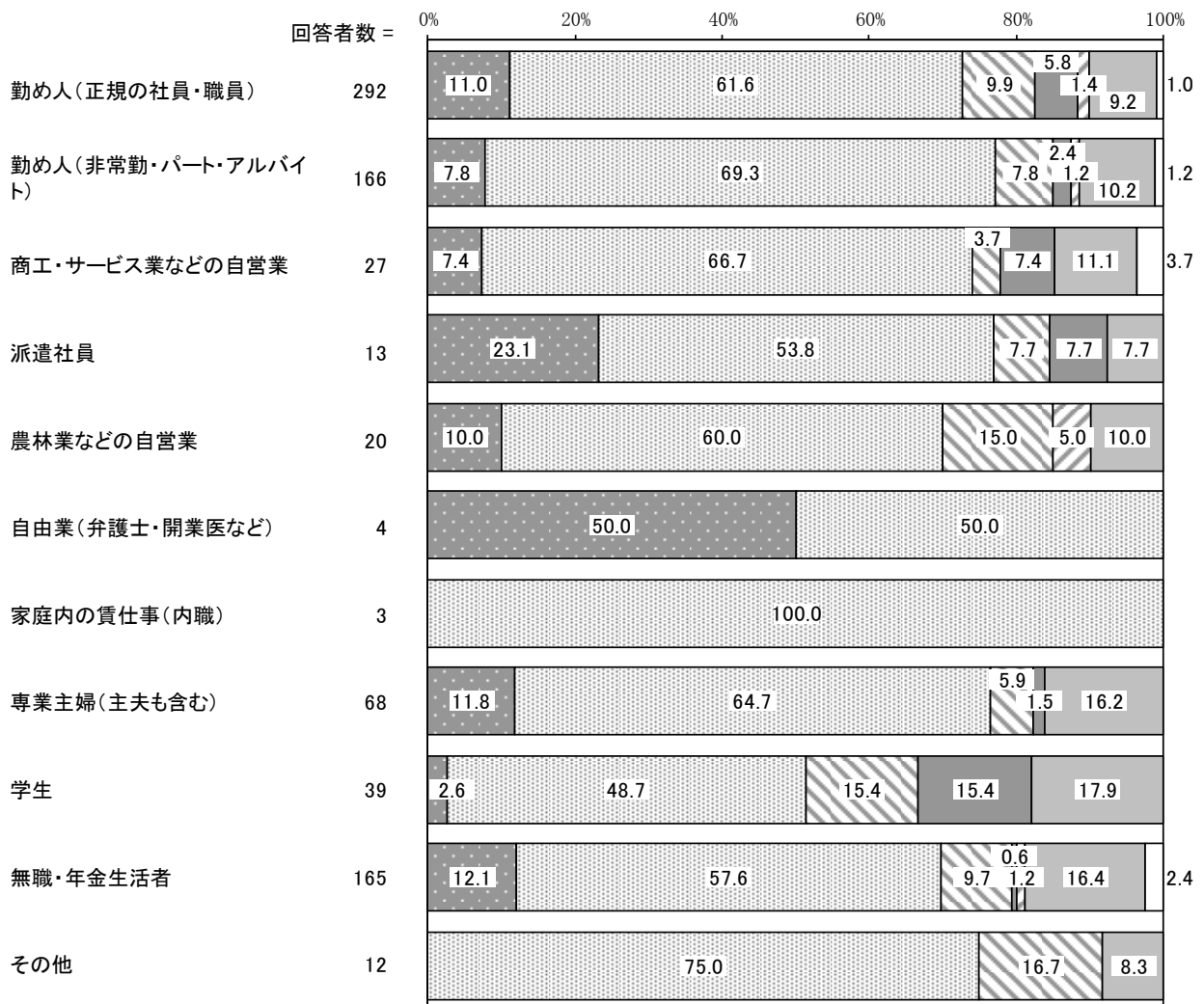
性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の60歳代で「男性が非常に優遇されている」の割合が高くなっています。また、他に比べ、女性の60歳代で「どちらかといえば男性が優遇されている」の割合が、男性の10歳代で「平等」「どちらかといえば女性が優遇されている」の割合が、女性の10歳代で「わからない」の割合が高くなっています。



【職業別】

職業別でみると、他に比べ、務め人（非常勤・パート・アルバイト）で「どちらかといえば男性が優遇されている」の割合が高くなっています。また、他に比べ、農林業などの自営業で「平等」の割合が、学生で「平等」「どちらかといえば女性が優遇されている」「わからない」の割合が高くなっています。

- 男性が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性が優遇されている
- 平等
- どちらかといえば女性が優遇されている
- ▨ 女性が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

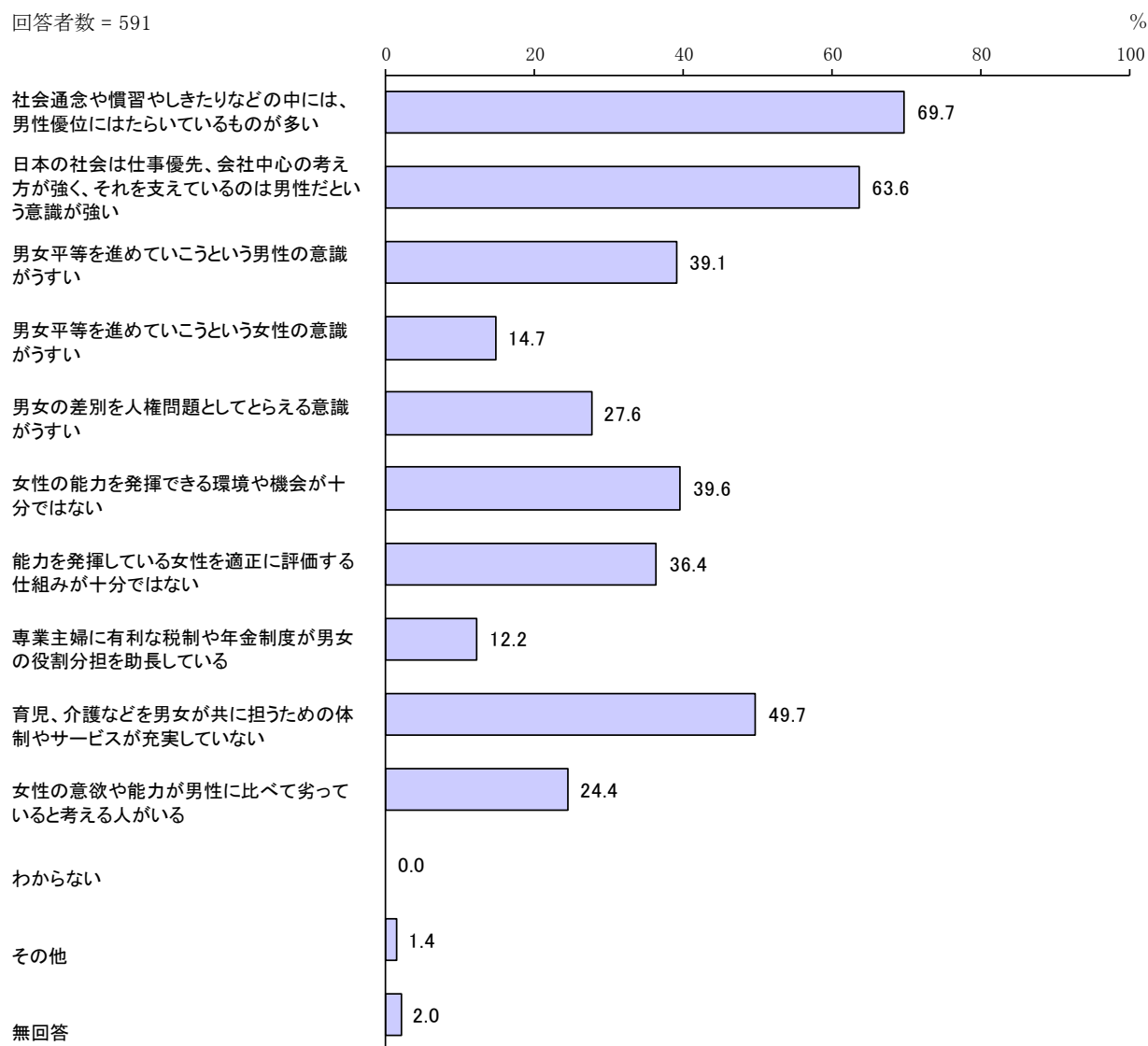


＜問8で「1 男性が非常に優遇されている」「2 どちらかといえば男性が優遇されている」とお答えの方に伺います。＞

問8-1 男性が優遇されている原因は何だとお考えになりますか。(あてはまるものすべてに○)

「社会通念や慣習やしきたりなどの中には、男性優位にはたらいっているものが多い」の割合が69.7%と最も高く、次いで「日本の社会は仕事優先、会社中心の考え方が強く、それを支えているのは男性だ」という意識が強い」の割合が63.6%、「育児、介護などを男女が共に担うための体制やサービスが充実していない」の割合が49.7%となっています。

回答者数 = 591



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「男女平等を進めていこう」という男性の意識がうすい」「専業主婦に有利な税制や年金制度が男女の役割分担を助長している」「育児、介護などを男女が共に担うための体制やサービスが充実していない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	社会通念や慣習やしきたりなどの中には、男性優位にはたらいっているものが多い	日本の社会は仕事優先、社中心の考え方が強く、それを支えているのは男性だという意識が強い	男女平等を進めていこうという男性の意識がうすい	男女平等を進めていこうという女性の意識がうすい	男女の差別を人権問題としてとらえる意識がうすい	女性の能力を發揮できる環境や機会が十分ではない
男性	251	69.7	65.7	32.7	12.7	29.1	41.8
女性	335	69.9	62.1	44.2	16.1	26.3	38.2

区分	能力を發揮している女性が十分に評価する仕組みが十分ではない	専業主婦に有利な税制や年金制度が男女の役割分担を助長している	育児、介護などを男女が共に担うための体制やサービスが充実していない	女性の意欲や能力が男性に比べて劣っていると考える人がいる	わからない	その他	無回答
男性	35.9	9.2	46.2	21.9	—	1.6	1.6
女性	36.7	14.6	52.2	25.7	—	1.2	2.4

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、女性の40歳代で「社会通念や慣習やしきたりなどの中には、男性優位にはたらいっているものが多い」「女性の意欲や能力が男性に比べて劣っていると考える人がいる」の割合が高くなっています。また、他に比べ、男性の70歳代以上で「日本の社会は仕事優先、会社中心の考え方が強く、それを支えているのは男性だ」という意識が強い」の割合が、女性の50歳代で「男女平等を進めていこう」という男性の意識がうすい」「能力を發揮している女性を適正に評価する仕組みが十分ではない」「専業主婦に有利な税制や年金制度が男女の役割分担を助長している」「女性の意欲や能力が男性に比べて劣っていると考える人がいる」の割合が、女性の70歳代以上で「男女平等を進めていこう」という女性の意識がうすい」の割合が、男性の60歳代で「男女の差別を人権問題としてとらえる意識がうすい」「能力を發揮している女性を適正に評価する仕組みが十分ではない」の割合が、男性の40歳代で「女性の能力を發揮できる環境や機会が十分ではない」の割合が、女性の30歳代で「育児、介護などを男女が共に担うための体制やサービスが充実していない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	多い	社会通念や慣習やしきたりなどの中には、男性優位にはたらいっているものが多い	日本の社会は仕事優先、会社中心の考え方が強く、それを支えているのは男性だ」という意識が強い	男女平等を進めていこう」という男性の意識がうすい	男女平等を進めていこう」という女性の意識がうすい	男女の差別を人権問題としてとらえる意識がうすい	女性の能力を發揮できる環境や機会が十分ではない
男性 10歳代	9	77.8	77.8	22.2	—	44.4	33.3	
20歳代	21	57.1	61.9	33.3	14.3	19.0	23.8	
30歳代	26	65.4	53.8	19.2	7.7	11.5	34.6	
40歳代	36	66.7	61.1	27.8	13.9	30.6	50.0	
50歳代	35	71.4	60.0	34.3	5.7	20.0	42.9	
60歳代	62	69.4	66.1	40.3	16.1	43.5	41.9	
70歳代以上	62	75.8	75.8	33.9	16.1	27.4	46.8	
女性 10歳代	8	75.0	87.5	37.5	—	37.5	62.5	
20歳代	28	75.0	64.3	35.7	10.7	3.6	42.9	
30歳代	38	68.4	63.2	39.5	2.6	18.4	47.4	
40歳代	55	76.4	60.0	45.5	20.0	20.0	34.5	
50歳代	64	67.2	57.8	53.1	15.6	39.1	32.8	
60歳代	79	68.4	68.4	40.5	17.7	32.9	39.2	
70歳代以上	61	67.2	57.4	45.9	24.6	23.0	34.4	
その他	1	—	100.0	—	100.0	100.0	100.0	

単位：%

区分	能力を發揮している女性を適正に評価する仕組みが十分ではない	専業主婦に有利な税制や年金制度が男女の役割分担を助長している	育児、介護などを女性が共に担うための体制やサービスが充実していない	女性の意欲や能力が男性に比べて劣っていると考えている人がいる	わからない	その他	無回答
男性 10 歳代	22.2	11.1	22.2	22.2	—	—	—
20 歳代	28.6	4.8	47.6	19.0	—	—	4.8
30 歳代	23.1	7.7	61.5	26.9	—	3.8	—
40 歳代	33.3	11.1	50.0	22.2	—	—	—
50 歳代	40.0	11.4	45.7	11.4	—	2.9	2.9
60 歳代	51.6	9.7	43.5	29.0	—	1.6	1.6
70 歳代以上	29.0	8.1	43.5	19.4	—	1.6	1.6
女性 10 歳代	37.5	—	62.5	37.5	—	—	—
20 歳代	25.0	14.3	42.9	25.0	—	—	—
30 歳代	28.9	15.8	65.8	15.8	—	2.6	—
40 歳代	32.7	16.4	56.4	34.5	—	1.8	—
50 歳代	51.6	23.4	46.9	34.4	—	1.6	6.3
60 歳代	32.9	12.7	54.4	17.7	—	1.3	—
70 歳代以上	37.7	8.2	45.9	24.6	—	—	6.6
その他	100.0	—	—	100.0	—	—	—

【職業別】

職業別でみると、他に比べ、学生で「社会通念や慣習やしきたりなどの中には、男性優位にはたっているものが多い」「日本の社会は仕事優先、会社中心の考え方が強く、それを支えているのは男性だ」という意識が強い」「男女の差別を人権問題としてとらえる意識がうすい」「女性の能力を発揮できる環境や機会が十分ではない」の割合が高くなっています。また、他に比べ、派遣社員で「日本の社会は仕事優先、会社中心の考え方が強く、それを支えているのは男性だ」という意識が強い」の割合が、無職・年金生活者で「日本の社会は仕事優先、会社中心の考え方が強く、それを支えているのは男性だ」という意識が強い」の割合が、商工・サービス業などの自営業で「男女平等を進めていこう」という男性の意識がうすい」「女性の能力を発揮できる環境や機会が十分ではない」の割合が、農林業などの自営業で「男女平等を進めていこう」という女性の意識がうすい」「能力を発揮している女性を適正に評価する仕組みが十分ではない」「女性の意欲や能力が男性に比べて劣っていると考える人がいる」の割合が、勤め人（非常勤・パート・アルバイト）で「専業主婦に有利な税制や年金制度が男女の役割分担を助長している」「育児、介護などを男女が共に担うための体制やサービスが充実していない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	社会通念や慣習やしきたりなどの中には、男性優位にはたっているものが多い	日本の社会は仕事優先、会社中心の考え方が強く、それを支えているのは男性だ」という意識が強い	男女平等を進めていこう」という男性の意識がうすい	男女平等を進めていこう」という女性の意識がうすい	男女の差別を人権問題としてとらえる意識がうすい	女性の能力を発揮できる環境や機会が十分ではない
勤め人(正規の社員・職員)	212	68.9	62.7	38.2	14.6	27.4	38.7
勤め人(非常勤・パート・アルバイト)	128	69.5	60.2	38.3	12.5	23.4	42.2
商工・サービス業などの自営業	20	75.0	65.0	55.0	15.0	20.0	50.0
派遣社員	10	60.0	70.0	30.0	—	20.0	40.0
農林業などの自営業	14	57.1	64.3	35.7	21.4	28.6	21.4
自由業(弁護士・開業医など)	4	75.0	25.0	50.0	25.0	—	75.0
家庭内の賃仕事(内職)	3	100.0	100.0	66.7	33.3	33.3	33.3
専業主婦(主夫も含む)	52	61.5	61.5	50.0	11.5	34.6	32.7
学生	20	85.0	70.0	35.0	—	35.0	50.0
無職・年金生活者	115	73.0	70.4	37.4	20.0	27.8	39.1
その他	9	77.8	44.4	11.1	22.2	55.6	44.4

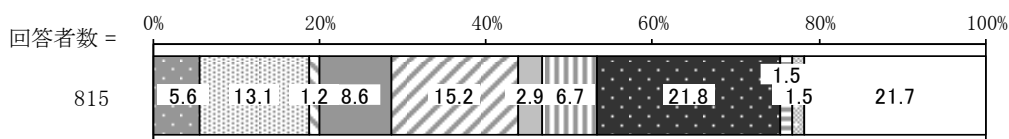
単位：%

区分	能力を發揮している女性を適正に評価する仕組みが十分ではない	専業主婦に有利な税制や年金制度が男女の役割分担を助長している	育児、介護などを男女が共に担うための体制やサービスが充実していない	女性の意欲や能力が男性に比べて劣っていると考えられている	わからない	その他	無回答
勤め人(正規の社員・職員)	38.7	13.7	53.8	26.9	—	1.9	0.9
勤め人(非常勤・パート・アルバイト)	35.2	16.4	54.7	21.9	—	0.8	2.3
商工・サービス業などの自営業	45.0	5.0	50.0	25.0	—	—	—
派遣社員	40.0	10.0	40.0	10.0	—	—	10.0
農林業などの自営業	50.0	—	35.7	42.9	—	7.1	—
自由業(弁護士・開業医など)	—	25.0	50.0	50.0	—	25.0	—
家庭内の賃仕事(内職)	100.0	33.3	33.3	66.7	—	—	—
専業主婦(主夫も含む)	28.8	13.5	53.8	23.1	—	1.9	—
学生	35.0	5.0	50.0	25.0	—	—	—
無職・年金生活者	31.3	7.0	38.3	20.0	—	—	4.3
その他	55.6	22.2	33.3	11.1	—	—	—

問9 男女平等は法律に明記されていますが、社会の中でいちばん男女が平等になっていない分野は何だと思いますか。(1つに○)

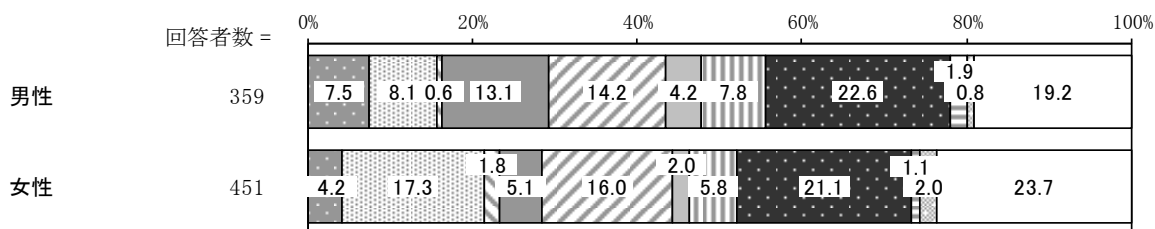
「社会通念・慣習しきたりなどで」の割合が21.8%と最も高く、次いで「職場の待遇で(昇任・昇格・給与・定年など)」の割合が15.2%、「家庭生活で」の割合が13.1%となっています。

- 法や制度の上で
- 学校教育の場で
- 職場の待遇で(昇任・昇格・給与・定年など)
- 政治の場で
- すべて平等になっている
- 無回答
- 家庭生活で
- 職場の仕事で(役割分担・やり方・内容など)
- 地域で(地域活動・地域つきあいなど)
- 社会通念・慣習しきたりなどで
- その他



【性別】

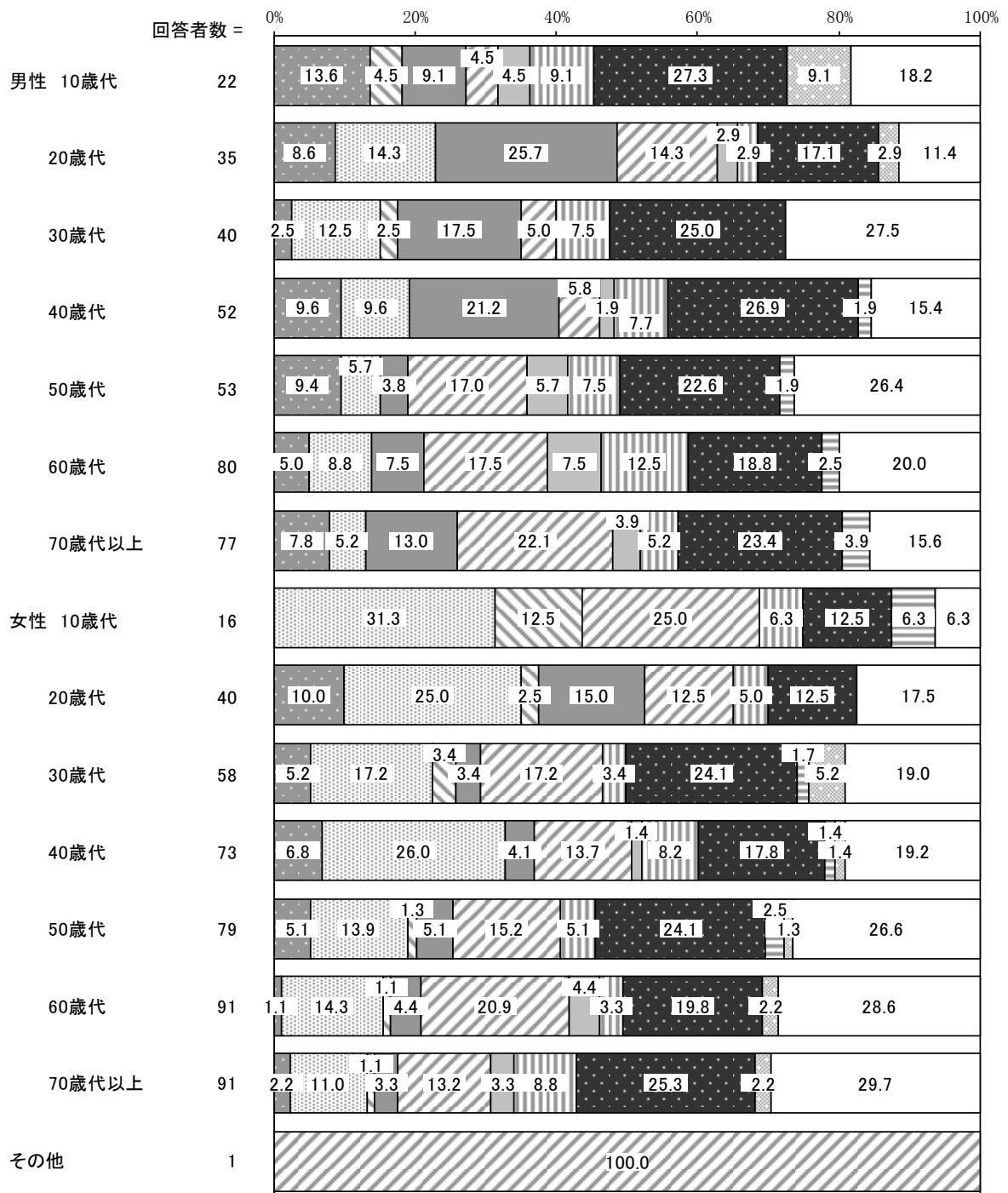
性別でみると、女性に比べ、男性で「職場の仕事で(役割分担・やり方・内容など)」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「家庭生活で」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

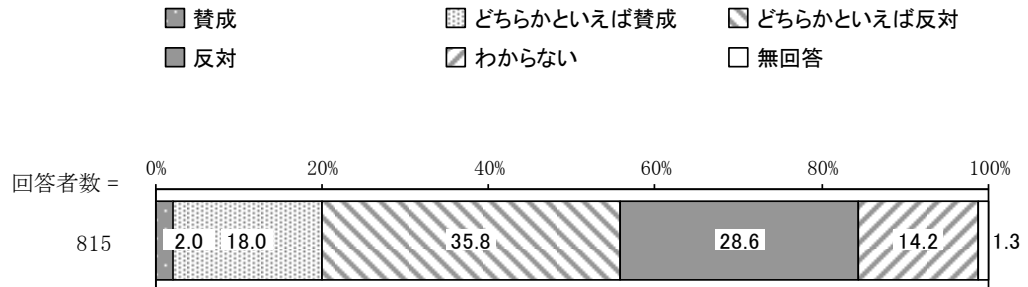
性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の10歳代で「法や制度の上で」「社会通念・慣習しきたりなどで」の割合が高くなっています。また、他に比べ、女性の10歳代で「家庭生活で」「職場の待遇で（昇任・昇格・給与・定年など）」の割合が、男性の20歳代で「職場の仕事で（役割分担・やり方・内容など）」の割合が高くなっています。

- 法や制度の上で
- 学校教育の場で
- 職場の待遇で(昇任・昇格・給与・定年など)
- 政治の場で
- すべて平等になっている
- 無回答
- 家庭生活で
- 職場の仕事で(役割分担・やり方・内容など)
- 地域で(地域活動・地域つきあいなど)
- 社会通念・慣習しきたりなどで
- その他



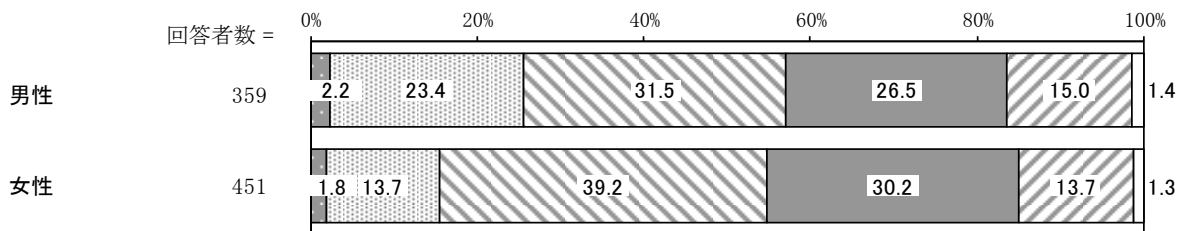
問10 「男は仕事、女は家庭」というような、男女の役割を固定的に考える性別役割分業の考え方についてどのように思いますか。(1つに〇)

「どちらかといえば反対」の割合が35.8%と最も高く、次いで「反対」の割合が28.6%、「どちらかといえば賛成」の割合が18.0%となっています。



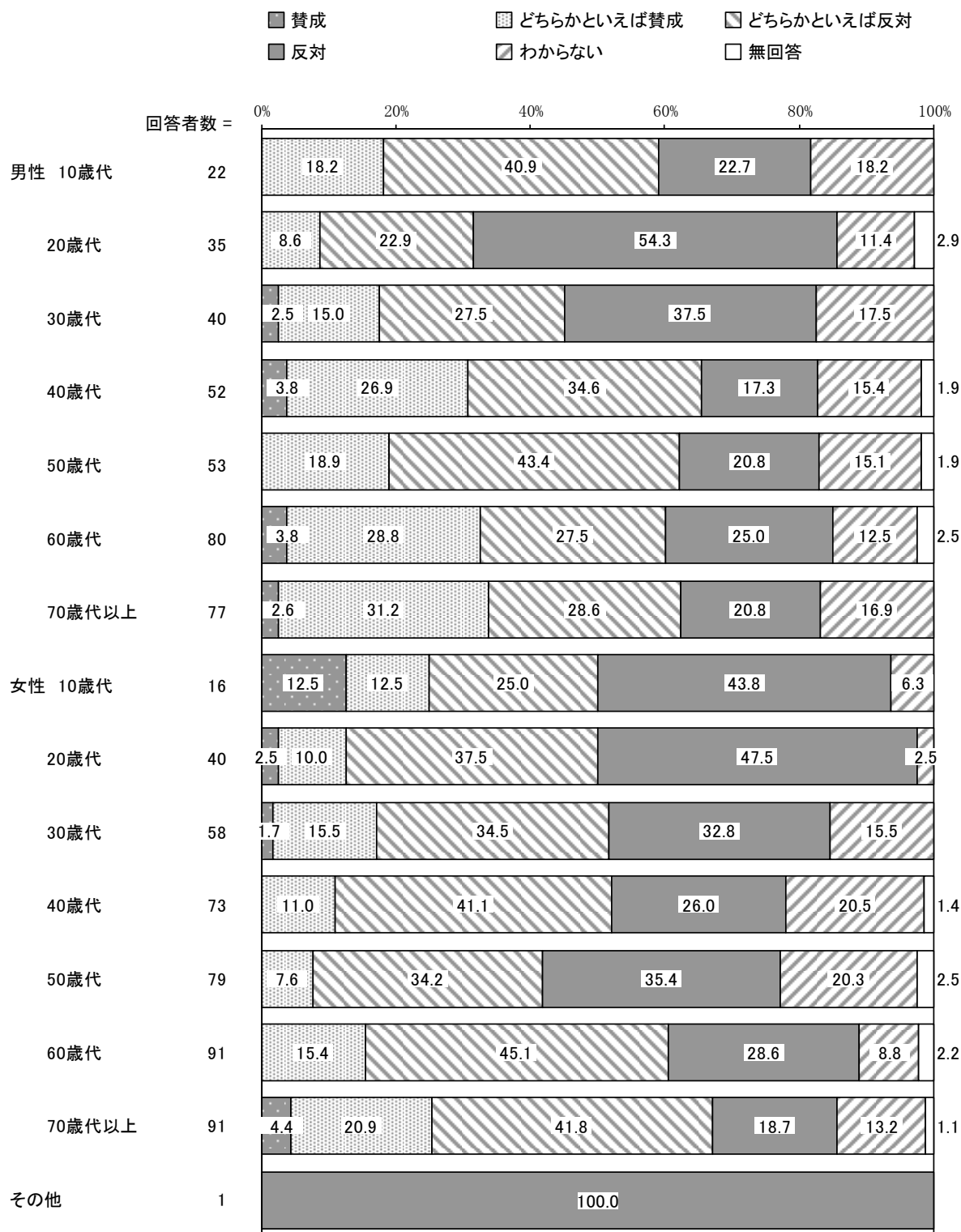
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「どちらかといえば賛成」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「どちらかといえば反対」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

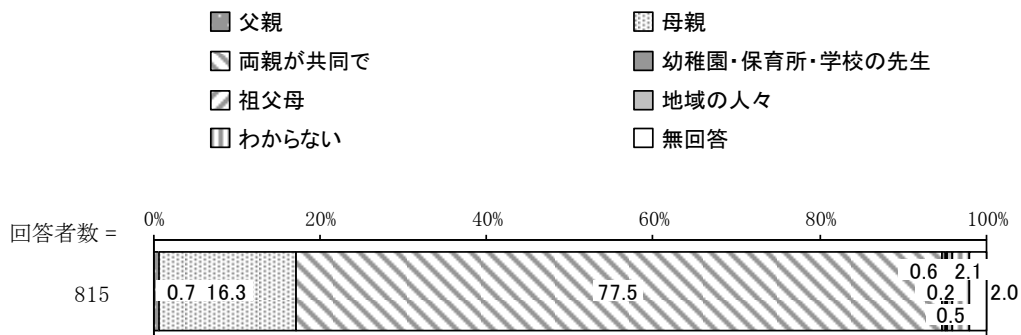
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の10歳代で「賛成」の割合が高くなっています。また、他に比べ、男性の70歳以上で「どちらかといえば賛成」の割合が、女性の60歳代で「どちらかといえば反対」の割合が、男性の20歳代で「反対」の割合が高くなっています。



(3) 子育て・教育について

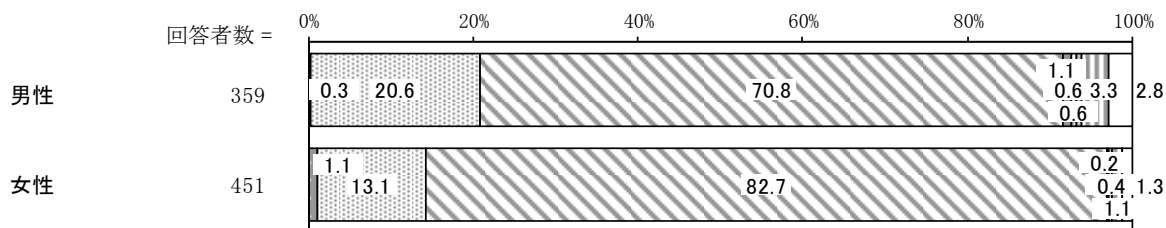
問 11 一般的に子育ては誰が中心的な役割を担うのが良いと思いますか。(1つに○)

「両親が共同で」の割合が 77.5%と最も高く、次いで「母親」の割合が 16.3%となっています。



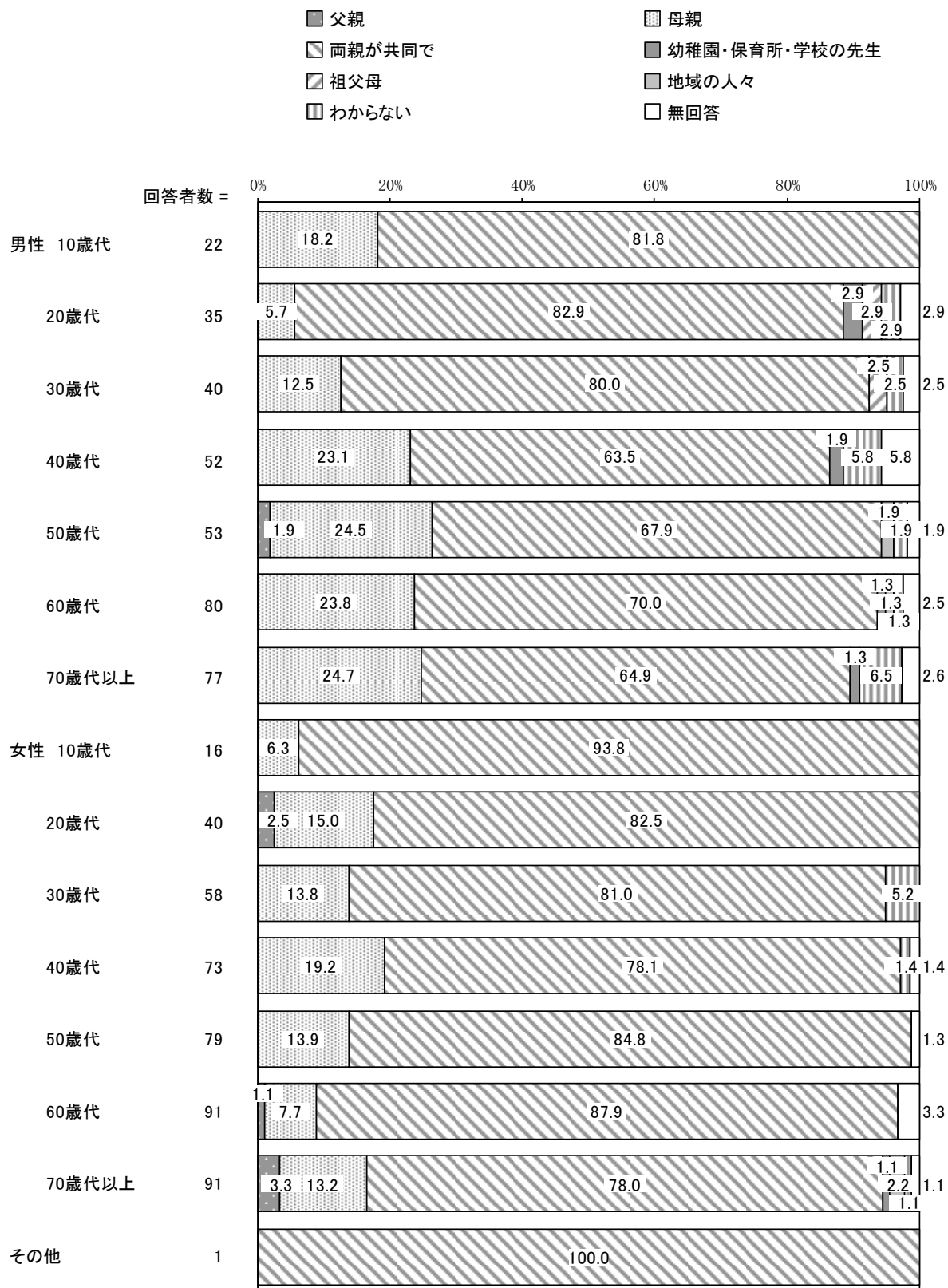
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「母親」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「両親が共同で」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

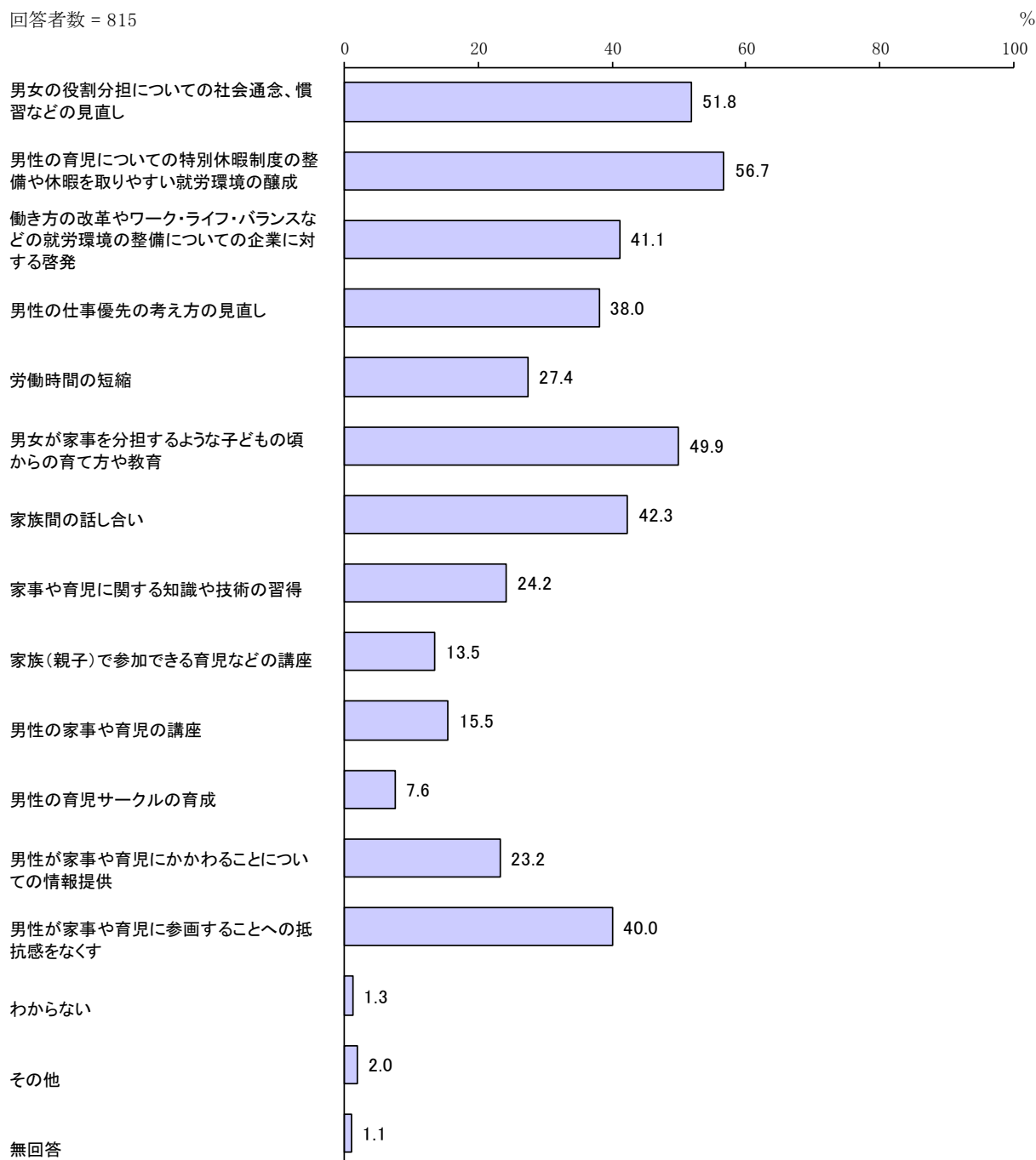
性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の50歳代、70歳代以上で「母親」の割合が高くなっています。また、他に比べ、女性の10歳代で「両親が共同で」の割合が高くなっています。



問 12 あなたは、男性が家事や育児に参画するためにどのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

「男性の育児についての特別休暇制度の整備や休暇を取りやすい就労環境の醸成」の割合が56.7%と最も高く、次いで「男女の役割分担についての社会通念、慣習などの見直し」の割合が51.8%、「男女が家事を分担するような子どもの頃からの育て方や教育」の割合が49.9%となっています。

回答者数 = 815



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「労働時間の短縮」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「男女が家事を分担するような子どもの頃からの育て方や教育」「家族間の話し合い」「男性が家事や育児にかかわることについての情報提供」「男性が家事や育児に参画することへの抵抗感をなくす」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数（件）	男女の役割分担についての社会通念、慣習などの見直し	男性の育児についての特別休暇制度の整備や休暇を取りやすい就労環境の醸成	働き方の改革やワーク・ライフ・バランスなどの就労環境の整備についての企業に対する啓発	男性の仕事優先の考え方の見直し	労働時間の短縮	男女が家事を分担するような子どもの頃からの育て方や教育	家族間の話し合い	家事や育児に関する知識や技術の習得
男性	359	49.3	56.0	43.5	38.7	33.4	39.0	38.4	22.6
女性	451	53.4	57.0	39.2	37.3	22.6	58.5	45.9	25.5

区分	家族（親子）で参加できる育児などの講座	男性の家事や育児の講座	男性の育児サークルの育成	男性が家事や育児にかかわることについての情報提供	男性が家事や育児に参画することへの抵抗感をなくす	わからない	その他	無回答
男性	12.0	13.6	8.1	17.8	33.7	1.9	2.8	0.8
女性	14.9	17.1	7.3	27.5	45.0	0.9	1.3	1.3

【就労状況別】

就労状況別でみると、他に比べ、妻のみ非正規の社員・職員で「男女の役割分担についての社会通念、慣習などの見直し」「男性の仕事優先の考え方の見直し」「男性が家事や育児にかかわることについての情報提供」「男性が家事や育児に参画することへの抵抗感をなくす」の割合が高くなっています。また、他に比べ、妻のみ正規の社員・職員で「男性の育児についての特別休暇制度の整備や休暇を取りやすい就労環境の醸成」「働き方の改革やワーク・ライフ・バランスなどの就労環境の整備についての企業に対する啓発」「労働時間の短縮」「家事や育児に関する知識や技術の習得」「家族（親子）で参加できる育児などの講座」「男性の家事や育児の講座」の割合が、夫婦共に正規の社員・職員で「男女が家事を分担するような子どもの頃からの育て方や教育」の割合が、共働きで、夫、妻どちらかが正規の社員・職員で「家族間の話し合い」の割合が高くなっています。

単位：％

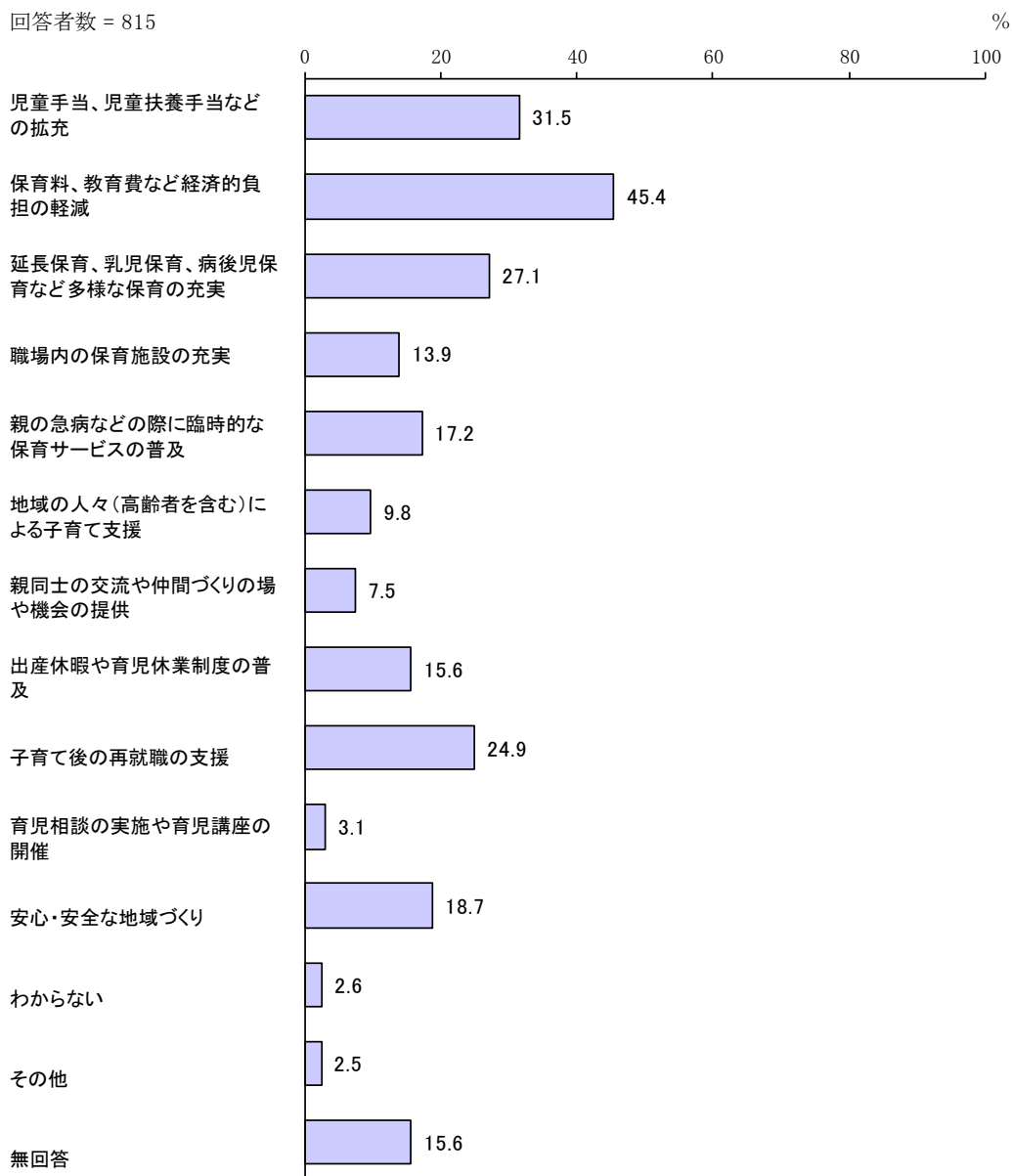
区分	有効回答数（件）	男女の役割分担についての社会通念、慣習などの見直し	男性の育児についての特別休暇制度の整備や休暇を取りやすい就労環境の醸成	働き方の改革やワーク・ライフ・バランスなどの就労環境の整備についての企業に対する啓発	男性の仕事優先の考え方の見直し	労働時間の短縮	男女が家事を分担するような子どもの頃からの育て方や教育	家族間の話し合い	家事や育児に関する知識や技術の習得
夫婦共に正規の社員・職員	109	57.8	56.9	47.7	42.2	39.4	56.0	45.9	27.5
共働きで、夫、妻どちらかが正規の社員・職員	106	58.5	63.2	45.3	38.7	22.6	55.7	48.1	29.2
夫のみ正規の社員・職員	115	41.7	53.0	37.4	40.0	33.9	41.7	33.9	17.4
妻のみ正規の社員・職員	10	60.0	80.0	60.0	50.0	50.0	40.0	30.0	30.0
夫のみ非正規の社員・職員	27	48.1	44.4	37.0	37.0	3.7	55.6	29.6	18.5
妻のみ非正規の社員・職員	31	61.3	54.8	48.4	54.8	19.4	54.8	41.9	22.6
その他	169	53.3	53.3	35.5	43.2	20.7	55.0	42.0	23.7

単位：%

区分	家族（親子）で参加できる育児などの講座	男性の家事や育児の講座	男性の育児サークルの育成	男性が家事や育児にかかわることについての情報提供	男性が家事や育児に参画することへの抵抗感をなくす	わからない	その他	無回答
夫婦共に正規の社員・職員	11.0	15.6	4.6	23.9	39.4	0.9	0.9	0.9
共働きで、夫、妻どちらかが正規の社員・職員	11.3	12.3	5.7	28.3	38.7	—	3.8	0.9
夫のみ正規の社員・職員	8.7	14.8	6.1	20.0	39.1	0.9	1.7	0.9
妻のみ正規の社員・職員	30.0	30.0	10.0	20.0	30.0	—	10.0	—
夫のみ非正規の社員・職員	14.8	14.8	3.7	29.6	44.4	—	—	3.7
妻のみ非正規の社員・職員	22.6	16.1	9.7	35.5	51.6	—	—	3.2
その他	16.0	17.8	8.3	24.9	40.8	1.2	1.2	1.2

問13 子どもを育てやすい環境づくりをするには、行政はどのような取り組みが必要だと思いますか。(あてはまるもの3つ以内に○)

「保育料、教育費など経済的負担の軽減」の割合が45.4%と最も高く、次いで「児童手当、児童扶養手当などの拡充」の割合が31.5%、「延長保育、乳児保育、病後児保育など多様な保育の充実」の割合が27.1%となっています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「児童手当、児童扶養手当などの拡充」「保育料、教育費など経済的負担の軽減」「出産休暇や育児休業制度の普及」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「延長保育、乳児保育、病後児保育など多様な保育の充実」「親の急病などの際に臨時的な保育サービスの普及」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	児童手当、児童扶養手当などの拡充	保育料、教育費など経済的負担の軽減	延長保育、乳児保育、病後児保育など多様な保育の充実	職場内の保育施設の充実	親の急病などの際に臨時的な保育サービスの普及	地域の人々(高齢者を含む)による子育て支援	親同士の交流や仲間づくりの場や機会の提供
男性	359	37.6	48.5	22.8	13.1	10.3	8.1	7.5
女性	451	26.8	43.0	30.6	14.6	22.8	11.1	7.5

区分	出産休暇や育児休業制度の普及	子育て後の再就職の支援	育児相談の実施や育児講座の開催	安心・安全な地域づくり	わからない	その他	無回答
男性	18.4	23.7	1.7	17.8	3.1	3.6	15.9
女性	13.3	25.5	4.2	19.1	2.2	1.6	15.3

【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、いないに比べ、いるで「保育料、教育費など経済的負担の軽減」の割合が高くなっています。一方、いるに比べ、いないで「出産休暇や育児休業制度の普及」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	児童手当、児童扶養手当などの拡充	保育料、教育費など経済的負担の軽減	延長保育、乳児保育、病後児保育など多様な保育の充実	職場内の保育施設の充実	親の急病などの際に臨時的な保育サービス	地域の人々(高齢者を含む)による子育て支援	親同士の交流や仲間づくりの場や機会の提供
いる	598	32.4	48.8	28.3	12.9	18.1	9.4	8.5
いない	183	30.1	35.0	23.5	15.3	16.4	10.4	4.9

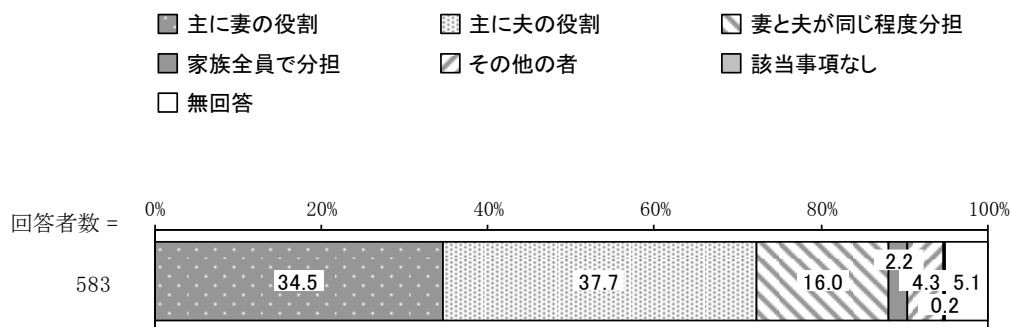
区分	出産休暇や育児休業制度の普及	子育て後の再就職の支援	育児相談の実施や育児講座の開催	安心・安全な地域づくり	わからない	その他	無回答
いる	13.5	24.9	3.3	19.1	1.8	2.0	15.1
いない	20.2	24.0	2.2	18.0	4.9	3.8	16.9

(4) 家庭生活全般について

問 14 <現在、配偶者のいらっしゃる方に伺います。>
 あなたのご家庭では、次にあげる家庭での役割を、主にどなたがしていますか。(①～⑭のそれぞれ1つに○)

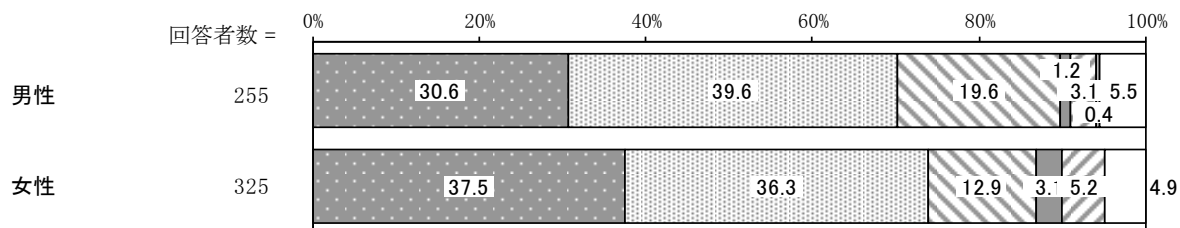
① ゴミ出し

「主に夫の役割」の割合が37.7%と最も高く、次いで「主に妻の役割」の割合が34.5%、「妻と夫が同じ程度分担」の割合が16.0%となっています。



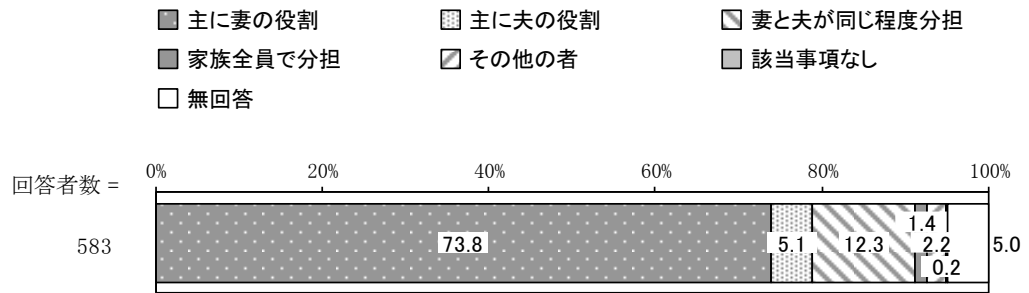
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「妻と夫が同じ程度分担」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「主に妻の役割」の割合が高くなっています。



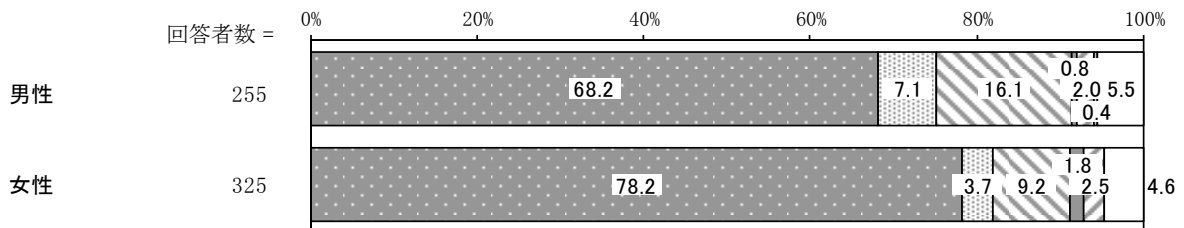
② 洗濯

「主に妻の役割」の割合が73.8%と最も高く、次いで「妻と夫が同じ程度分担」の割合が12.3%となっています。



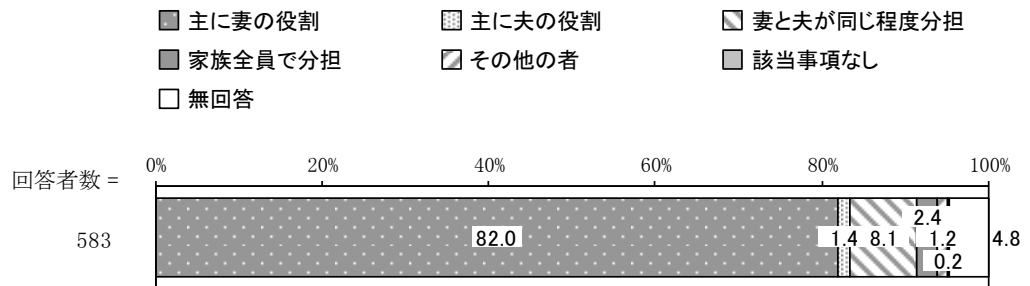
【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「妻と夫が同じ程度分担」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「主に妻の役割」の割合が高くなっています。



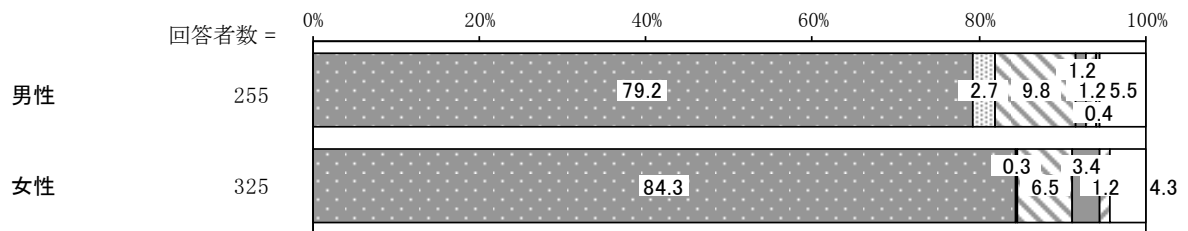
③ 食事の準備

「主に妻の役割」の割合が82.0%と最も高くなっています。



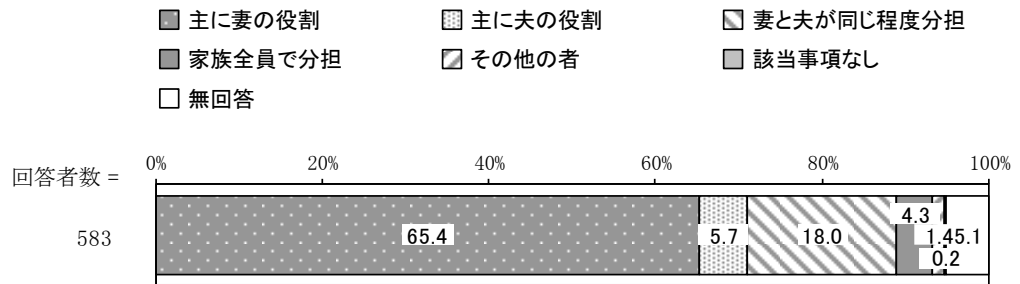
【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「主に妻の役割」の割合が高くなっています。



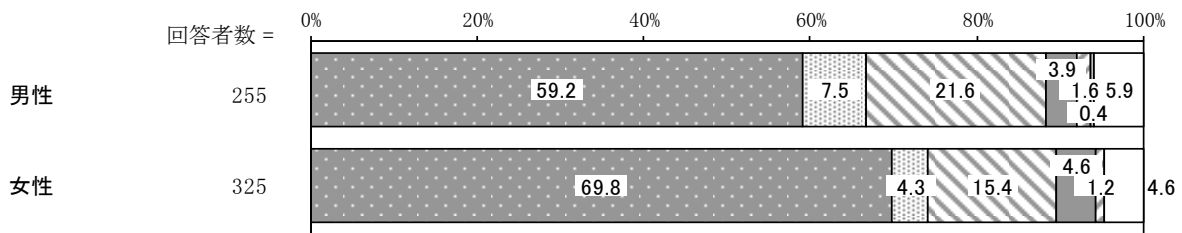
④ 食事の後かたづけ

「主に妻の役割」の割合が 65.4%と最も高く、次いで「妻と夫が同じ程度分担」の割合が 18.0%となっています。



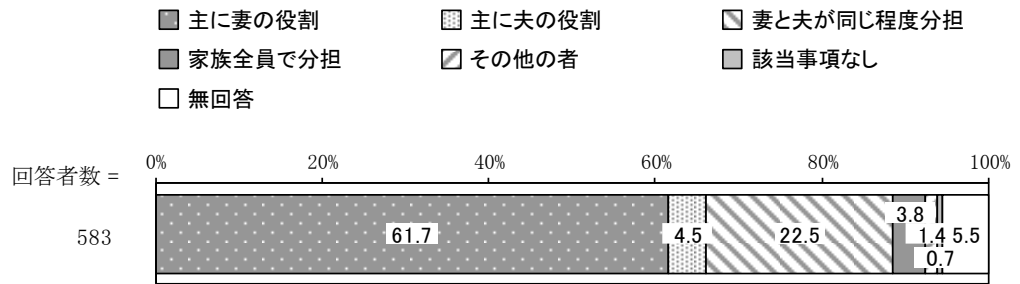
【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「妻と夫が同じ程度分担」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「主に妻の役割」の割合が高くなっています。



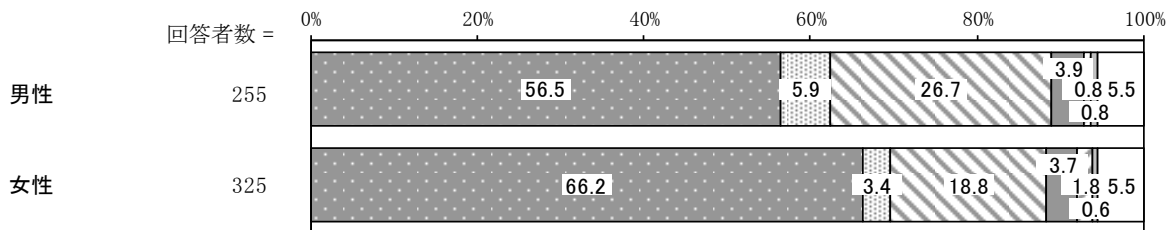
⑤ 掃除

「主に妻の役割」の割合が61.7%と最も高く、次いで「妻と夫が同じ程度分担」の割合が22.5%となっています。



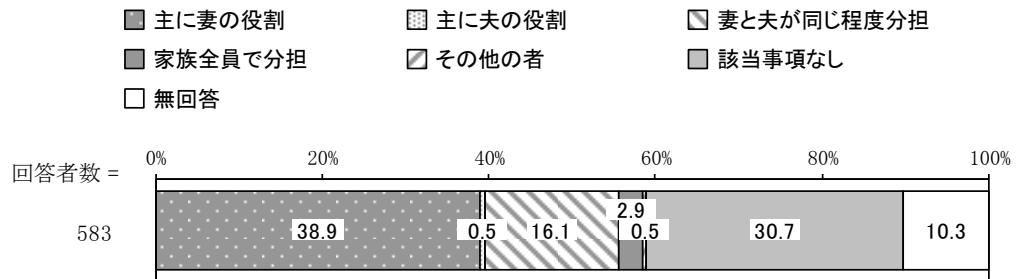
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「妻と夫が同じ程度分担」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「主に妻の役割」の割合が高くなっています。



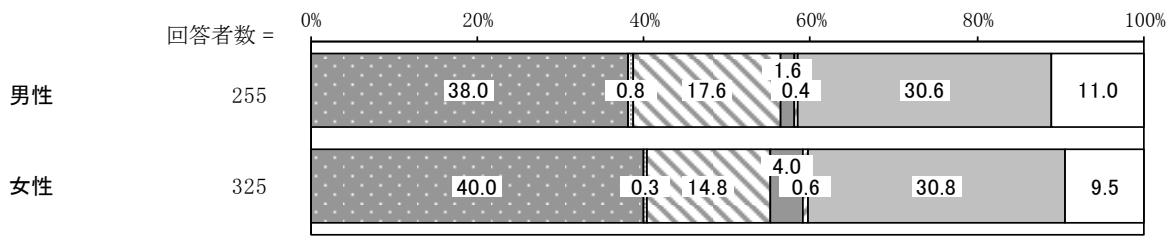
⑥ 育児

「主に妻の役割」の割合が38.9%と最も高く、次いで「該当事項なし」の割合が30.7%、「妻と夫が同じ程度分担」の割合が16.1%となっています。



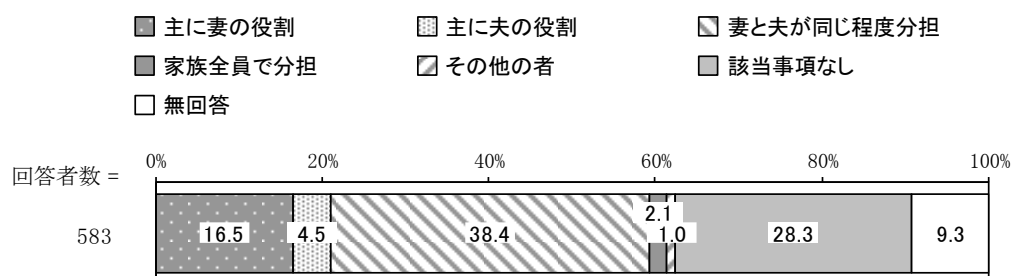
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



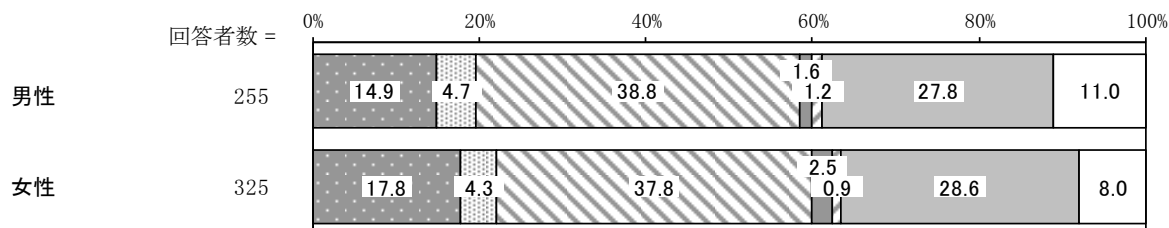
⑦ 子どもの教育方針の決定

「妻と夫が同じ程度分担」の割合が38.4%と最も高く、次いで「該当事項なし」の割合が28.3%、「主に妻の役割」の割合が16.5%となっています。



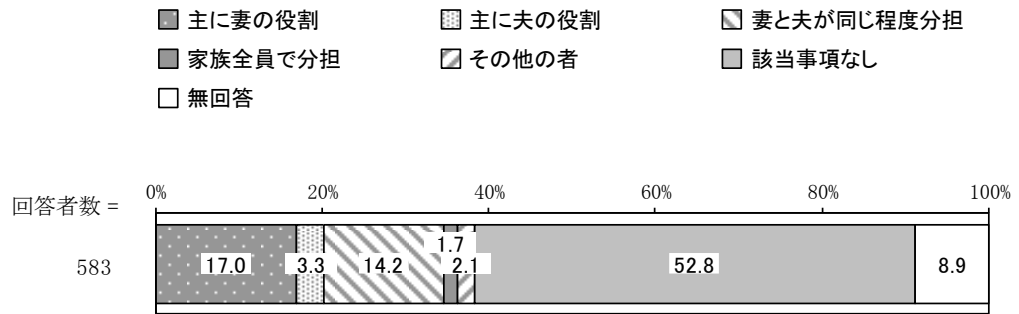
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



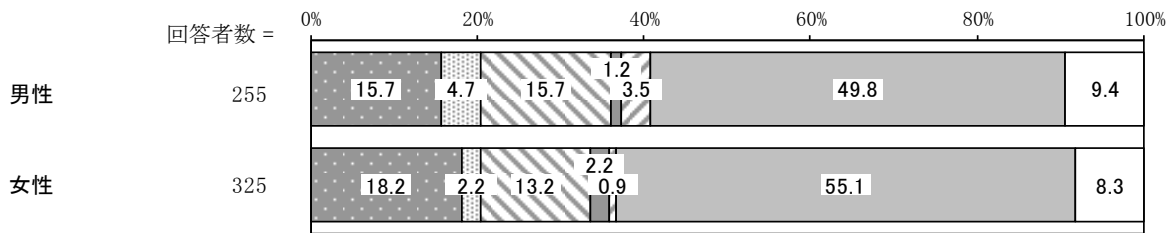
⑧ 親の世話（介護）

「該当事項なし」の割合が52.8%と最も高く、次いで「主に妻の役割」の割合が17.0%、「妻と夫が同じ程度分担」の割合が14.2%となっています。



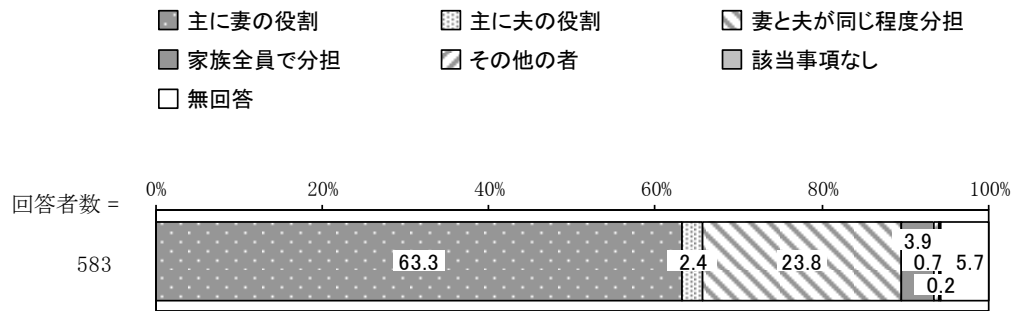
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「該当事項なし」の割合が高くなっています。



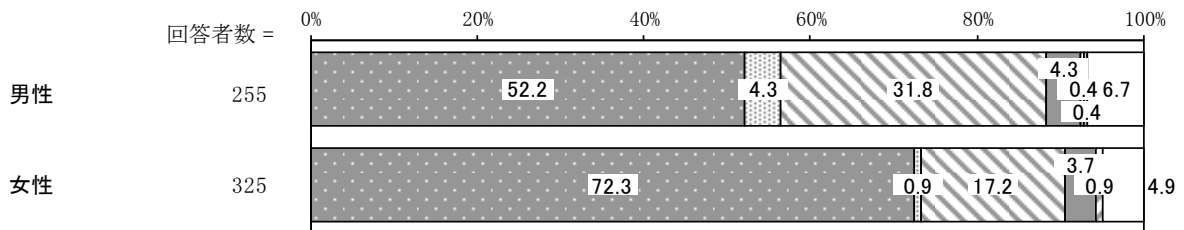
⑨ 日常の買い物

「主に妻の役割」の割合が 63.3%と最も高く、次いで「妻と夫が同じ程度分担」の割合が 23.8%となっています。



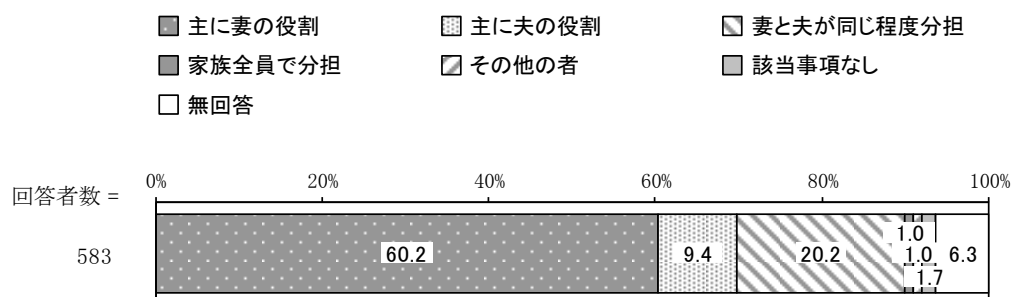
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「妻と夫が同じ程度分担」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「主に妻の役割」の割合が高くなっています。



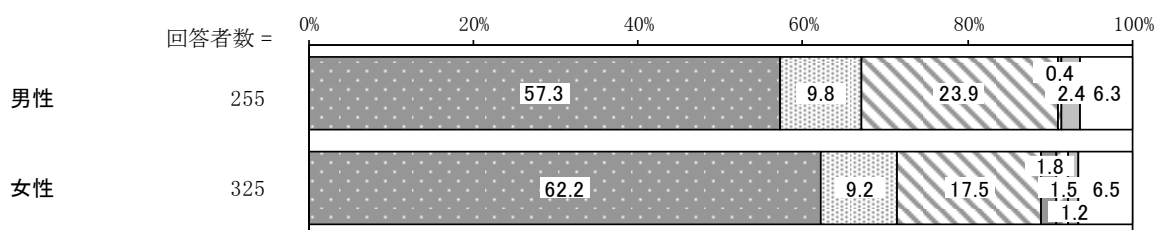
⑩ 日常の家計管理

「主に妻の役割」の割合が60.2%と最も高く、次いで「妻と夫が同じ程度分担」の割合が20.2%となっています。



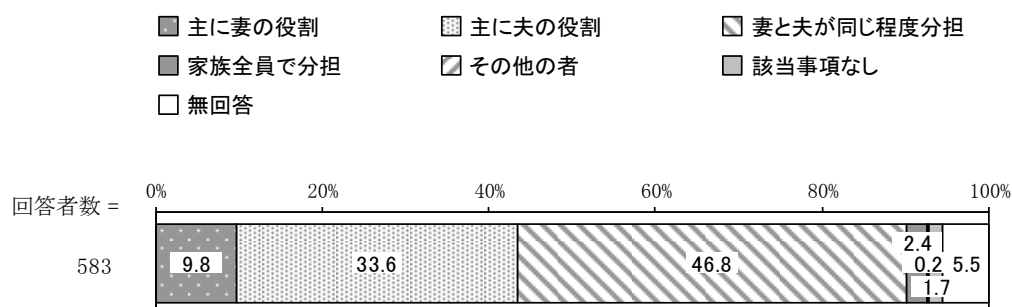
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「妻と夫が同じ程度分担」の割合が高くなっています。



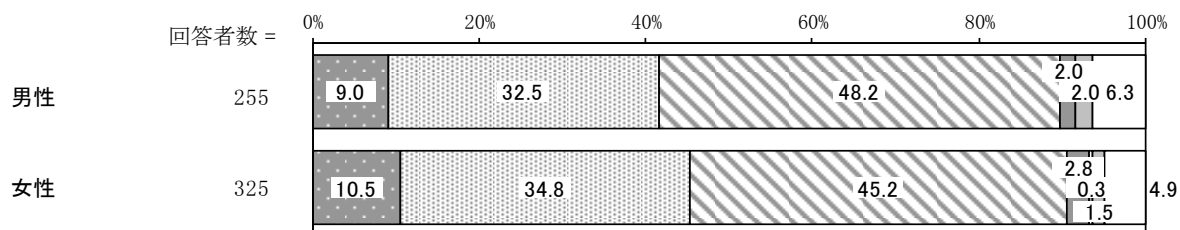
⑪ 高額な商品購入の決定

「妻と夫が同じ程度分担」の割合が46.8%と最も高く、次いで「主に夫の役割」の割合が33.6%となっています。



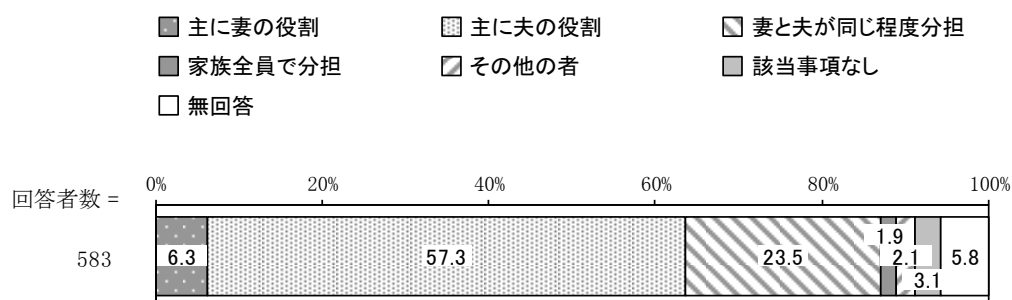
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



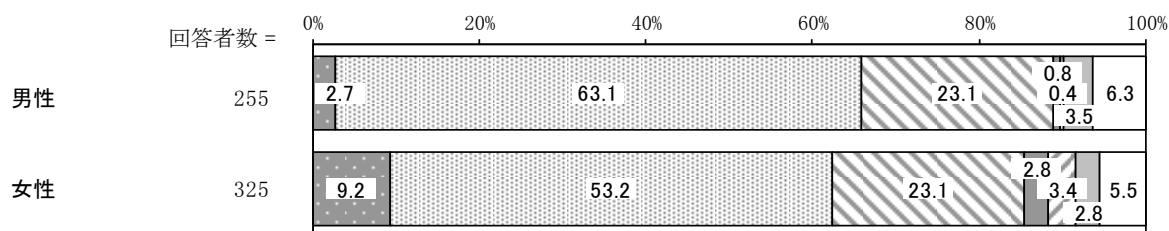
⑫ 住まいの簡単な修繕・維持管理

「主に夫の役割」の割合が 57.3%と最も高く、次いで「妻と夫が同じ程度分担」の割合が 23.5%となっています。



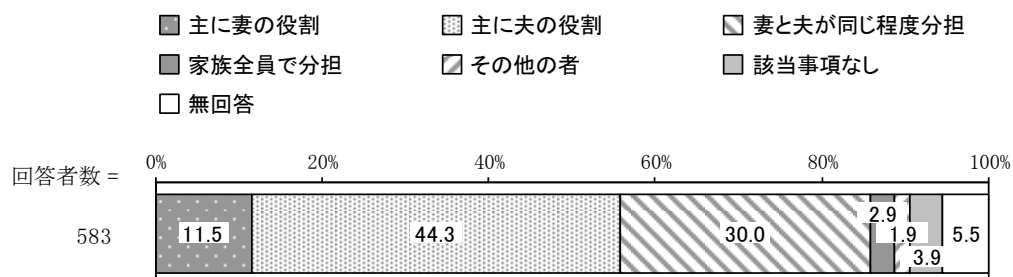
【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「主に夫の役割」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「主に妻の役割」の割合が高くなっています。



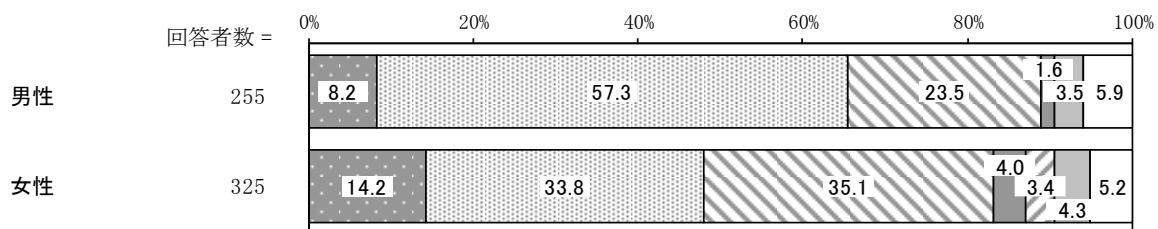
⑬ 地域行事への参加

「主に夫の役割」の割合が44.3%と最も高く、次いで「妻と夫が同じ程度分担」の割合が30.0%、「主に妻の役割」の割合が11.5%となっています。



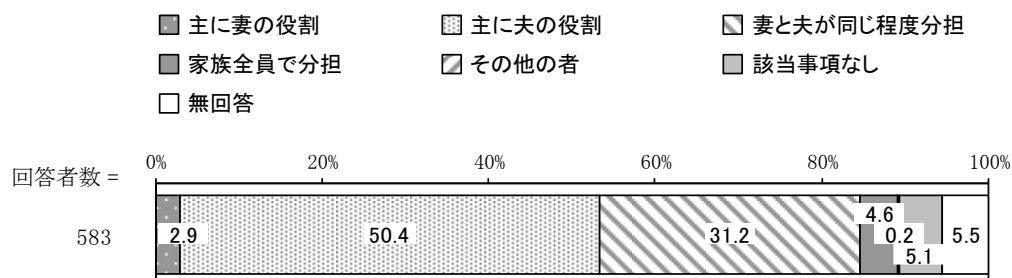
【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「主に夫の役割」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「主に妻の役割」「妻と夫が同じ程度分担」の割合が高くなっています。



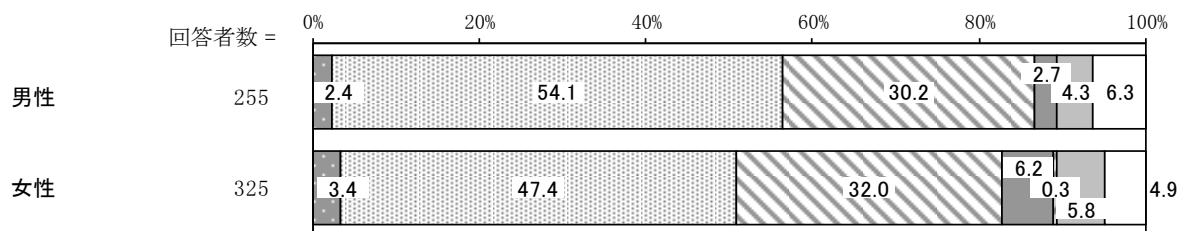
⑭ 家計を支える（生活費を稼ぐ）

「主に夫の役割」の割合が 50.4%と最も高く、次いで「妻と夫が同じ程度分担」の割合が 31.2%となっています。



【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「主に夫の役割」の割合が高くなっています。

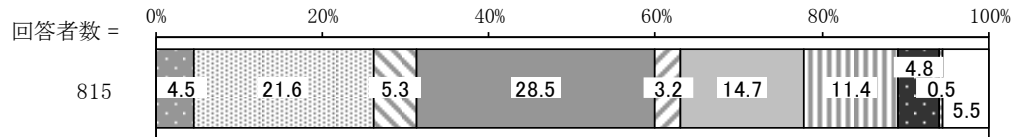


(5) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

問 15 生活の中での、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の優先度についてお伺いします。あなたの希望に最も近いものはどれですか。（1つに○）

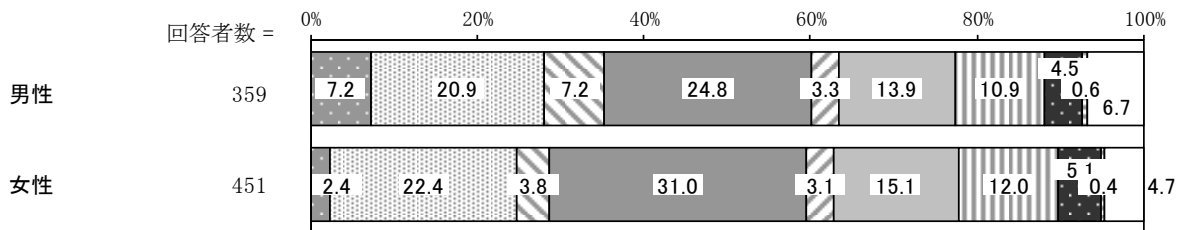
「仕事」と「家庭生活」を優先したい」の割合が 28.5%と最も高く、次いで「家庭生活」を優先したい」の割合が 21.6%、「家庭生活」と「地域・個人の生活」を優先したい」の割合が 14.7%となっています。

- 「仕事」を優先したい
- 「地域・個人の生活」を優先したい
- 「仕事」と「地域・個人の生活」を優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の全てを優先したい
- その他
- 「家庭生活」を優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」を優先したい
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」を優先したい
- わからない
- 無回答



【性別】

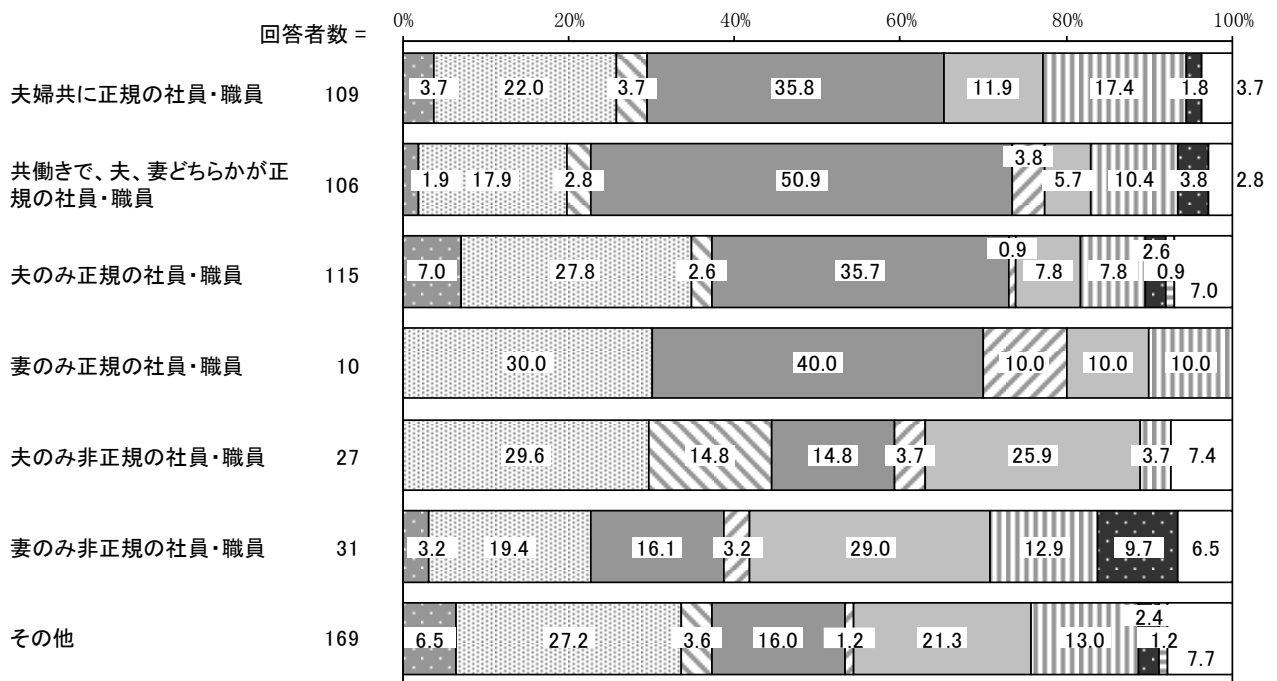
性別で見ると、男性に比べ、女性で「仕事」と「家庭生活」を優先したい」の割合が高くなっています。



【就労状況別】

就労状況別でみると、他に比べ、妻のみ正規の社員・職員で「家庭生活」を優先したい」「仕事」と「地域・個人の生活」を優先したい」の割合が高くなっています。また、他に比べ、共働きで、夫、妻どちらかが正規の社員・職員で「仕事」と「家庭生活」を優先したい」の割合が、妻のみ非正規の社員・職員で「家庭生活」と「地域・個人の生活」を優先したい」の割合が、夫婦共に正規の社員・職員で「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の全てを優先したい」の割合が高くなっています。

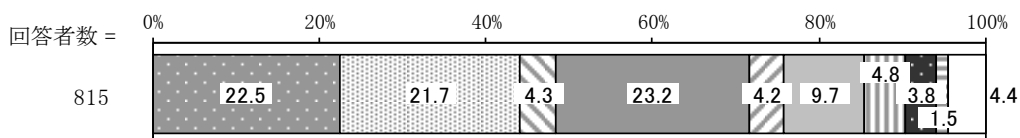
- 「仕事」を優先したい
- 「地域・個人の生活」を優先したい
- 「仕事」と「地域・個人の生活」を優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の全てを優先したい
- その他
- 「家庭生活」を優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」を優先したい
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」を優先したい
- わからない
- 無回答



問 16 あなたの現実（現状）に最も近いものはどれですか。（1つに○）

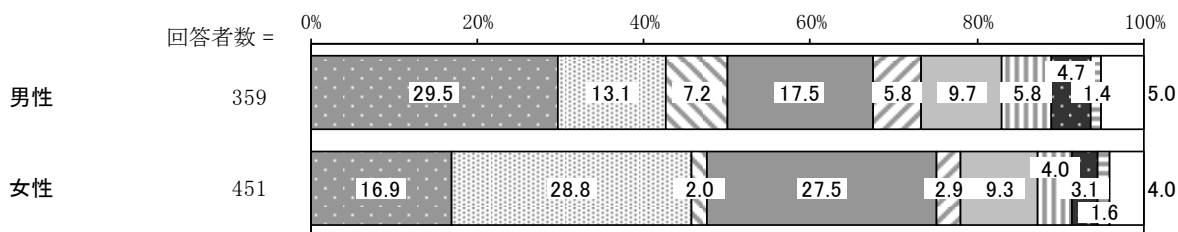
「仕事」と「家庭生活」を優先している」の割合が23.2%と最も高く、次いで「仕事」を優先している」の割合が22.5%、「家庭生活」を優先している」の割合が21.7%となっています。

- 「仕事」を優先している
- 「地域・個人生活」を優先している
- 「仕事」と「地域・個人生活」を優先している
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人生活」の全てを優先している
- その他
- 「家庭生活」を優先している
- 「仕事」と「家庭生活」を優先している
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」を優先している
- わからない
- 無回答



【性別】

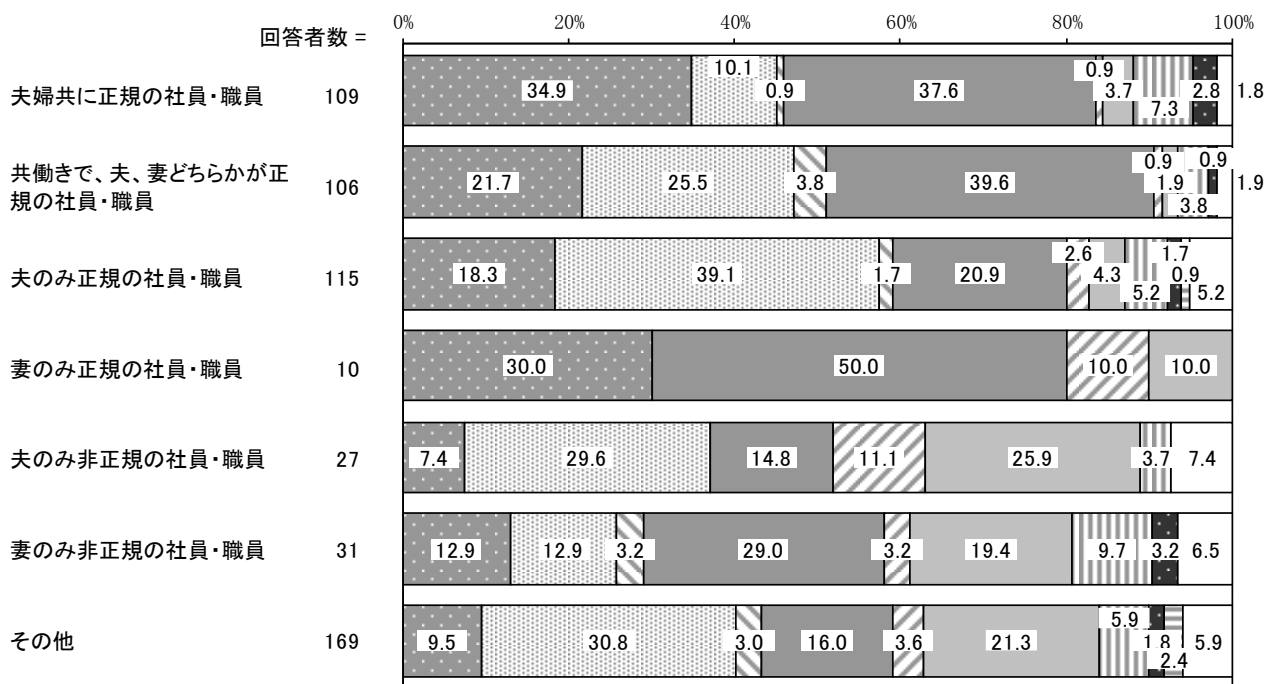
性別でみると、女性に比べ、男性で「仕事」を優先している」「地域・個人生活」を優先している」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「家庭生活」を優先している」「仕事」と「家庭生活」を優先している」の割合が高くなっています。



【就労状況別】

就労状況別でみると、他に比べ、夫婦共に正規の社員・職員で「仕事」を優先している」の割合が高くなっています。また、他に比べ、夫のみ正規の社員・職員で「家庭生活」を優先している」の割合が、妻のみ正規の社員・職員で「仕事」と「家庭生活」を優先している」の割合が、夫のみ非正規の社員・職員で「仕事」と「地域・個人生活」を優先している」「家庭生活」と「地域・個人の生活」を優先している」の割合が高くなっています。

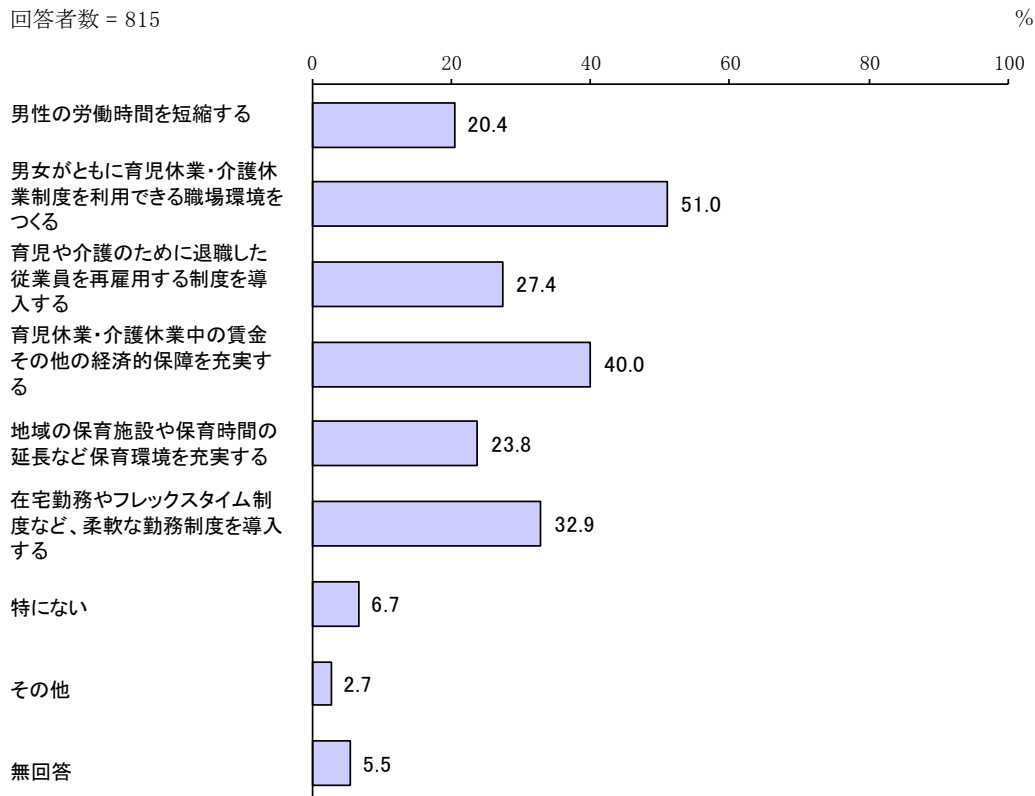
- 「仕事」を優先している
- 「地域・個人生活」を優先している
- 「仕事」と「地域・個人生活」を優先している
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人生活」の全てを優先している
- その他
- 「家庭生活」を優先している
- 「仕事」と「家庭生活」を優先している
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」を優先している
- わからない
- 無回答



問17 あなたは、男性と女性がともに仕事と家庭生活を両立させていけるような環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるもの3つ以内に○）

「男女がともに育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくる」の割合が51.0%と最も高く、次いで「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的保障を充実する」の割合が40.0%、「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入する」の割合が32.9%となっています。

回答者数 = 815



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「男性の労働時間を短縮する」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「男女がともに育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくる」「育児や介護のために退職した従業員を再雇用する制度を導入する」「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入する」の割合が高くなっています。

単位：％

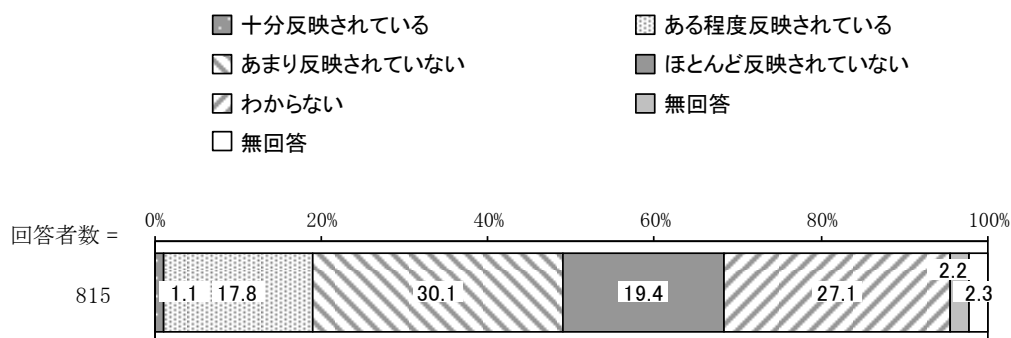
区分	有効回答数 (件)	男性の労働時間を短縮する	男女がともに育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくる	育児や介護のために退職した従業員を再雇用する制度を導入する	育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的保障を充実する	地域の保育施設や保育時間の延長など保育環境を充実する	在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入する	特になし	その他	無回答
男性	359	26.7	47.1	22.8	40.4	23.7	29.8	6.7	3.3	5.8
女性	451	15.3	54.3	30.8	39.7	23.9	35.3	6.9	2.0	5.3

(6) 女性の社会進出について

問 18 あなたは、次のような分野で女性の意見がどの程度反映されていると思いますか。(①～⑤のそれぞれ1つに○)

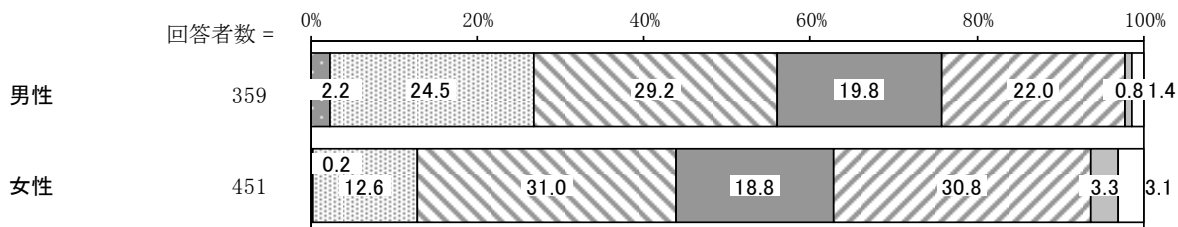
① 国会、県議会、市町議会などの政治の分野

「あまり反映されていない」の割合が30.1%と最も高く、次いで「わからない」の割合が27.1%、「ほとんど反映されていない」の割合が19.4%となっています。



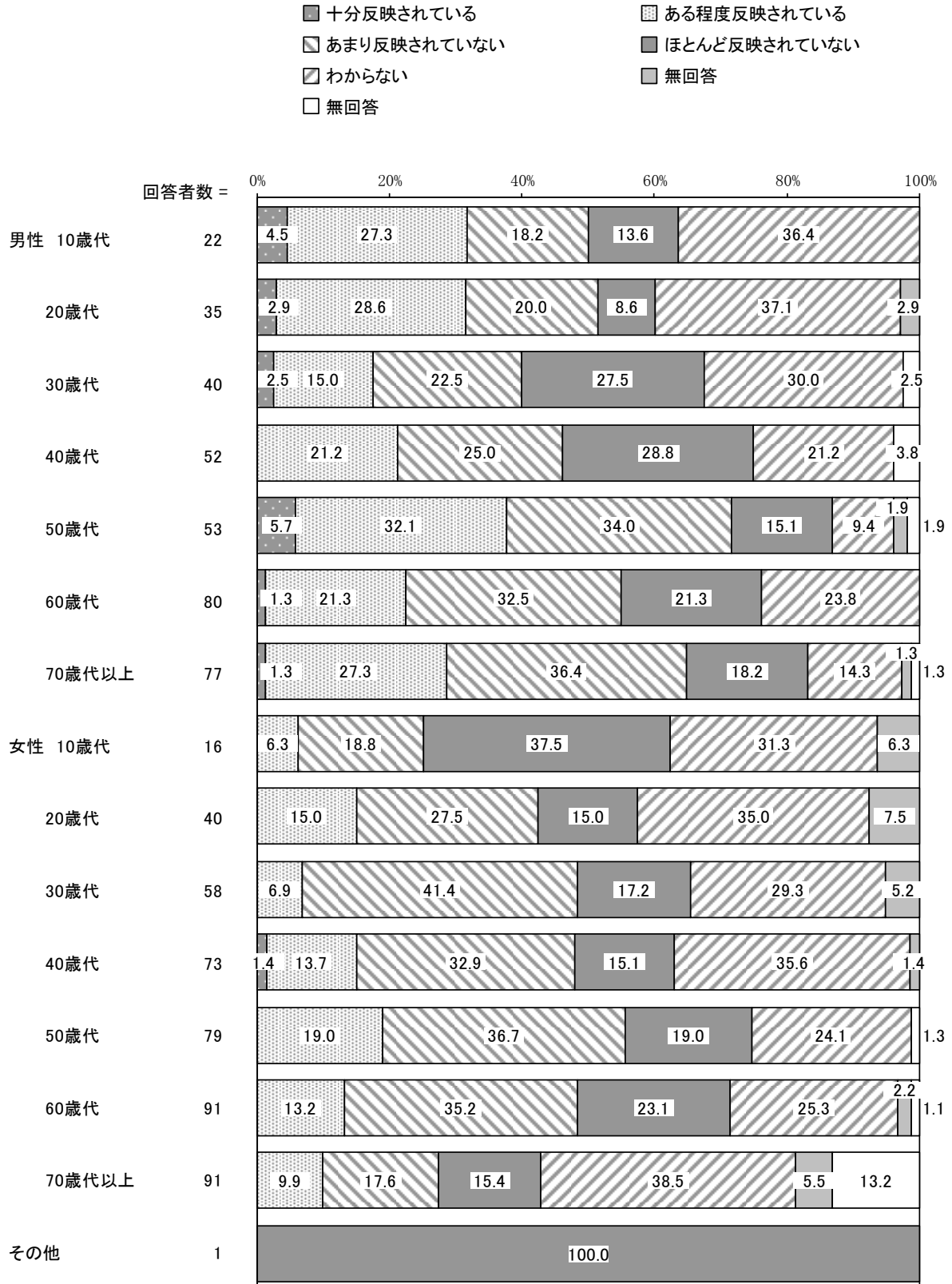
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「ある程度反映されている」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「わからない」の割合が高くなっています。



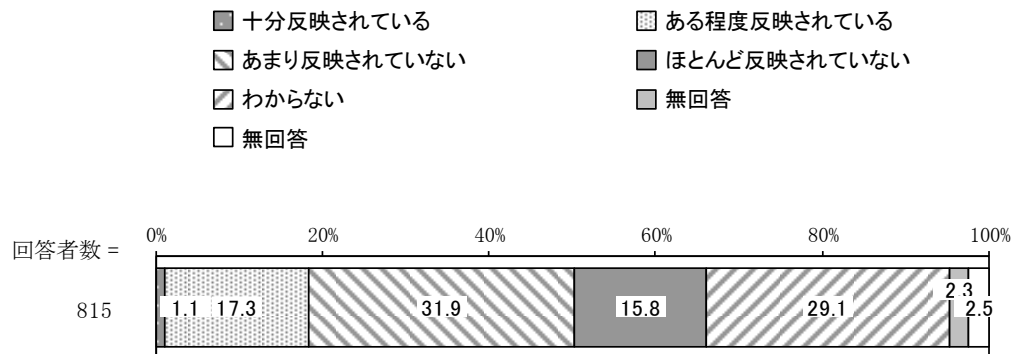
【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の50歳代で「ある程度反映されている」の割合が高くなっています。また、他に比べ、女性の30歳代で「あまり反映されていない」の割合が、女性の10歳代で「ほとんど反映されていない」の割合が、女性の70歳代以上で「わからない」の割合が高くなっています。



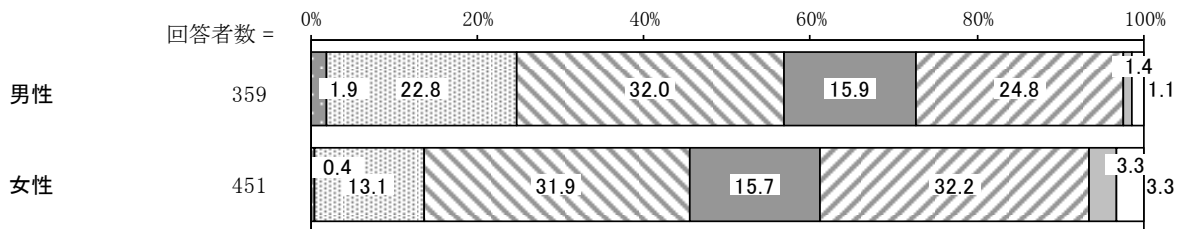
② 国、県、市町などの行政の分野

「あまり反映されていない」の割合が31.9%と最も高く、次いで「わからない」の割合が29.1%、「ある程度反映されている」の割合が17.3%となっています。



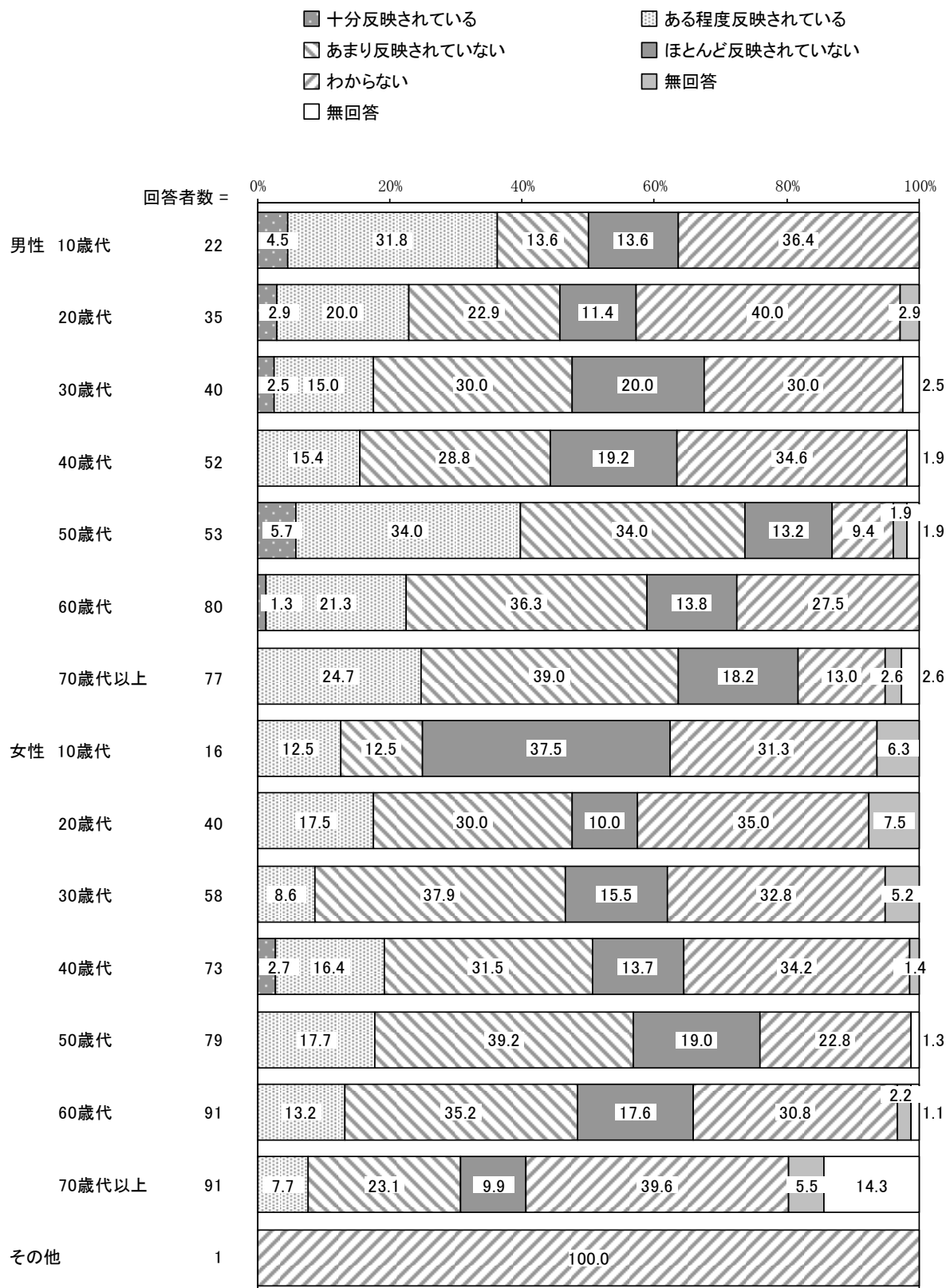
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「ある程度反映されている」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「わからない」の割合が高くなっています。



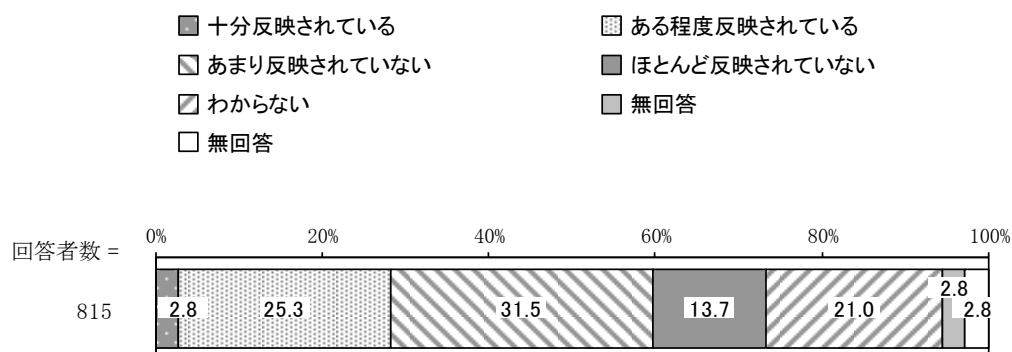
【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の50歳代で「ある程度反映されている」の割合が高くなっています。また、他に比べ、男性の70歳代以上、女性の50歳代で「あまり反映されていない」の割合が、女性の10歳代で「ほとんど反映されていない」の割合が、男性の20歳代で「わからない」の割合が高くなっています。



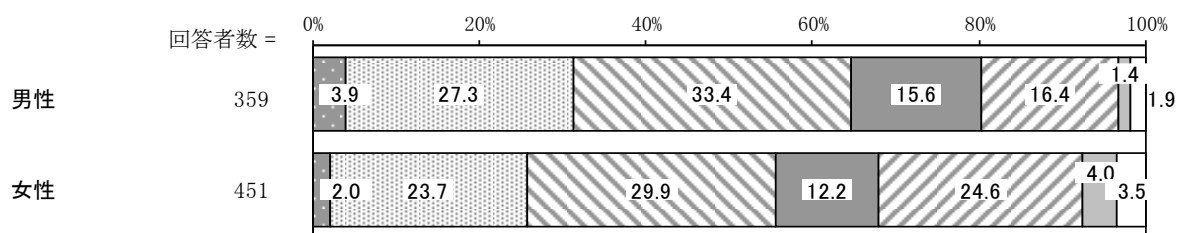
③ 企業などの職場の分野

「あまり反映されていない」の割合が31.5%と最も高く、次いで「ある程度反映されている」の割合が25.3%、「わからない」の割合が21.0%となっています。



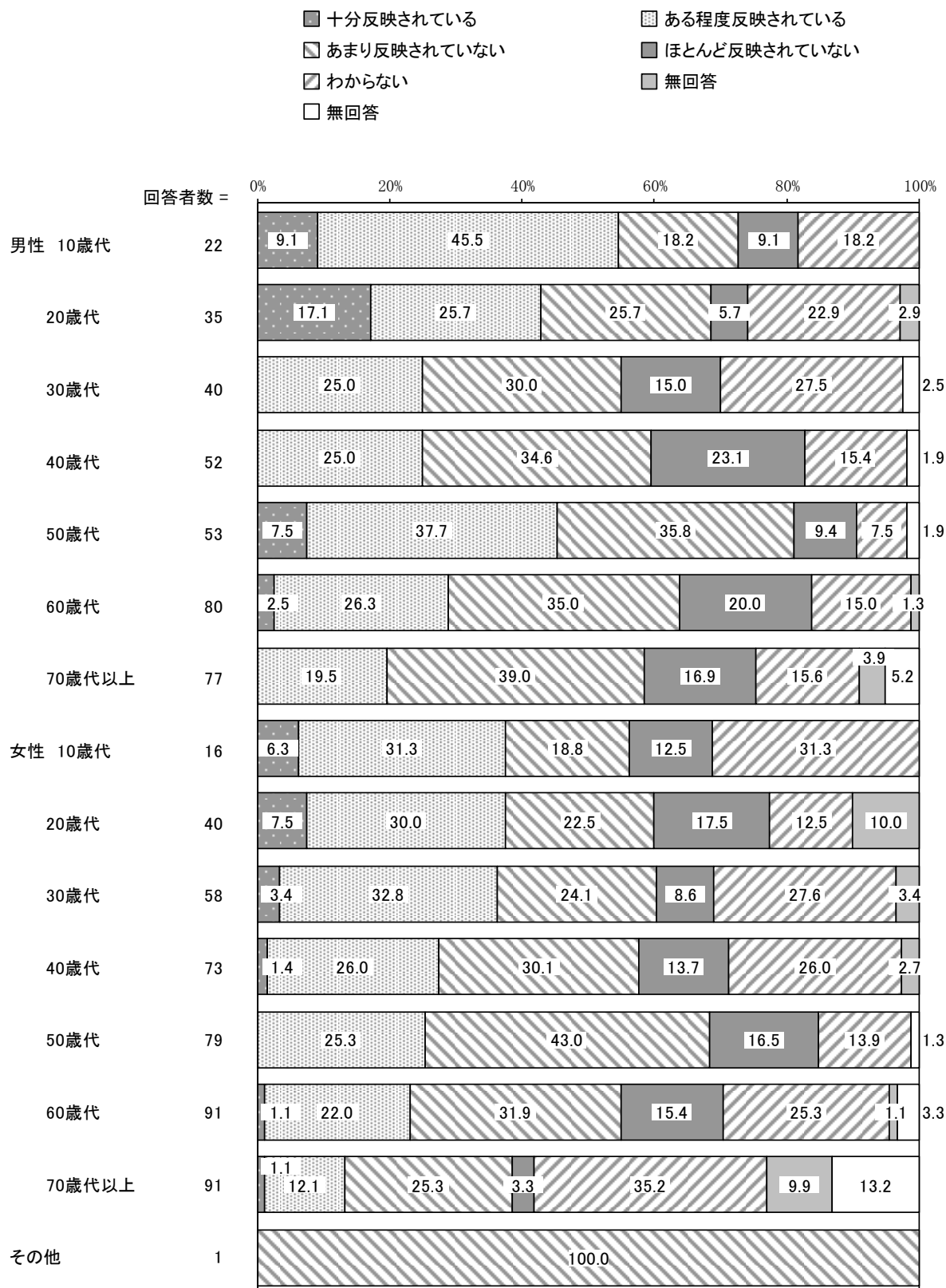
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「わからない」の割合が高くなっています。



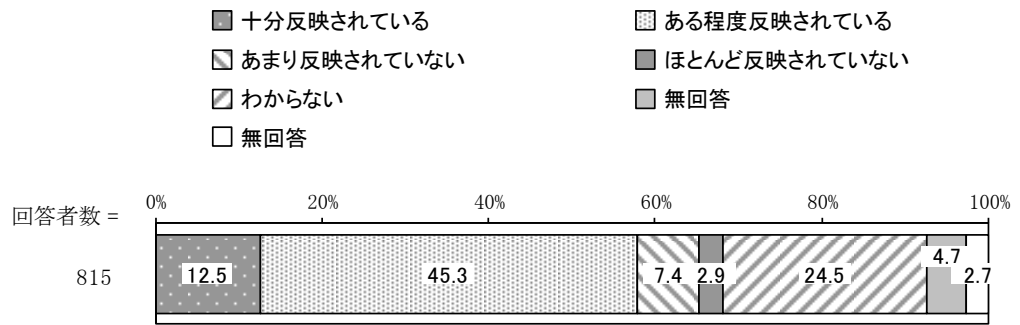
【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の20歳代で「十分反映されている」の割合が高くなっています。また、他に比べ、男性の10歳代で「ある程度反映されている」の割合が、女性の50歳代で「あまり反映されていない」の割合が、男性の40歳代で「ほとんど反映されていない」の割合が、女性の70歳代以上で「わからない」の割合が高くなっています。



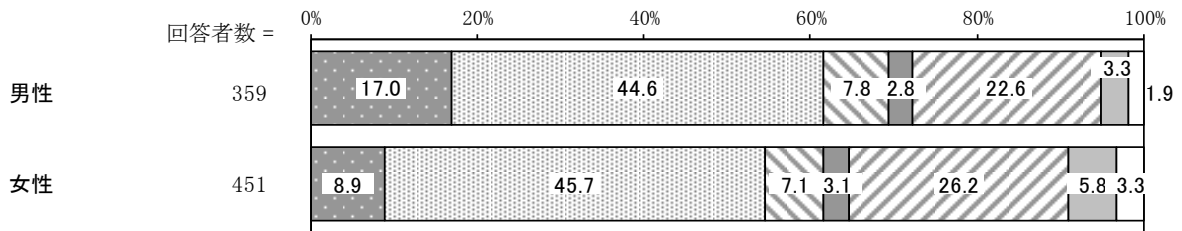
④ PTA などの学校活動の分野

「ある程度反映されている」の割合が45.3%と最も高く、次いで「わからない」の割合が24.5%、「十分反映されている」の割合が12.5%となっています。



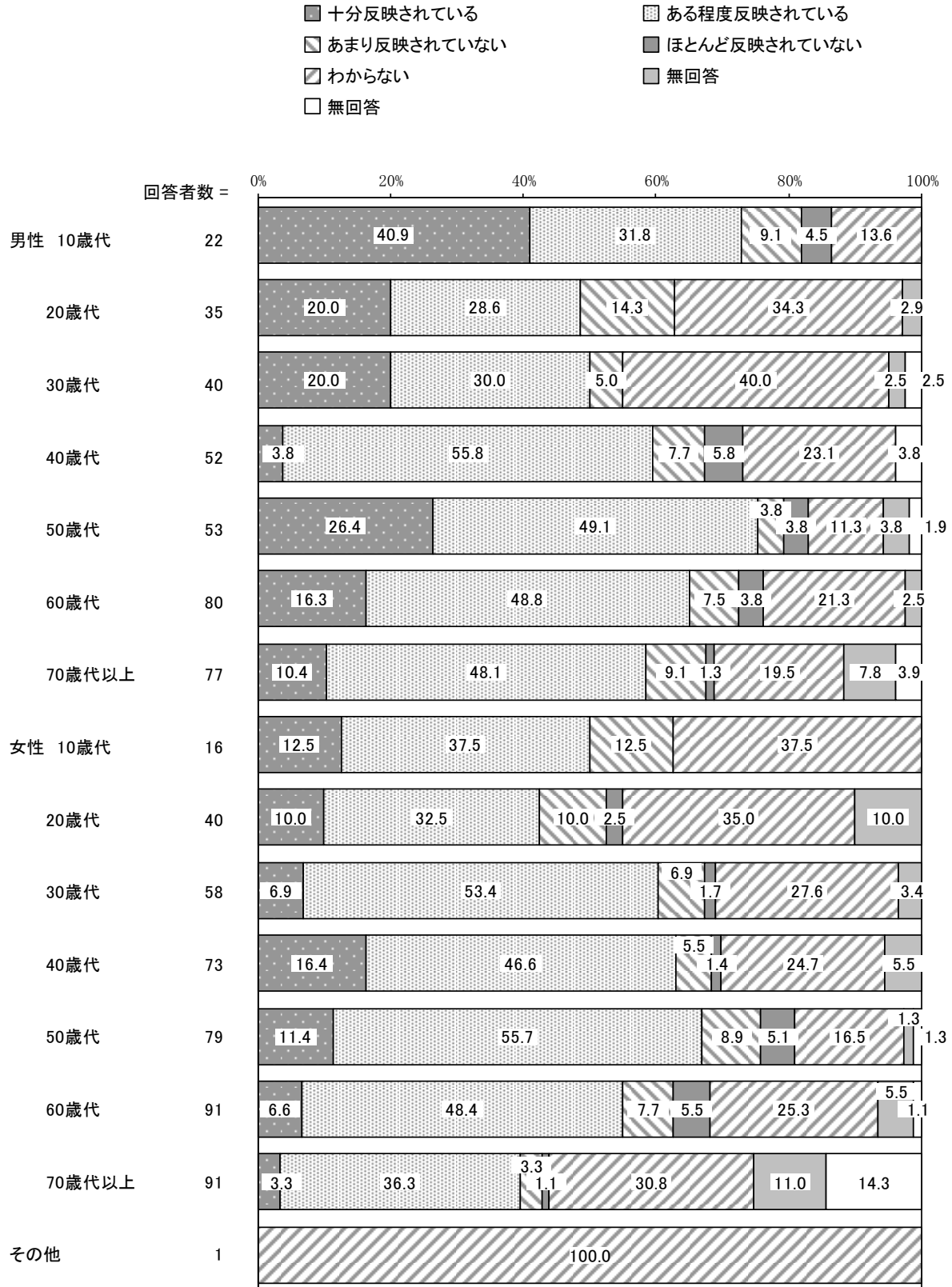
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「十分反映されている」の割合が高くなっています。



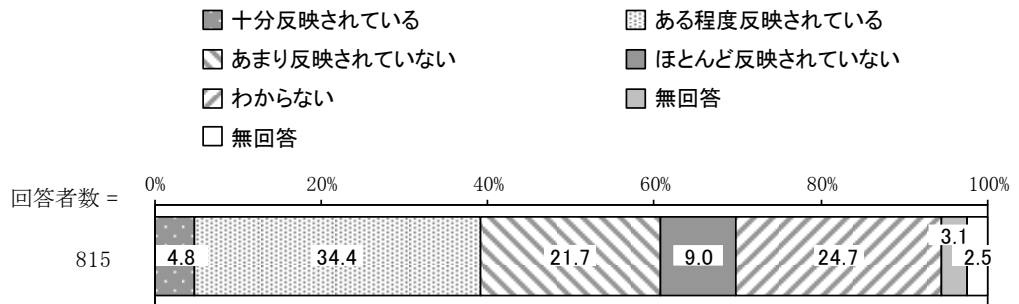
【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、女性に比べ、男性の年齢が低くなるほどで「十分反映されている」の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、男性の40歳代で「ある程度反映されている」の割合が、男性の20歳代で「あまり反映されていない」の割合が、男性の30歳代で「わからない」の割合が高くなっています。



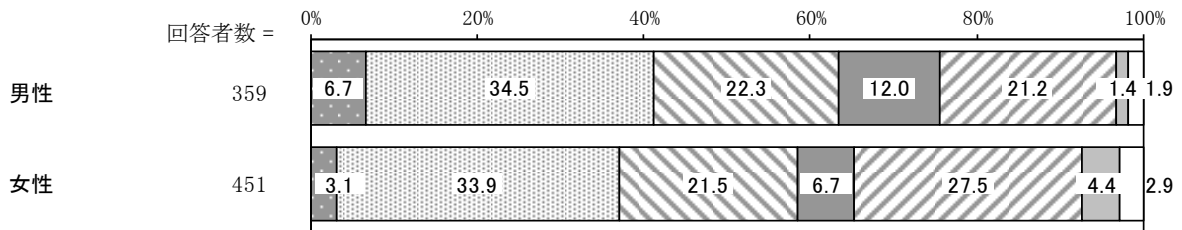
⑤ 町内会、まちづくり協議会などの地域活動の分野

「ある程度反映されている」の割合が34.4%と最も高く、次いで「わからない」の割合が24.7%、「あまり反映されていない」の割合が21.7%となっています。



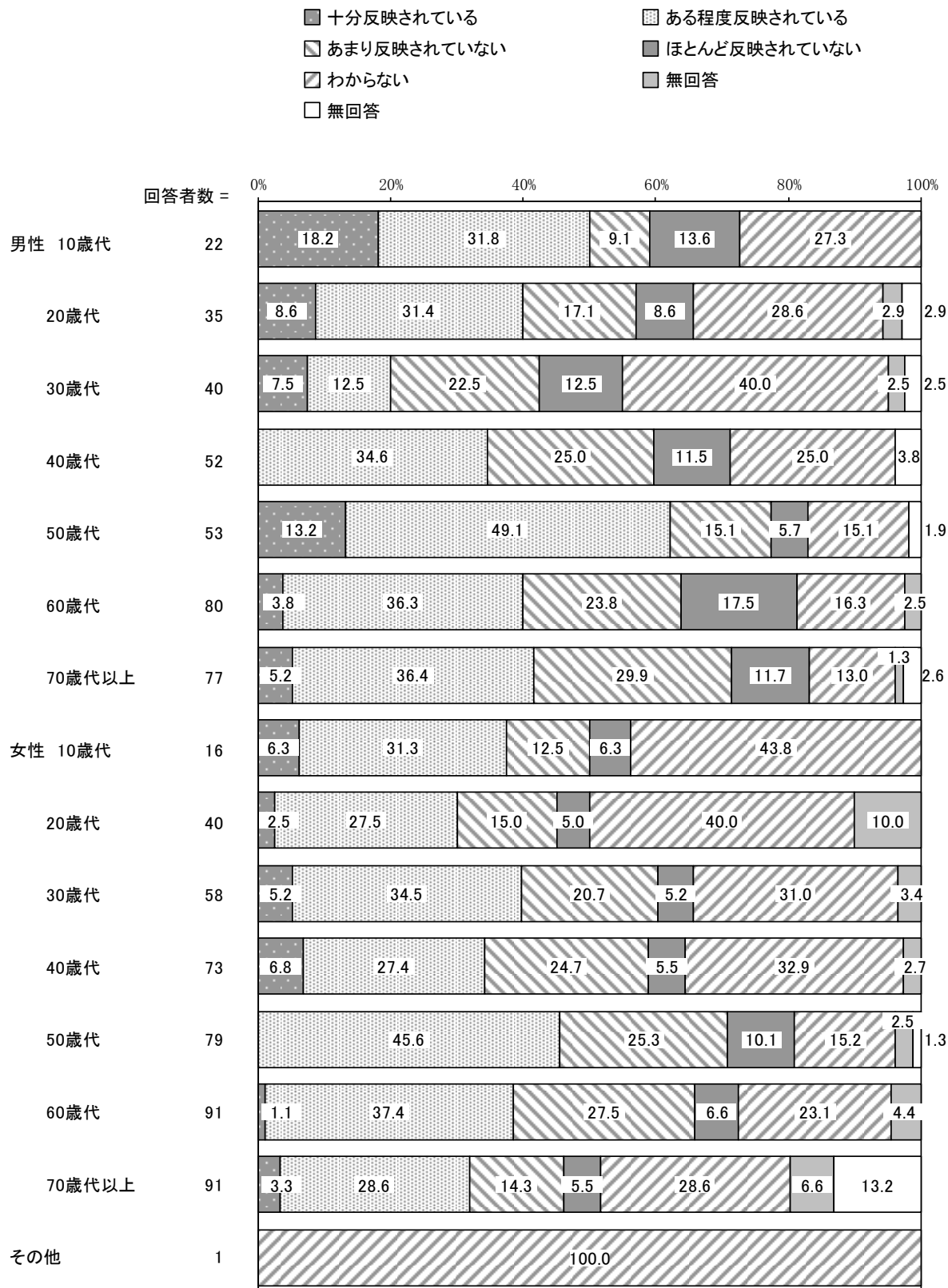
【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「ほとんど反映されていない」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「わからない」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

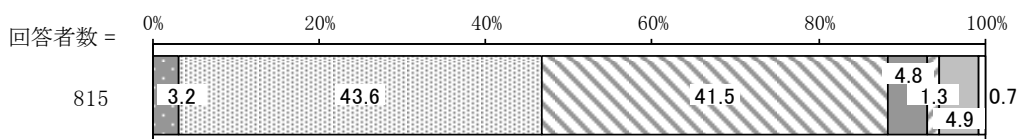
性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の10歳代で「十分反映されている」の割合が高くなっています。また、他に比べ、男性の50歳代で「ある程度反映されている」の割合が、男性の70歳代以上で「あまり反映されていない」の割合が、男性の60歳代で「ほとんど反映されていない」の割合が、女性の10歳代で「わからない」の割合が高くなっています。



問 19 あなたは、意思決定の場に女性が参画することについて、どのように考えますか。(1つに〇)

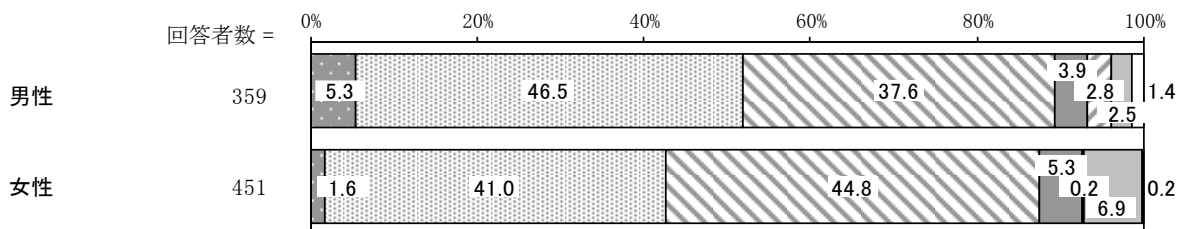
「男女半々になるくらいまで増える方がよい」の割合が43.6%と最も高く、次いで「男女半々まではいかなくても、今より増える方がよい」の割合が41.5%となっています。

- 男性を上回るほど増えた方がよい
- 男女半々になるくらいまで増える方がよい
- 男女半々まではいかなくても、今より増える方がよい
- 今のままでよい
- その他
- わからない
- 無回答



【性別】

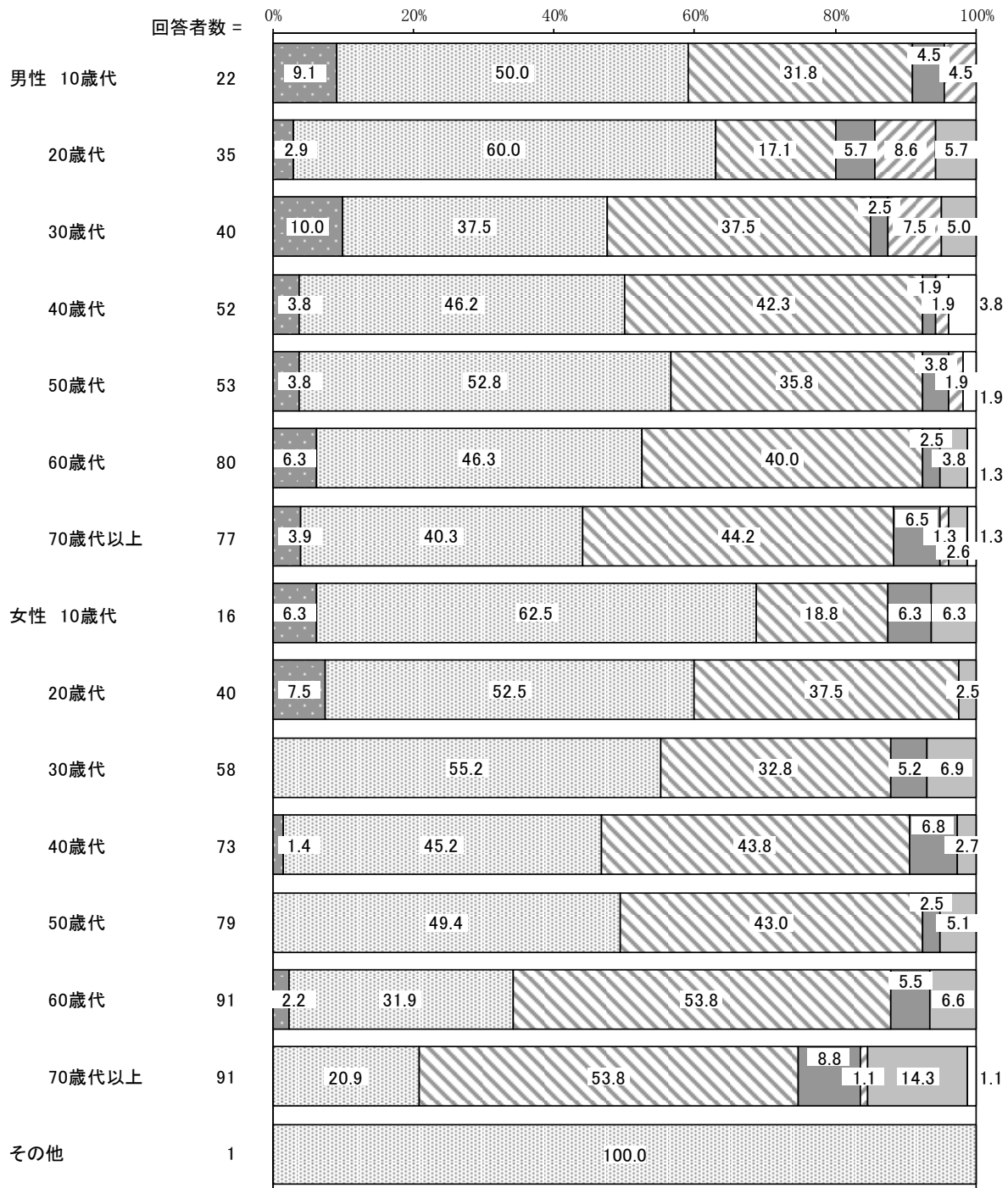
性別でみると、女性に比べ、男性で「男女半々になるくらいまで増える方がよい」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「男女半々まではいかなくても、今より増える方がよい」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、男性に比べ、女性の年齢が低くなるほど「男女半々になるくらいまでに増える方がよい」の割合が高くなる傾向がみられます。一方、男性に比べ、女性の年齢が高くなるにつれて「男女半々まではいかななくても、今より増える方がよい」の割合が高くなる傾向がみられます。

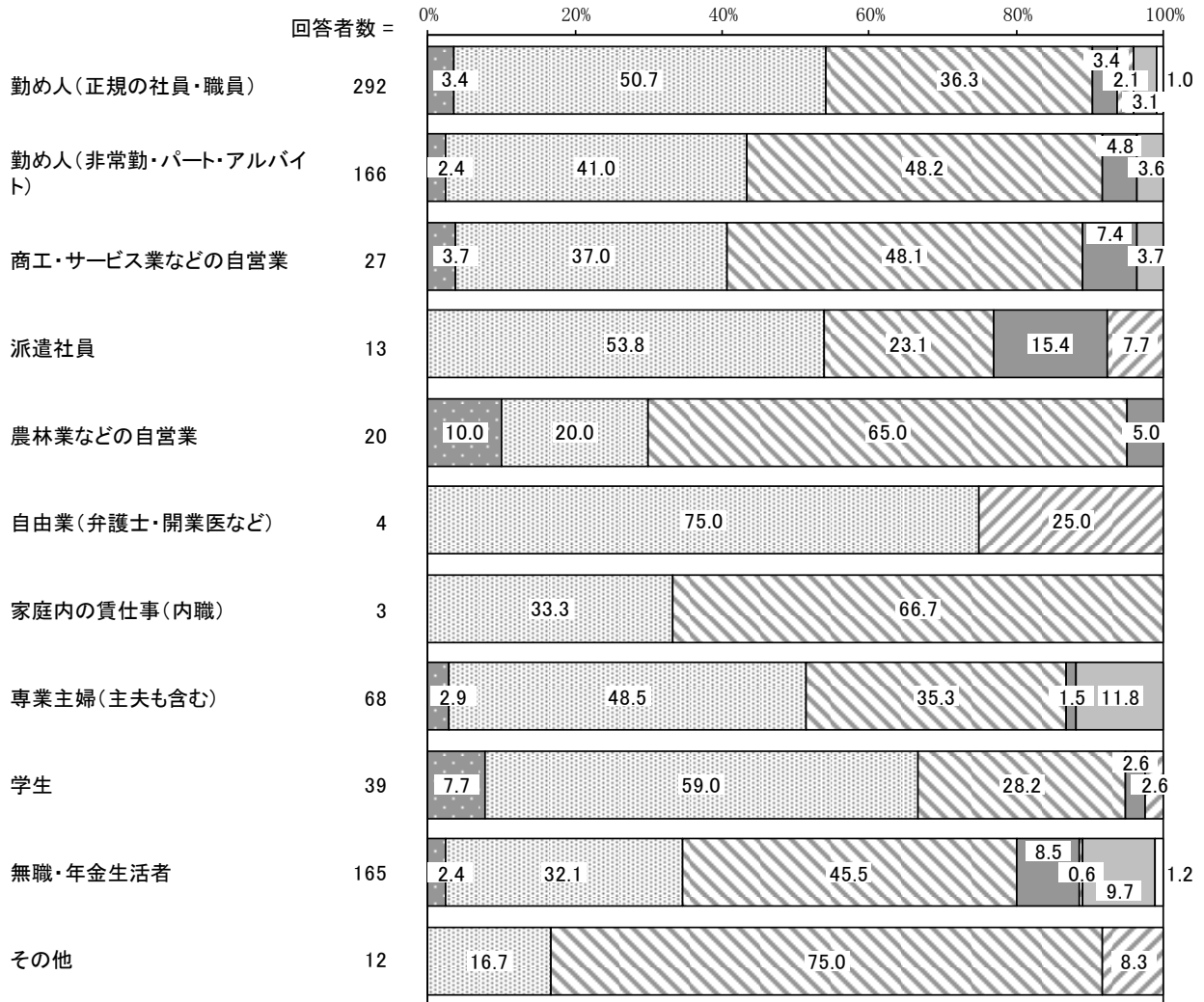
- 男性を上回るほど増えた方がよい
- 男女半々になるくらいまでに増える方がよい
- 男女半々まではいかななくても、今より増える方がよい
- 今のままでよい
- その他
- わからない
- 無回答



【職業別】

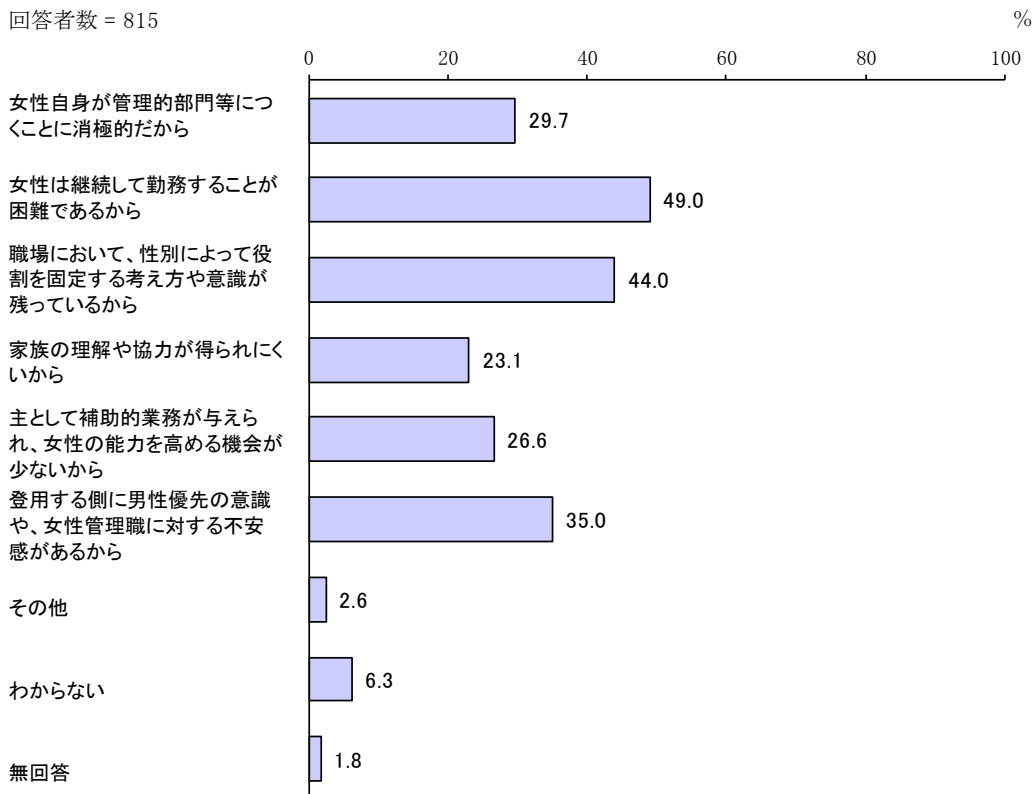
職業別でみると、他に比べ、学生で「男女半々になるくらいまでに増える方がよい」の割合が高くなっています。また、他に比べ、勤め人（非常勤・パート・アルバイト）、商工・サービス業などの自営業で「男女半々まではいかなくても、今より増える方がよい」の割合が、派遣社員で「今のままでよい」の割合が高くなっています。

- 男性を上回るほど増えた方がよい
- 男性半々になるくらいまでに増える方がよい
- 男女半々まではいかなくても、今より増える方がよい
- 今のままでよい
- その他
- わからない
- 無回答



問 20 現状では、意思決定を行う管理的部門や指導的地位への女性登用が未だ少ない状況にあります。あなたは、その理由としてどのようなものがあると考えますか。（あてはまるもの3つ以内に○）

「女性は継続して勤務することが困難であるから」の割合が49.0%と最も高く、次いで「職場において、性別によって役割を固定する考え方や意識が残っているから」の割合が44.0%、「登用する側に男性優先の意識や、女性管理職に対する不安感があるから」の割合が35.0%となっています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「職場において、性別によって役割を固定する考え方や意識が残っているから」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「女性は継続して勤務することが困難であるから」「家族の理解や協力が得られにくいから」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	女性自身が管理的部門等につくことに消極的だから	女性は継続して勤務することが困難であるから	職場において、性別によって役割を固定する考え方や意識が残っているから	家族の理解や協力が得られにくいから	主として補助的業務が与えられ、女性の能力を高める機会が少ないから	登用する側に男性優先の意識や、女性管理職に対する不安感があるから	その他	わからない	無回答
男性	359	29.8	41.5	47.6	18.1	27.9	37.6	3.3	6.1	2.8
女性	451	29.7	55.0	41.0	27.1	25.1	32.8	1.8	6.4	1.1

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、女性の60歳代で「女性自身が管理的部門等につくことに消極的だから」の割合が高くなっています。また、女性の20歳代で「女性は継続して勤務することが困難であるから」の割合が、女性の30歳代で「女性は継続して勤務することが困難であるから」「家族の理解や協力が得られにくいから」の割合が、男性の10歳代、20歳代で「職場において、性別によって役割を固定する考え方や意識が残っているから」の割合が、女性の70歳代以上で「主として補助的業務が与えられ、女性の能力を高める機会が少ないから」の割合が、男性の60歳代で「登用する側に男性優先の意識や、女性管理職に対する不安感があるから」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	女性自身が管理的部門等につくことに消極的だから	女性は継続して勤務することが困難であるから	職場において、性別によって役割を固定する考え方や意識が残っているから	家族の理解や協力が得られにくいから	主として補助的業務が与えられ、女性の能力を高める機会が少ないから	登用する側に男性優先の意識や、女性管理職に対する不安感があるから	その他	わからない	無回答
男性 10歳代	22	31.8	40.9	54.5	13.6	18.2	22.7	4.5	18.2	—
20歳代	35	28.6	34.3	54.3	20.0	20.0	37.1	2.9	11.4	—
30歳代	40	25.0	45.0	52.5	20.0	20.0	35.0	5.0	5.0	—
40歳代	52	26.9	44.2	40.4	25.0	32.7	32.7	3.8	1.9	3.8
50歳代	53	32.1	54.7	45.3	24.5	20.8	32.1	1.9	5.7	3.8
60歳代	80	35.0	33.8	55.0	12.5	33.8	50.0	3.8	3.8	2.5
70歳代以上	77	27.3	40.3	39.0	14.3	33.8	37.7	2.6	6.5	5.2
女性 10歳代	16	6.3	43.8	50.0	12.5	25.0	31.3	—	12.5	6.3
20歳代	40	32.5	65.0	32.5	20.0	17.5	17.5	7.5	5.0	—
30歳代	58	29.3	65.5	39.7	34.5	20.7	34.5	3.4	3.4	—
40歳代	73	32.9	56.2	37.0	31.5	15.1	30.1	2.7	2.7	—
50歳代	79	29.1	48.1	50.6	22.8	25.3	38.0	—	10.1	2.5
60歳代	91	39.6	60.4	37.4	33.0	29.7	36.3	—	2.2	1.1
70歳代以上	91	22.0	46.2	41.8	23.1	34.1	31.9	1.1	12.1	1.1
その他	1	100.0	—	100.0	—	100.0	—	—	—	—

【職業別】

職業別でみると、他に比べ、商工・サービス業などの自営業で「女性自身が管理的部門等につくことに消極的だから」「登用する側に男性優先の意識や、女性管理職に対する不安感があるから」の割合が高くなっています。また、勤め人（非常勤・パート・アルバイト）で「女性は継続して勤務することが困難であるから」の割合が、学生で「職場において、性別によって役割を固定する考え方や意識が残っているか」の割合が、農林業などの自営業で「主として補助的業務が与えられ、女性の能力を高める機会が少ないから」の割合が高くなっています。

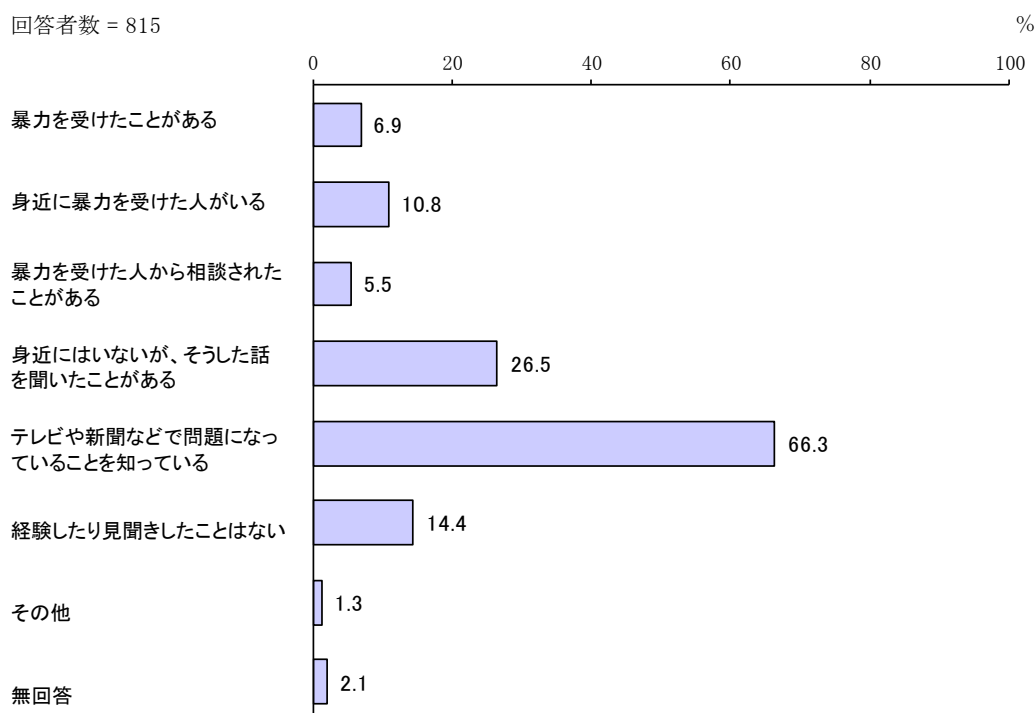
単位：％

区分	有効回答数（件）	女性自身が管理的部門等につくことに消極的だから	女性は継続して勤務することが困難であるから	職場において、性別によって役割を固定する考え方や意識が残っているから	家族の理解や協力が得られにくいから	主として補助的業務が与えられ、女性の能力を高める機会が少ないから	登用する側に男性優先の意識や、女性管理職に対する不安感があるから	その他	わからない	無回答
勤め人（正規の社員・職員）	292	34.9	48.6	49.3	21.9	25.0	33.2	3.8	4.1	1.0
勤め人（非常勤・パート・アルバイト）	166	31.3	59.6	32.5	26.5	22.3	35.5	0.6	4.8	3.0
商工・サービス業などの自営業	27	40.7	44.4	44.4	22.2	29.6	55.6	—	3.7	—
派遣社員	13	15.4	38.5	46.2	23.1	23.1	23.1	15.4	7.7	7.7
農林業などの自営業	20	30.0	35.0	45.0	25.0	40.0	50.0	—	10.0	—
自由業（弁護士・開業医など）	4	—	50.0	25.0	25.0	25.0	50.0	—	25.0	—
家庭内の賃仕事（内職）	3	—	—	66.7	66.7	66.7	66.7	—	—	—
専業主婦（主夫も含む）	68	22.1	54.4	47.1	26.5	19.1	33.8	1.5	7.4	—
学生	39	15.4	46.2	53.8	20.5	17.9	28.2	2.6	10.3	—
無職・年金生活者	165	26.7	44.2	42.4	19.4	34.5	35.2	1.8	9.7	2.4
その他	12	25.0	25.0	41.7	25.0	41.7	25.0	16.7	—	8.3

(7-1) 男女間等の暴力（ドメスティック・バイオレンス＝DV）について

問 21 これまでに、「夫や妻・恋人など親しい間柄にある男女間の暴力」（DV）について、経験したり見聞きしたことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

「テレビや新聞などで問題になっていることを知っている」の割合が 66.3%と最も高く、次いで「身近にはいないが、そうした話を聞いたことがある」の割合が 26.5%、「経験したり見聞きしたことはない」の割合が 14.4%となっています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「暴力を受けたことがある」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	暴力を受けたことがある	身近に暴力を受けた人がいる	暴力を受けた人から相談されたことがある	身近にはいないが、そうした話を聞いたことがある	テレビや新聞などで問題になっていることを知っている	経験したり見聞きしたことはない	その他	無回答
男性	359	1.7	10.3	3.3	24.8	66.0	15.9	1.1	2.8
女性	451	11.1	11.3	6.9	27.5	66.5	13.3	1.3	1.6

【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の60歳代で「暴力を受けたことがある」の割合が高くなっています。また、男性の20歳代で「身近に暴力を受けた人がある」の割合が、女性の30歳代で「身近にはいないが、そうした話を聞いたことがある」の割合が、男性の10歳代で「経験したり見聞きしたことはない」の割合が、男性の60歳代で「テレビや新聞などで問題になっていることを知っている」の割合が高くなっています。

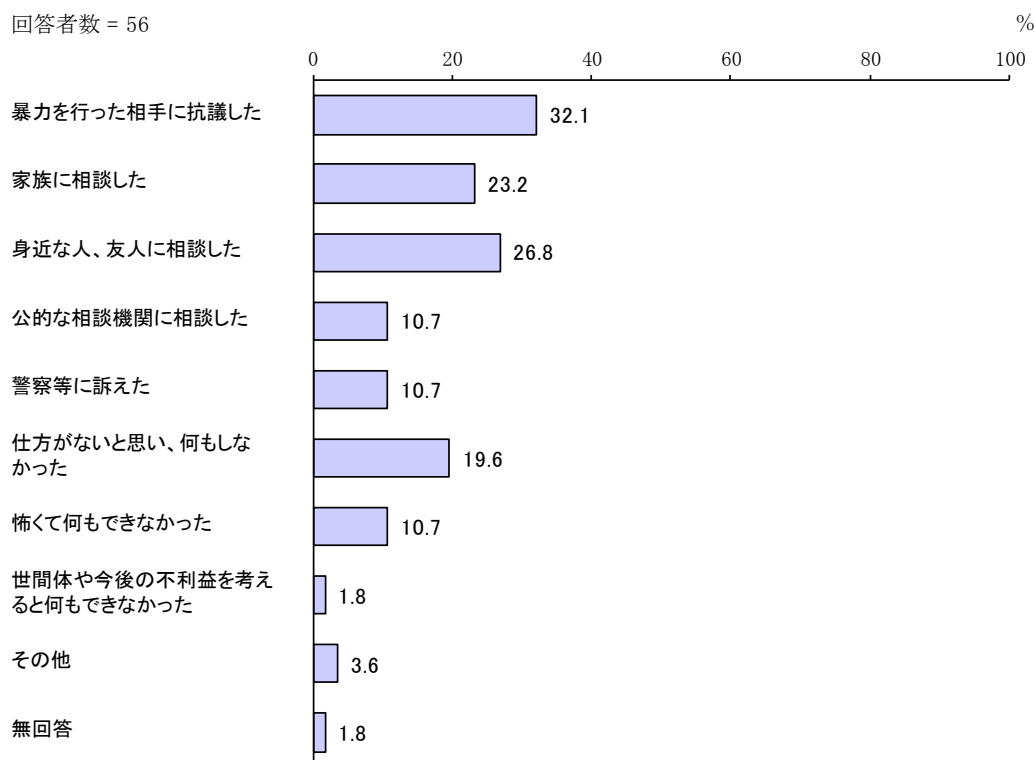
単位：％

区分	有効回答数(件)	ある暴力を受けたことがある	身近に暴力を受けた人がある	暴力を受けた人から相談されたことがある	身近にはいないが、そうした話を聞いたことがある	テレビや新聞などで問題になっていることを知っている	経験したり見聞きしたことはない	その他	無回答
男性 10歳代	22	—	—	4.5	9.1	45.5	40.9	—	4.5
20歳代	35	—	17.1	2.9	25.7	54.3	14.3	—	—
30歳代	40	2.5	5.0	2.5	27.5	65.0	17.5	—	—
40歳代	52	1.9	13.5	5.8	19.2	55.8	15.4	1.9	7.7
50歳代	53	1.9	7.5	5.7	17.0	62.3	20.8	1.9	1.9
60歳代	80	2.5	15.0	2.5	25.0	77.5	12.5	1.3	1.3
70歳代以上	77	1.3	7.8	1.3	36.4	75.3	9.1	1.3	3.9
女性 10歳代	16	6.3	—	—	25.0	50.0	37.5	—	—
20歳代	40	7.5	12.5	5.0	25.0	72.5	10.0	—	—
30歳代	58	10.3	12.1	3.4	37.9	63.8	10.3	1.7	—
40歳代	73	13.7	11.0	9.6	23.3	56.2	16.4	1.4	1.4
50歳代	79	10.1	11.4	6.3	29.1	65.8	13.9	1.3	—
60歳代	91	14.3	12.1	7.7	30.8	69.2	9.9	1.1	3.3
70歳代以上	91	9.9	12.1	8.8	22.0	74.7	13.2	2.2	2.2
その他	1	—	—	—	100.0	—	—	—	—

<問 21 で「1 暴力を受けたことがある」とお答えの方に伺います。>

問 21-1 夫や妻・恋人など親しい間柄にある人から暴力を受けたとき、あるいはその後、どのような対応をしましたか。(あてはまるものすべてに○)

「暴力を行った相手に抗議した」の割合が 32.1%と最も高く、次いで「身近な人、友人に相談した」の割合が 26.8%、「家族に相談した」の割合が 23.2%となっています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「仕方がないと思い、何もしなかった」「怖くて何もできなかった」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「暴力を行った相手に抗議した」「家族に相談した」「身近な人、友人に相談した」「公的な相談機関に相談した」「警察等に訴えた」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	暴力を行った相手に抗議した	家族に相談した	身近な人、友人に相談した	公的な相談機関に相談した	警察等に訴えた	仕方がないと思い、何もしなかった	怖くて何もできなかった	世間体や今後の不利益を考えると何もできなかった	その他	無回答
男性	6	—	—	16.7	—	—	50.0	16.7	—	—	16.7
女性	50	36.0	26.0	28.0	12.0	12.0	16.0	10.0	2.0	4.0	—

【性・年齢別】

有効回答数が少ないため、コメントは控えます。

単位：％

区分	有効回答数(件)	暴力を行った相手に抗議した	家族に相談した	身近な人、友人に相談した	公的な相談機関に相談した	警察等に訴えた	仕方がないと思い、何もしなかった	怖くて何もできなかった	世間体や今後の不利益を考えると何もできなかった	その他	無回答
男性 10 歳代	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20 歳代	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
30 歳代	1	—	—	—	—	—	100.0	—	—	—	—
40 歳代	1	—	—	100.0	—	—	—	—	—	—	—
50 歳代	1	—	—	—	—	—	100.0	—	—	—	—
60 歳代	2	—	—	—	—	—	50.0	—	—	—	50.0
70 歳代以上	1	—	—	—	—	—	—	100.0	—	—	—
女性 10 歳代	1	—	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—
20 歳代	3	—	33.3	33.3	—	—	—	33.3	—	—	—
30 歳代	6	50.0	16.7	50.0	16.7	50.0	16.7	—	—	—	—
40 歳代	10	50.0	40.0	30.0	20.0	—	—	10.0	—	10.0	—
50 歳代	8	37.5	37.5	25.0	—	12.5	25.0	—	—	—	—
60 歳代	13	46.2	23.1	23.1	23.1	7.7	15.4	15.4	—	7.7	—
70 歳代以上	9	11.1	—	22.2	—	11.1	33.3	11.1	11.1	—	—
その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

【家族構成別】

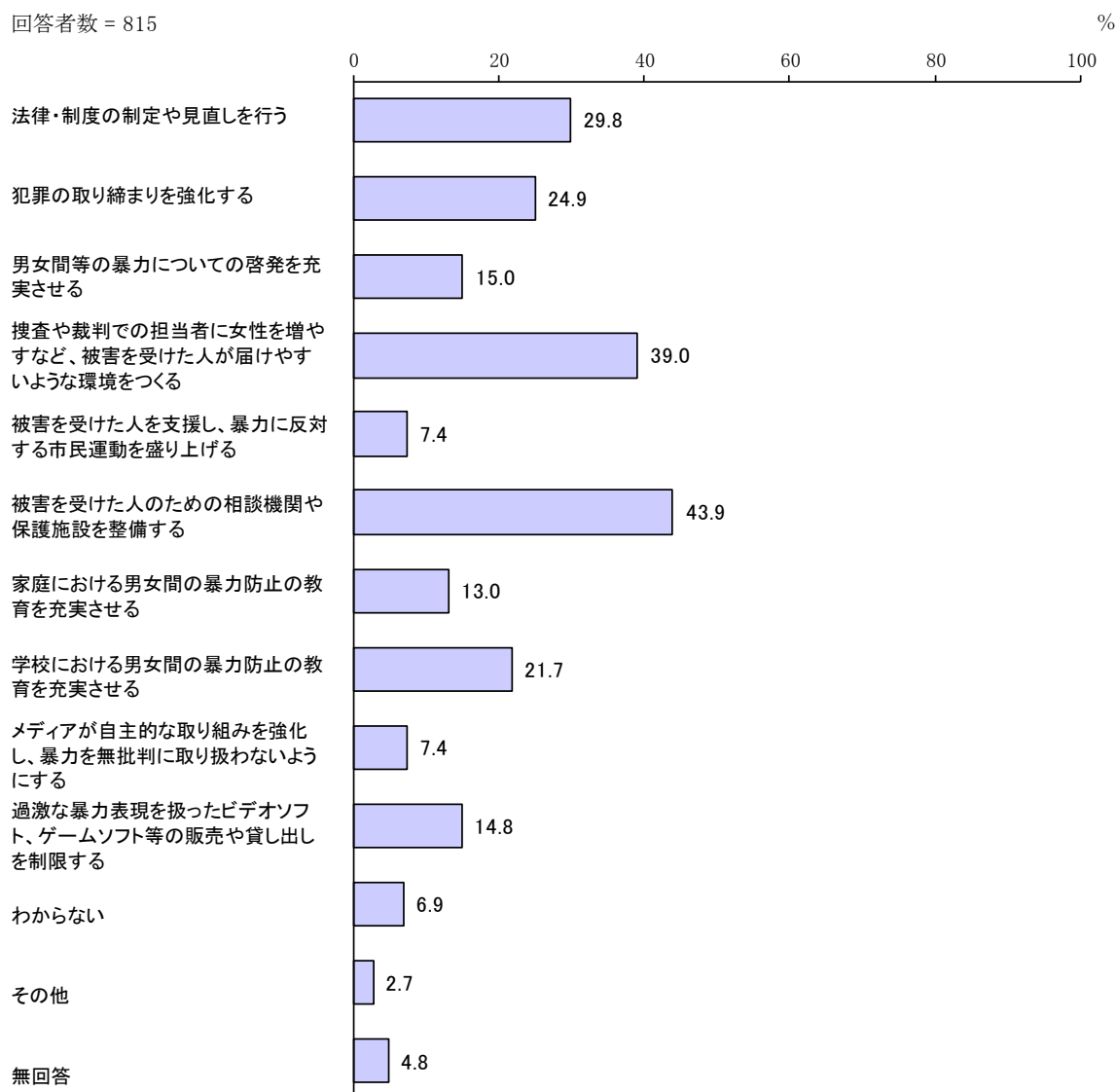
有効回答数が少ないため、コメントは控えます。

単位：％

区分	有効回答数(件)	暴力を行った相手に抗議した	家族に相談した	身近な人、友人に相談した	公的な相談機関に相談した	警察等に訴えた	仕方がないと思い、何もしなかった	怖くて何もできなかった	世間体や今後の不利益を考えると何もできなかった	その他	無回答
ひとり世帯	9	11.1	—	11.1	11.1	22.2	44.4	11.1	—	—	—
夫婦だけの世帯	4	25.0	—	—	—	—	25.0	25.0	25.0	—	—
夫婦と子どもの世帯	15	46.7	33.3	46.7	6.7	6.7	6.7	6.7	—	6.7	6.7
三世代以上同居世帯	9	44.4	22.2	22.2	11.1	11.1	11.1	22.2	—	—	—
母子世帯	8	25.0	50.0	37.5	—	25.0	—	—	—	—	—
父子世帯	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他の世帯	9	33.3	—	11.1	22.2	—	44.4	11.1	—	11.1	—

問 22 夫や妻・恋人など親しい間柄にある男女間の暴力をなくすためには、どうしたらよいとお考えになりますか。あなたが重要であるとお考えのものをお選びください。（あてはまるもの3つ以内に○）

「被害を受けた人のための相談機関や保護施設を整備する」の割合が43.9%と最も高く、次いで「捜査や裁判での担当者に女性を増やすなど、被害を受けた人が届けやすいような環境をつくる」の割合が39.0%、「法律・制度の制定や見直しを行う」の割合が29.8%となっています。



【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「被害を受けた人のための相談機関や保護施設を整備する」「過激な暴力表現を扱ったビデオソフト、ゲームソフト等の販売や貸し出しを制限する」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	法律・制度の制定や見直しを行う	犯罪の取り締まりを強化する	男女間等の暴力についての啓発を充実させる	捜査や裁判での担当者に女性を増やすなど、被害を受けた人が届けやすいような環境をつくる	被害を受けた人を支援し、暴力に反対する市民運動を盛り上げる	被害を受けた人のための相談機関や保護施設を整備する
男性	359	30.6	25.9	15.3	37.9	9.7	38.4
女性	451	29.3	24.4	14.4	39.9	5.5	47.7
区分	家庭における男女間の暴力防止の教育を充実させる	学校における男女間の暴力防止の教育を充実させる	メディアが自主的な取り組みを強化し、暴力を無批判に取り扱わないようにする	過激な暴力表現を扱ったビデオソフト、ゲームソフト等の販売や貸し出しを制限する	わからない	その他	無回答
男性	12.3	20.9	7.5	9.5	7.5	3.9	5.0
女性	13.7	22.0	7.1	19.1	6.4	1.8	4.7

【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の50歳代で「法律・制度の制定や見直しを行う」の割合が高くなっています。また、女性の10歳代で「犯罪の取り締まりを強化する」「捜査や裁判での担当者に女性を増やすなど、被害を受けた人が届けやすいような環境をつくる」の割合が、男性の60歳代で「男女間等の暴力についての啓発を充実させる」の割合が、女性の50歳代で「捜査や裁判での担当者に女性を増やすなど、被害を受けた人が届けやすいような環境をつくる」「被害を受けた人のための相談機関や保護施設を整備する」「過激な暴力表現を扱ったビデオソフト、ゲームソフト等の販売や貸し出しを制限する」の割合が、男性の70歳代以上で「被害を受けた人を支援し、暴力に反対する市民運動を盛り上げる」「学校における男女間の暴力防止の教育を充実させる」の割合が、女性の60歳代で「家庭における男女間の暴力防止の教育を充実させる」の割合が、男性の30歳代で「メディアが自主的な取り組みを強化し、暴力を無批判に取り扱わないようにする」の割合が、女性の70歳代以上で「メディアが自主的な取り組みを強化し、暴力を無批判に取り扱わないようにする」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	法律・制度の制定や見直しを行う	犯罪の取り締まりを強化する	男女間等の暴力についての啓発を充実させる	捜査や裁判での担当者に女性を増やすなど、被害を受けた人が届けやすいような環境をつくる	被害を受けた人を支援し、暴力に反対する市民運動を盛り上げる	被害を受けた人のための相談機関や保護施設を整備する
男性 10歳代	22	22.7	22.7	9.1	36.4	4.5	18.2
20歳代	35	20.0	40.0	14.3	42.9	8.6	34.3
30歳代	40	30.0	27.5	10.0	22.5	7.5	27.5
40歳代	52	38.5	30.8	13.5	42.3	1.9	46.2
50歳代	53	43.4	28.3	15.1	41.5	3.8	28.3
60歳代	80	27.5	17.5	21.3	40.0	12.5	53.8
70歳代以上	77	27.3	23.4	15.6	36.4	19.5	37.7
女性 10歳代	16	37.5	50.0	18.8	50.0	6.3	18.8
20歳代	40	40.0	32.5	5.0	45.0	5.0	47.5
30歳代	58	34.5	37.9	19.0	39.7	8.6	46.6
40歳代	73	32.9	35.6	11.0	35.6	4.1	42.5
50歳代	79	35.4	21.5	11.4	50.6	5.1	55.7
60歳代	91	24.2	15.4	19.8	38.5	2.2	49.5
70歳代以上	91	17.6	9.9	14.3	30.8	8.8	48.4
その他	1	100.0	—	—	—	—	100.0

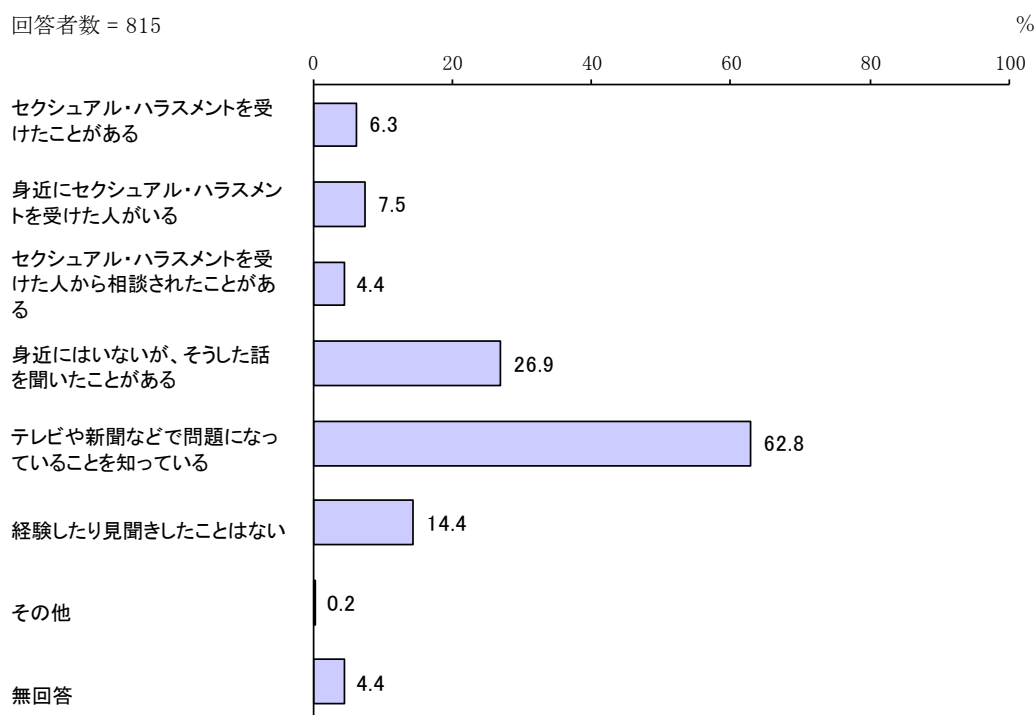
単位：%

区分	家庭における男女間の暴力防止の教育を充実させる	学校における男女間の暴力防止の教育を充実させる	メディアが自主的な取り組みを強化し、暴力を無批判に取り扱わないようにする	過激な暴力表現を扱ったビデオソフト、ゲームソフト等の販売や貸し出しを制限する	わからない	その他	無回答
男性 10 歳代	13.6	9.1	4.5	9.1	18.2	9.1	4.5
20 歳代	14.3	14.3	5.7	—	17.1	2.9	—
30 歳代	10.0	22.5	15.0	5.0	10.0	15.0	—
40 歳代	9.6	17.3	9.6	5.8	1.9	3.8	7.7
50 歳代	11.3	18.9	5.7	13.2	9.4	3.8	3.8
60 歳代	12.5	21.3	8.8	12.5	3.8	1.3	7.5
70 歳代以上	14.3	29.9	3.9	13.0	5.2	—	6.5
女性 10 歳代	6.3	18.8	6.3	12.5	6.3	—	—
20 歳代	15.0	17.5	7.5	7.5	5.0	2.5	5.0
30 歳代	3.4	17.2	8.6	8.6	6.9	1.7	8.6
40 歳代	16.4	27.4	4.1	15.1	6.8	1.4	4.1
50 歳代	11.4	15.2	2.5	27.8	5.1	1.3	1.3
60 歳代	23.1	28.6	4.4	25.3	4.4	3.3	4.4
70 歳代以上	12.1	23.1	15.4	20.9	9.9	1.1	6.6
その他	—	100.0	—	—	—	—	—

(7-2) 男女間等の暴力（セクシュアル・ハラスメント＝セクハラ）について

問 23 これまでに、セクシュアル・ハラスメント（職場や学校等で起こる本人の意に反した性的言動による性暴力）について経験したり、見聞きしたことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

「テレビや新聞などで問題になっていることを知っている」の割合が 62.8%と最も高く、次いで「身近にはいないが、そうした話を聞いたことがある」の割合が 26.9%、「経験したり見聞きしたことはない」の割合が 14.4%となっています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある	身近にセクシュアル・ハラスメントを受けた人がある	セクシュアル・ハラスメントを受けた人から相談されたことがある	身近にはいないが、そうした話を聞いたことがある	テレビや新聞などで問題になっていることを知っている	経験したり見聞きしたことはない	その他	無回答
男性	359	1.7	7.0	5.0	27.0	61.8	15.3	—	6.1
女性	451	10.0	8.0	3.8	26.4	63.6	13.5	0.4	3.1

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、女性の40歳代で「セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある」「身近にセクシュアル・ハラスメントを受けた人がある」の割合が高くなっています。また、他に比べ、女性の30歳代で「身近にセクシュアル・ハラスメントを受けた人がある」の割合が、男性の30歳代で「セクシュアル・ハラスメントを受けた人から相談されたことがある」の割合が、女性の20歳代で「セクシュアル・ハラスメントを受けた人から相談されたことがある」の割合が、男性の60歳代で「身近にはいないが、そうした話を聞いたことがある」の割合が、女性の60歳代で「テレビや新聞などで問題になっていることを知っている」の割合が、男性の10歳代で「経験したり見聞きしたことはない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	ある	セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある	身近にセクシュアル・ハラスメントを受けた人がある	セクシュアル・ハラスメントを受けた人から相談されたことがある	身近にはいないが、そうした話を聞いたことがある	テレビや新聞などで問題になっていることを知っている	経験したり見聞きしたことはない	その他	無回答
男性 10歳代	22	—	—	—	9.1	45.5	50.0	—	—	4.5
20歳代	35	—	11.4	5.7	34.3	40.0	17.1	—	—	2.9
30歳代	40	2.5	7.5	10.0	20.0	62.5	20.0	—	—	2.5
40歳代	52	—	9.6	3.8	26.9	55.8	17.3	—	—	7.7
50歳代	53	3.8	11.3	5.7	17.0	69.8	15.1	—	—	—
60歳代	80	3.8	6.3	3.8	35.0	68.8	10.0	—	—	3.8
70歳代以上	77	—	2.6	5.2	31.2	67.5	6.5	—	—	15.6
女性 10歳代	16	6.3	6.3	—	25.0	62.5	25.0	—	—	—
20歳代	40	15.0	10.0	10.0	10.0	67.5	10.0	—	—	—
30歳代	58	13.8	12.1	1.7	32.8	60.3	6.9	—	—	1.7
40歳代	73	17.8	12.3	4.1	19.2	58.9	11.0	—	—	2.7
50歳代	79	12.7	10.1	5.1	34.2	58.2	11.4	—	—	1.3
60歳代	91	5.5	4.4	3.3	26.4	72.5	13.2	1.1	—	2.2
70歳代以上	91	2.2	3.3	2.2	28.6	64.8	20.9	1.1	—	8.8
その他	1	—	—	—	—	—	100.0	—	—	—

【職業別】

職業別でみると、他に比べ、商工・サービス業などの自営業で「セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある」「身近にセクシュアル・ハラスメントを受けた人がある」「セクシュアル・ハラスメントを受けた人から相談されたことがある」の割合が高くなっています。また、他に比べ、勤め人（非常勤・パート・アルバイト）で「身近にはいないが、そうした話を聞いたことがある」「テレビや新聞などで問題になっていることを知っている」の割合が、無職・年金生活者で「テレビや新聞などで問題になっていることを知っている」の割合が、農林業などの自営業で「経験したり見聞きしたことはない」の割合が高くなっています。

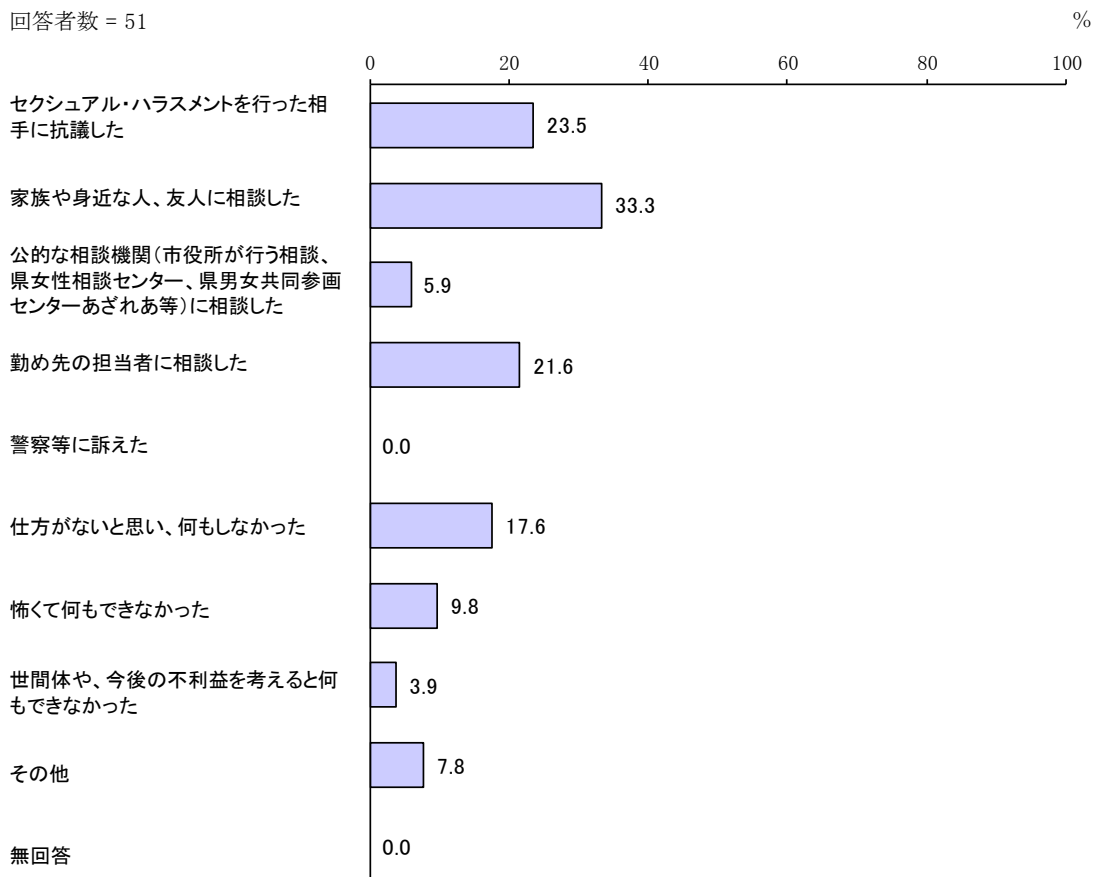
単位：％

区分	有効回答数（件）	ある	セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある	身近にセクシュアル・ハラスメントを受けた人がある	セクシュアル・ハラスメントを受けた人から相談されたことがある	セクシュアル・ハラスメントを受けた人から相談されたことがある	身近にはいないが、そうした話を聞いたことがある	テレビや新聞などで問題になっていることを知っている	経験したり見聞きしたことはない	その他	無回答
勤め人（正規の社員・職員）	292	6.8	10.6	5.1	25.0	62.0	12.3	0.3	2.4		
勤め人（非常勤・パート・アルバイト）	166	6.6	7.2	3.6	34.9	66.9	10.2	—	4.2		
商工・サービス業などの自営業	27	18.5	14.8	11.1	22.2	44.4	18.5	—	3.7		
派遣社員	13	7.7	7.7	—	30.8	61.5	7.7	—	7.7		
農林業などの自営業	20	5.0	—	—	5.0	55.0	35.0	—	5.0		
自由業（弁護士・開業医など）	4	—	—	—	25.0	75.0	25.0	—	—		
家庭内の賃仕事（内職）	3	—	—	—	33.3	33.3	33.3	—	—		
専業主婦（主夫も含む）	68	14.7	7.4	5.9	19.1	61.8	17.6	1.5	2.9		
学生	39	2.6	2.6	—	20.5	53.8	33.3	—	2.6		
無職・年金生活者	165	1.2	3.0	4.2	29.7	66.7	13.3	—	8.5		
その他	12	—	8.3	8.3	33.3	75.0	8.3	—	8.3		

<問 23 で「1 セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある」とお答えの方に伺います。>

問 23-1 セクシュアル・ハラスメントを受けたとき、あるいはその後、どのような対応をされましたか。(あてはまるものすべてに○)

「家族や身近な人、友人に相談した」の割合が 33.3%と最も高く、次いで「セクシュアル・ハラスメントを行った相手に抗議した」の割合が 23.5%、「勤め先の担当者に相談した」の割合が 21.6%となっています。



【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「家族や身近な人、友人に相談した」「怖くて何もできなかった」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「セクシュアル・ハラスメントを行った相手に抗議した」「公的な相談機関（市役所が行う相談、県女性相談センター、県男女共同参画センターあざれあ等）に相談した」「勤め先の担当者に相談した」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数（件）	セクシュアル・ハラスメントを行った相手に抗議した	家族や身近な人、友人に相談した	公的な相談機関（市役所が行う相談、県女性相談センター、県男女共同参画センターあざれあ等）に相談した	勤め先の担当者に相談した	警察等に訴えた
男性	6	—	50.0	—	16.7	—
女性	45	26.7	31.1	6.7	22.2	—

区分	仕方がないと思い、何もしなかった	怖くて何もできなかった	世間体や、今後の不利益を考えると何もできなかった	その他	無回答
男性	16.7	16.7	—	16.7	—
女性	17.8	8.9	4.4	6.7	—

【性・年齢別】

有効回答数が少ないため、コメントは控えます。

単位：%

区分	有効回答数(件)	セクシュアル・ハラスメントを行った相手に抗議した	家族や身近な人、友人に相談した	公的な相談機関(市役所が行う相談、県女性相談センター、県男女共同参画センターあざれあ等)に相談した	勤め先の担当者に相談した	警察等に訴えた
男性 10 歳代	—	—	—	—	—	—
20 歳代	—	—	—	—	—	—
30 歳代	1	—	100.0	—	—	—
40 歳代	—	—	—	—	—	—
50 歳代	2	—	50.0	—	50.0	—
60 歳代	3	—	33.3	—	—	—
70 歳代以上	—	—	—	—	—	—
女性 10 歳代	1	—	100.0	—	—	—
20 歳代	6	—	50.0	—	—	—
30 歳代	8	12.5	37.5	12.5	37.5	—
40 歳代	13	30.8	15.4	—	15.4	—
50 歳代	10	20.0	20.0	10.0	40.0	—
60 歳代	5	80.0	40.0	20.0	—	—
70 歳代以上	2	50.0	50.0	—	50.0	—
その他	—	—	—	—	—	—

単位：%

区分	仕方がないと思い、 何もしなかった	怖くて何もできな かった	世間体や、今後の不 利益を考えると何 もできなかった	その他	無回答
男性 10 歳代	—	—	—	—	—
20 歳代	—	—	—	—	—
30 歳代	—	—	—	—	—
40 歳代	—	—	—	—	—
50 歳代	—	—	—	50.0	—
60 歳代	33.3	33.3	—	—	—
70 歳代以上	—	—	—	—	—
女性 10 歳代	—	—	—	—	—
20 歳代	33.3	16.7	—	—	—
30 歳代	25.0	—	—	—	—
40 歳代	23.1	—	15.4	15.4	—
50 歳代	10.0	30.0	—	10.0	—
60 歳代	—	—	—	—	—
70 歳代以上	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—

【職業別】

有効回答数が少ないため、コメントは控えます。

単位：％

区分	有効回答数(件)	セクシユアル・ハラスメントを行った相手に抗議した	家族や身近な人、友人に相談した	公的な相談機関(市役所が行う相談、県女性相談センター、県男女共同参画センターあざれあ等)に相談した	勤め先の担当者に相談した	警察等に訴えた
勤め人(正規の社員・職員)	20	20.0	40.0	10.0	25.0	—
勤め人(非常勤・パート・アルバイト)	11	18.2	36.4	—	9.1	—
商工・サービス業などの自営業	5	60.0	20.0	—	—	—
派遣社員	1	—	—	—	100.0	—
農林業などの自営業	1	—	—	—	—	—
自由業(弁護士・開業医など)	—	—	—	—	—	—
家庭内の賃仕事(内職)	—	—	—	—	—	—
専業主婦(主夫も含む)	10	30.0	30.0	10.0	40.0	—
学生	1	—	100.0	—	—	—
無職・年金生活者	2	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—

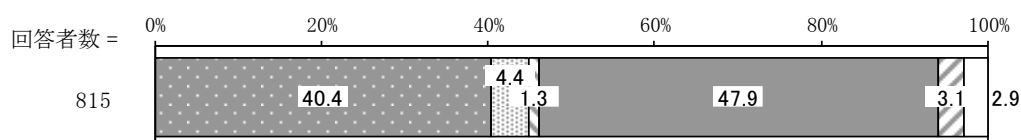
区分	仕方がないと思ひ、何もしなかった	怖くて何もできなかった	世間体や、今後の不利益を考えると何もしなかった	その他	無回答
勤め人(正規の社員・職員)	15.0	15.0	5.0	—	—
勤め人(非常勤・パート・アルバイト)	27.3	—	—	9.1	—
商工・サービス業などの自営業	20.0	—	20.0	20.0	—
派遣社員	—	—	—	—	—
農林業などの自営業	—	—	—	100.0	—
自由業(弁護士・開業医など)	—	—	—	—	—
家庭内の賃仕事(内職)	—	—	—	—	—
専業主婦(主夫も含む)	20.0	10.0	—	—	—
学生	—	—	—	—	—
無職・年金生活者	—	50.0	—	50.0	—
その他	—	—	—	—	—

(8) 地域活動について

問 24 自治会・地区まちづくり協議会・町内会・PTAなどの地域活動への男女の参画についてどのように考えますか。(1つに○)

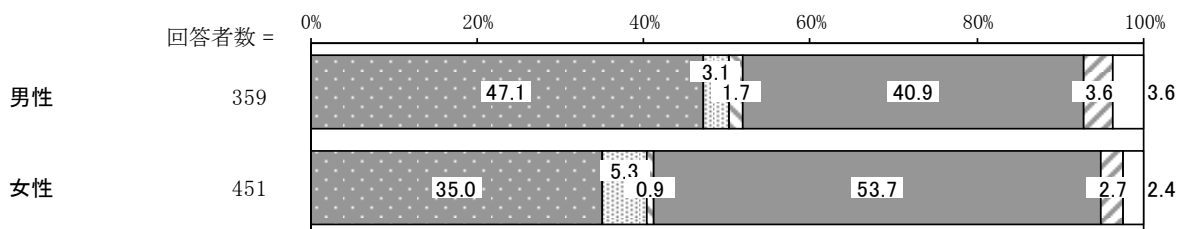
「男女ともやりたい人がやるのがよい」の割合が47.9%と最も高く、次いで「男女ともに、日常的活動も、役員などの役割も、積極的に参画するのがよい」の割合が40.4%となっています。

- 男女ともに、日常的活動も、役員などの役割も、積極的に参画するのがよい
- 日常的な活動は女性が主に行い、役員など中心的な役割は男性がするのがよい
- 日常的な活動は男性が主に行い、役員など中心的な役割は女性がするのがよい
- 男女ともやりたい人がやるのがよい
- その他
- 無回答



【性別】

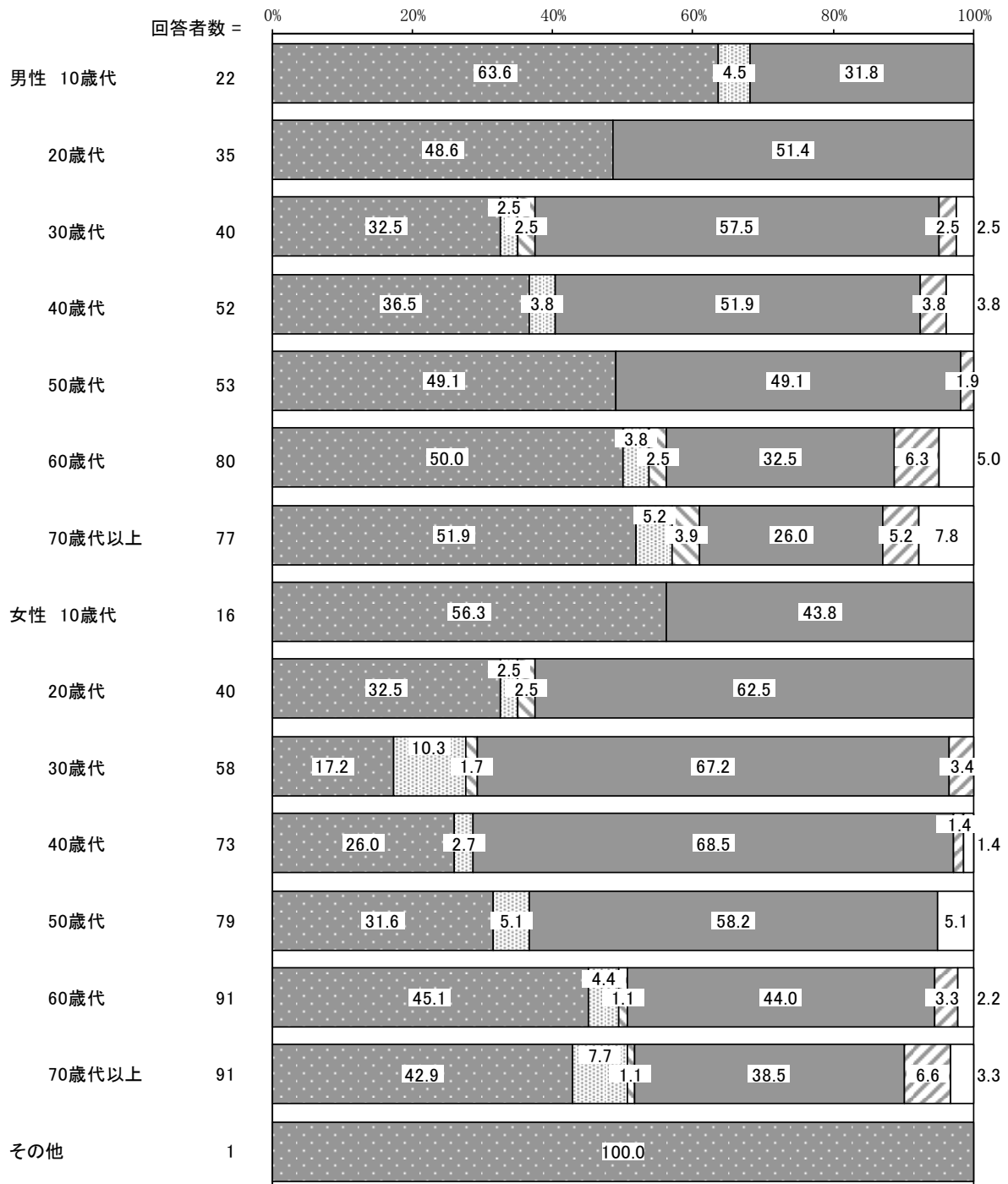
性別で見ると、女性に比べ、男性で「男女ともに、日常的活動も、役員などの役割も、積極的に参画するのがよい」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「男女ともやりたい人がやるのがよい」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の10歳代で「男女ともに、日常的活動も、役員などの役割も、積極的に参画するのがよい」の割合が高くなっています。また、他に比べ、女性の40歳代で「男女ともやりたい人がやるのがよい」の割合が高くなっています。

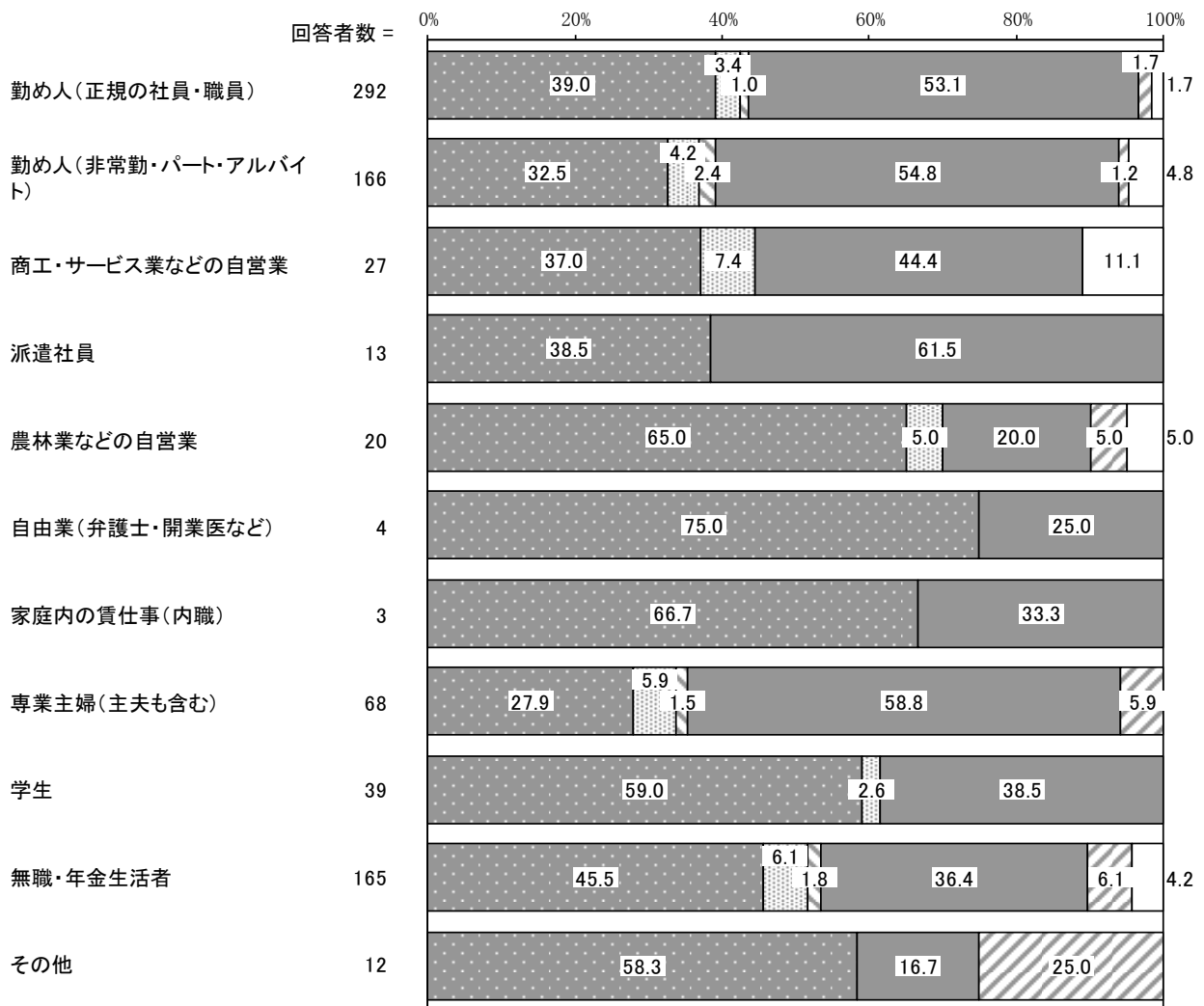
- 男女ともに、日常的活動も、役員などの役割も、積極的に参画するのがよい
- ▨ 日常的な活動は女性が主にやり、役員など中心的な役割は男性がするのがよい
- ▩ 日常的な活動は男性が主にやり、役員など中心的な役割は女性がするのがよい
- 男女ともやりたい人がやるのがよい
- ▨ その他
- 無回答



【就労状況別】

就労状況別でみると、他に比べ、農林業などの自営業、学生で「男女ともに、日常的活動も、役員などの役割も、積極的に参画するのがよい」の割合が高くなっています。また、他に比べ、派遣社員で「男女ともやりたい人がやるのがよい」の割合が高くなっています。

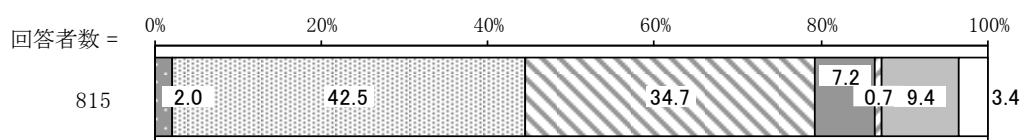
- 男女ともに、日常的活動も、役員などの役割も、積極的に参画するのがよい
- ▨ 日常的な活動は女性が主に行い、役員など中心的な役割は男性がするのがよい
- ▧ 日常的な活動は男性が主に行い、役員など中心的な役割は女性がするのがよい
- 男女ともやりたい人がやるのがよい
- ▨ その他
- 無回答



問 25 男性について、仕事と、家庭生活又は自治会やボランティアなどの地域活動をどのように位置づけるのが望ましいと思いますか。(1つに〇)

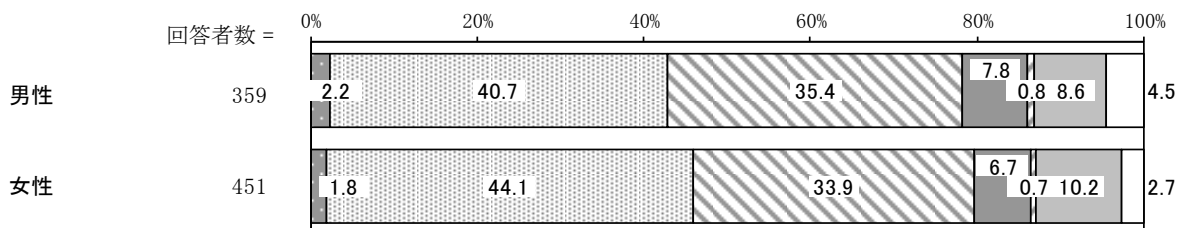
「家庭生活又は地域活動にも携わるが、あくまでも仕事を優先させる」の割合が 42.5%と最も高く、次いで「家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる」の割合が 34.7%となっています。

- 家庭生活又は地域活動よりも、仕事に専念する
- ▨ 家庭生活又は地域活動にも携わるが、あくまでも仕事を優先させる
- ▩ 家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる
- 仕事にも携わるが、家庭生活又は地域活動を優先させる
- ▨ 仕事よりも、家庭生活又は地域活動に専念する
- わからない
- 無回答



【性別】

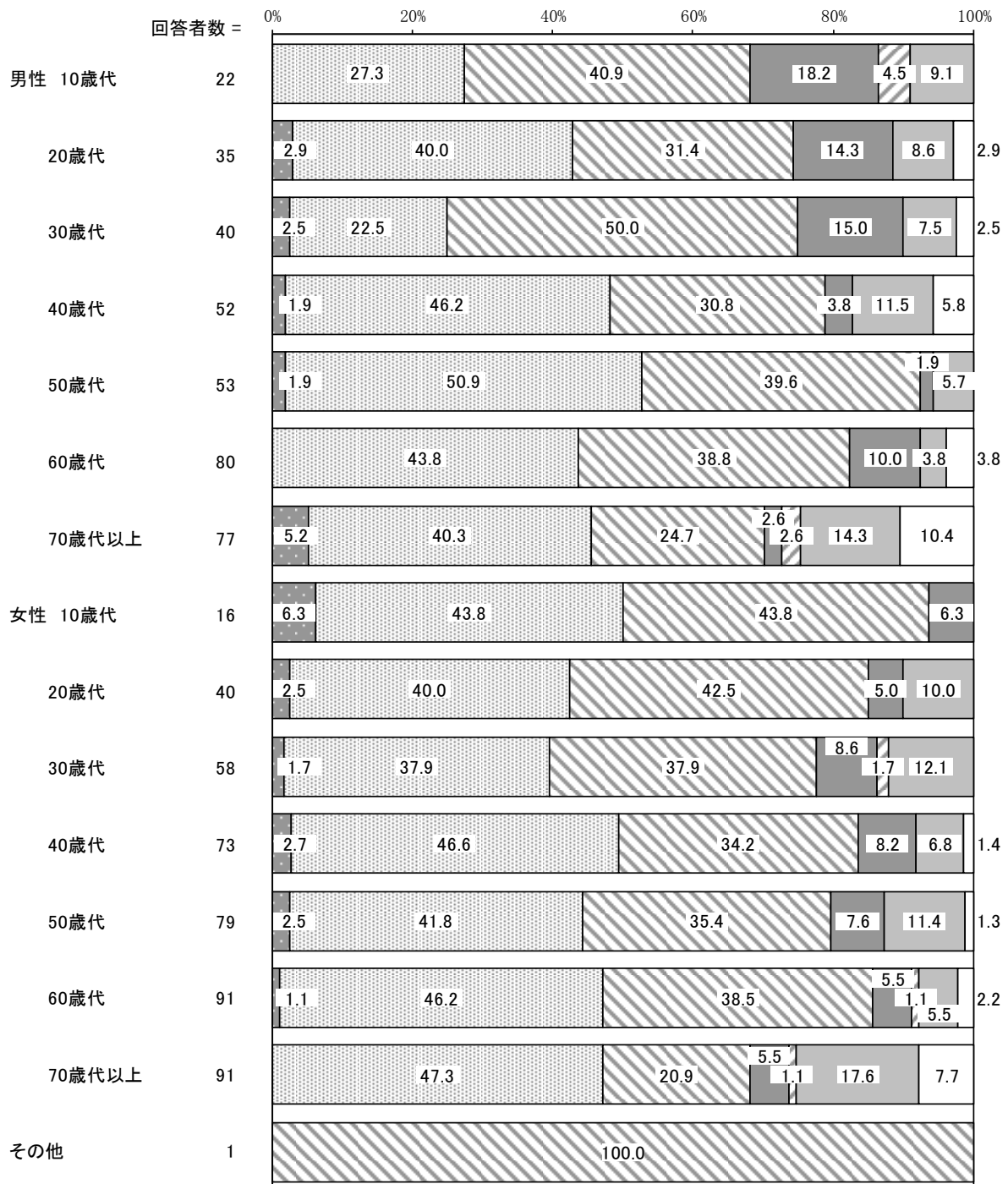
性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

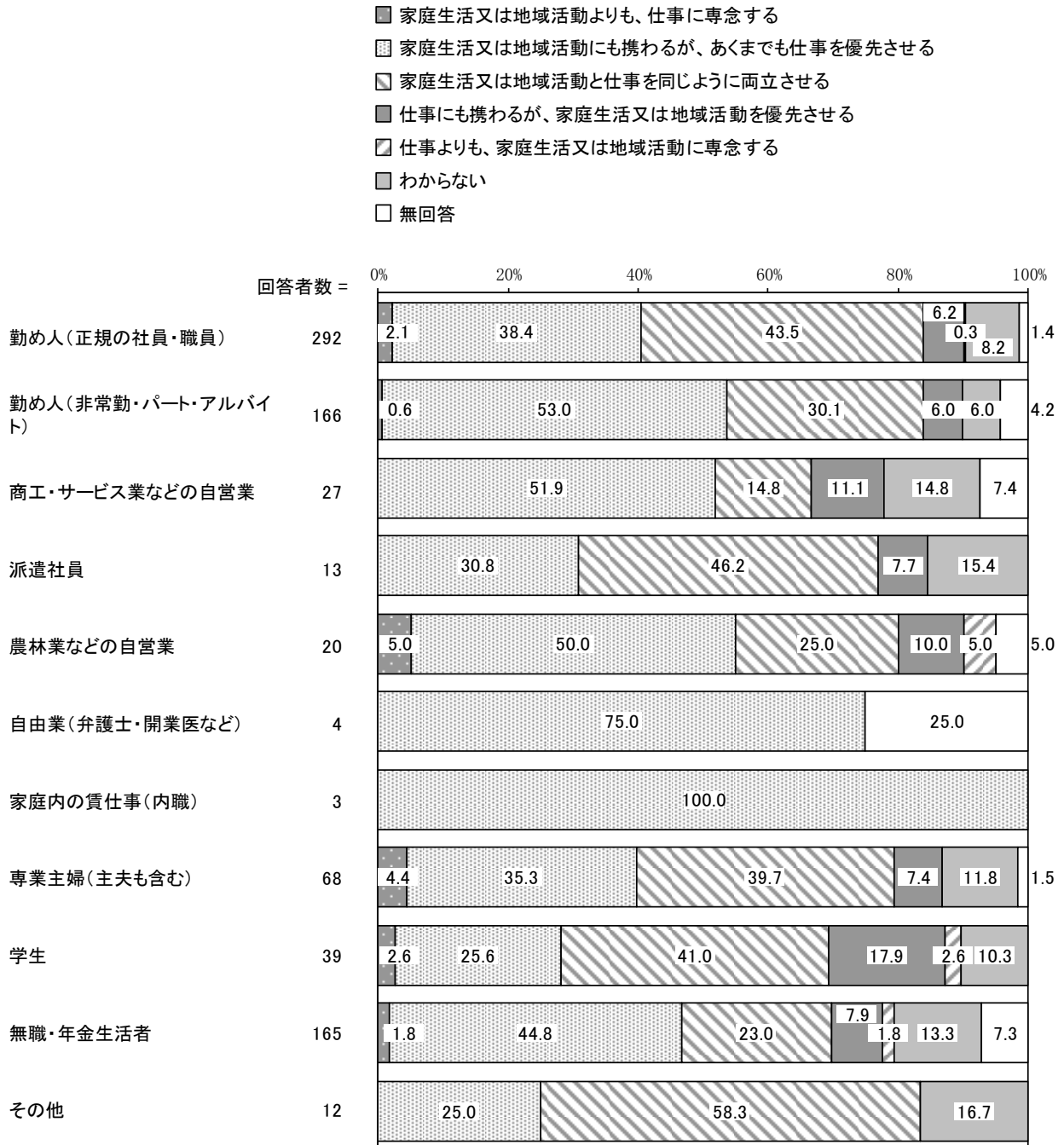
性・年齢別でみると、他に比べ、男性の50歳代で「家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまでも仕事を優先させる」の割合が高くなっています。また、他に比べ、男性の30歳代で「家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる」の割合が、男性の10歳代で「仕事にも携わるが、家庭生活又は地域活動を優先させる」の割合が高くなっています。

- 家庭生活又は地域活動よりも、仕事に専念する
- ▨ 家庭生活又は地域活動にも携わるが、あくまでも仕事を優先させる
- ▧ 家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる
- 仕事にも携わるが、家庭生活又は地域活動を優先させる
- ▩ 仕事よりも、家庭生活又は地域活動に専念する
- わからない
- 無回答



【就労状況別】

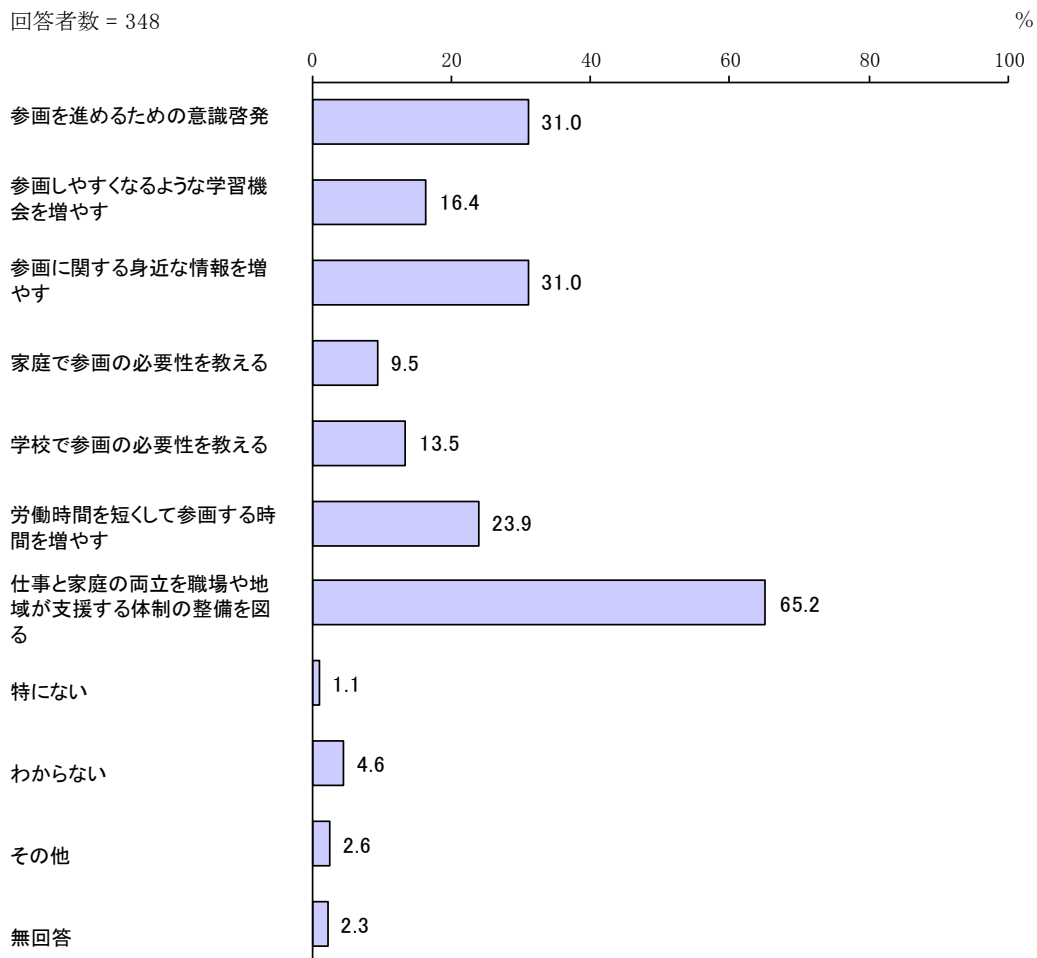
就労状況別でみると、他に比べ、勤め人（非常勤・パート・アルバイト）で「家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまでも仕事を優先させる」の割合が高くなっています。また、他に比べ、派遣社員で「家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる」の割合が、学生で「仕事にも携わるが、家庭生活又は地域活動を優先させる」の割合が高くなっています。



＜問 25 で「3 家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる」「4 仕事にも携わるが、家庭生活又は地域活動を優先させる」「5 仕事よりも、家庭生活又は地域活動に専念する」とお答えの方に伺います。＞

問 25-1 男性の「地域活動」や「家事・育児・介護等の家庭生活における活動」への参画を進めるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるもの3つ以内に○）

「仕事と家庭の両立を職場や地域が支援する体制の整備を図る」の割合が 65.2%と最も高く、次いで「参画を進めるための意識啓発」、「参画に関する身近な情報を増やす」の割合が 31.0%となっています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「労働時間を短くして参画する時間を増やす」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「参画に関する身近な情報を増やす」「仕事と家庭の両立を職場や地域が支援する体制の整備を図る」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	参画を進めるための意 識啓発	参画しやすくなるよう な学習機会を増やす	参画に関する身近な情 報を増やす	家庭で参画の必要性を 教える	学校で参画の必要性を 教える	労働時間を短くして参 画する時間を増やす	仕事と家庭の両立を職 場や地域が支援する体 制の整備を図る	特 に ない	わ か ら ない	そ の 他	無 回 答
男性	158	31.0	15.2	27.8	11.4	13.3	29.7	57.0	1.9	4.4	5.1	1.9
女性	186	31.2	17.2	34.4	8.1	14.0	18.8	71.5	0.5	4.8	0.5	2.7

【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の60歳代で「参画を進めるための意識啓発」「参画に関する身近な情報を増やす」の割合が高くなっています。また、女性の70歳代以上で「参画しやすくなるような学習機会を増やす」の割合が、男性の20歳代で「家庭で参画の必要性を教える」の割合が、女性の40歳代で「学校で参画の必要性を教える」の割合が、男性の30歳代で「労働時間を短くして参画する時間を増やす」の割合が、女性の30歳代で「仕事と家庭の両立を職場や地域が支援する体制の整備を図る」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	参画を進めるための意識啓発	参画しやすくなるような学習機会を増やす	参画に関する身近な情報を増やす	家庭で参画の必要性を教える	学校で参画の必要性を教える	労働時間を短くして参画する時間を増やす	仕事と家庭の両立を職場や地域が支援する体制の整備を図る	特にない	わからない	その他	無回答
男性 10歳代	14	14.3	7.1	35.7	14.3	21.4	21.4	35.7	—	7.1	7.1	7.1
20歳代	16	25.0	18.8	6.3	18.8	12.5	25.0	68.8	—	18.8	—	—
30歳代	26	23.1	7.7	19.2	7.7	7.7	46.2	53.8	3.8	—	7.7	—
40歳代	18	38.9	16.7	27.8	—	11.1	33.3	61.1	—	—	5.6	—
50歳代	22	27.3	13.6	18.2	13.6	9.1	36.4	72.7	—	9.1	4.5	—
60歳代	39	38.5	15.4	38.5	12.8	12.8	28.2	53.8	2.6	2.6	7.7	5.1
70歳代以上	23	39.1	26.1	39.1	13.0	21.7	13.0	52.2	4.3	—	—	—
女性 10歳代	8	25.0	12.5	37.5	25.0	12.5	—	50.0	—	—	—	—
20歳代	19	15.8	15.8	26.3	5.3	—	42.1	63.2	—	5.3	—	10.5
30歳代	28	39.3	7.1	32.1	7.1	3.6	21.4	82.1	3.6	3.6	—	—
40歳代	31	35.5	12.9	19.4	3.2	29.0	32.3	74.2	—	6.5	3.2	—
50歳代	34	20.6	17.6	32.4	8.8	14.7	20.6	73.5	—	8.8	—	—
60歳代	41	41.5	22.0	46.3	7.3	14.6	7.3	73.2	—	2.4	—	4.9
70歳代以上	25	28.0	28.0	44.0	12.0	16.0	4.0	64.0	—	4.0	—	4.0
その他	1	100.0	—	—	—	—	—	100.0	—	—	—	—

【就労状況別】

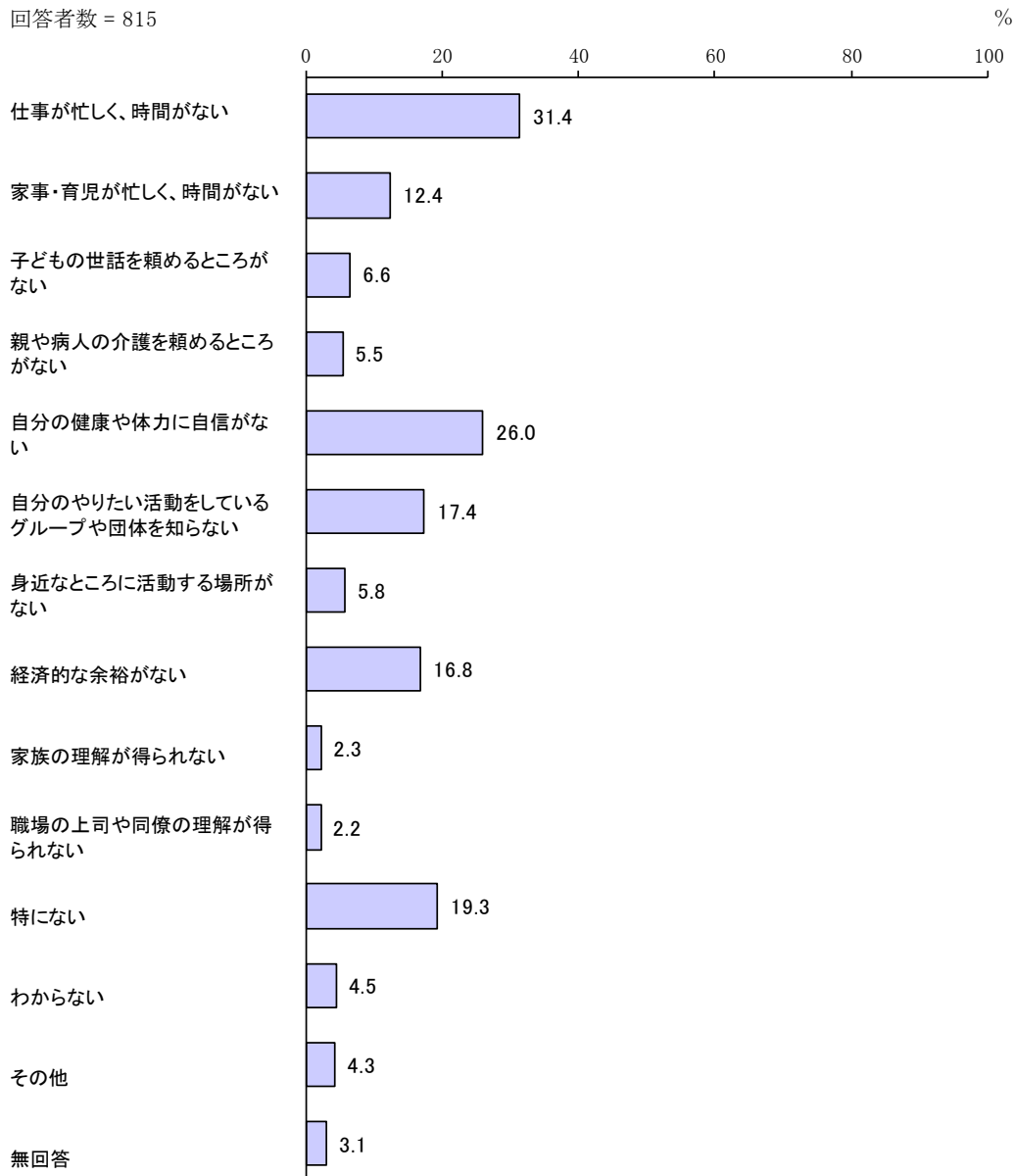
有効回答数が少ないため、コメントは控えます。

単位：％

区分	有効回答数(件)	参画を進めるための意識啓発	参画しやすくなるような学習機会を増やす	参画に関する身近な情報を増やす	家庭で参画の必要性を教える	学校で参画の必要性を教える	労働時間を短くして参画する時間を増やす	仕事と家庭の両立を職場や地域が支援する体制の整備を図る	特にない	わからない	その他	無回答
勤め人(正規の社員・職員)	146	32.2	13.0	23.3	6.2	12.3	34.9	67.1	1.4	4.1	4.1	0.7
勤め人(非常勤・パート・アルバイト)	60	30.0	18.3	36.7	10.0	10.0	11.7	66.7	—	10.0	1.7	3.3
商工・サービス業などの自営業	7	42.9	—	42.9	14.3	14.3	28.6	42.9	—	14.3	—	—
派遣社員	7	28.6	—	71.4	14.3	14.3	28.6	85.7	—	—	—	—
農林業などの自営業	8	50.0	12.5	62.5	12.5	—	12.5	50.0	12.5	—	—	—
自由業(弁護士・開業医など)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
家庭内の賃仕事(内職)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
専業主婦(主夫も含む)	32	28.1	28.1	21.9	12.5	6.3	28.1	68.8	—	6.3	—	—
学生	24	20.8	12.5	33.3	20.8	16.7	16.7	50.0	—	—	4.2	8.3
無職・年金生活者	54	31.5	24.1	37.0	9.3	24.1	9.3	66.7	—	1.9	1.9	3.7
その他	7	28.6	14.3	57.1	14.3	28.6	—	42.9	14.3	—	—	14.3

問 26 あなたが現在（あるいは今後）、地域活動に参加しようとする時、何か妨げになるようなことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

「仕事が忙しく、時間がない」の割合が31.4%と最も高く、次いで「自分の健康や体力に自信がない」の割合が26.0%、「特にない」の割合が19.3%となっています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「仕事が忙しく、時間がない」「経済的な余裕がない」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「家事・育児が忙しく、時間がない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	仕事が忙しく、時間がない	家事・育児が忙しく、時間がない	子どもの世話を頼めるところがない	親や病人の介護を頼めるところがない	自分の健康や体力に自信がない	自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない	身近なところに活動する場所がない
男性	359	38.7	7.0	5.0	4.5	24.0	16.4	4.5
女性	451	25.9	16.6	8.0	6.4	27.7	18.2	6.7

区分	経済的な余裕がない	家族の理解が得られない	職場の上司や同僚の理解が得られない	特にない	わからない	その他	無回答
男性	19.8	2.2	4.2	21.7	3.3	5.0	3.6
女性	14.6	2.4	0.7	17.1	5.5	3.8	2.7

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、男性の50歳代で「仕事が忙しく、時間がない」の割合が高くなっています。また、他に比べ、女性の30歳代で「家事・育児が忙しく、時間がない」「子どもの世話を頼めるところがない」の割合が、女性の60歳代で「親や病人の介護を頼めるところがない」の割合が、女性の70歳代以上で「自分の健康や体力に自信がない」の割合が、男性の20歳代で「自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない」の割合が、男性の60歳代で「経済的な余裕がない」の割合が、男性の10歳代で「特になし」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	仕事が忙しく、 時間がない	家事・育児が忙しく、 時間がない	子どもの世話を頼め るところがない	親や病人の介護を頼 めるところがない	自分の健康や体力に 自信がない	自分のやりたい活動 をしているグループ や団体を知らない	身近なところに活動 する場所がない
男性 10歳代	22	31.8	—	9.1	4.5	9.1	13.6	9.1
20歳代	35	51.4	11.4	8.6	—	5.7	28.6	8.6
30歳代	40	60.0	22.5	15.0	—	12.5	20.0	2.5
40歳代	52	51.9	9.6	5.8	1.9	11.5	11.5	1.9
50歳代	53	66.0	5.7	3.8	5.7	15.1	13.2	5.7
60歳代	80	25.0	3.8	2.5	8.8	40.0	17.5	3.8
70歳代以上	77	10.4	1.3	—	5.2	40.3	14.3	3.9
女性 10歳代	16	18.8	—	—	—	—	25.0	6.3
20歳代	40	50.0	15.0	12.5	2.5	10.0	25.0	5.0
30歳代	58	31.0	43.1	29.3	1.7	19.0	20.7	5.2
40歳代	73	32.9	26.0	15.1	6.8	8.2	21.9	5.5
50歳代	79	35.4	20.3	2.5	6.3	27.8	21.5	8.9
60歳代	91	16.5	6.6	—	13.2	41.8	11.0	9.9
70歳代以上	91	8.8	3.3	1.1	5.5	46.2	14.3	4.4
その他	1	—	—	—	—	—	—	—

単位：%

区分	い 経済的な 余裕がな い	家 族の理 解が得 られな い	い 職場の 上司や 同僚の 理解が 得られ ない	特 にない	わ からな い	そ の他	無 回 答
男性 10 歳代	13.6	—	—	31.8	18.2	4.5	—
20 歳代	14.3	5.7	2.9	20.0	8.6	—	—
30 歳代	25.0	7.5	5.0	12.5	—	7.5	2.5
40 歳代	11.5	—	7.7	26.9	1.9	9.6	3.8
50 歳代	20.8	—	9.4	18.9	1.9	5.7	—
60 歳代	26.3	2.5	3.8	23.8	1.3	2.5	5.0
70 歳代以上	19.5	1.3	—	20.8	2.6	5.2	7.8
女性 10 歳代	—	—	—	25.0	25.0	6.3	—
20 歳代	25.0	—	—	15.0	2.5	2.5	2.5
30 歳代	19.0	—	1.7	17.2	5.2	1.7	—
40 歳代	11.0	5.5	—	12.3	8.2	4.1	2.7
50 歳代	15.2	1.3	1.3	15.2	6.3	1.3	2.5
60 歳代	14.3	5.5	1.1	15.4	2.2	2.2	4.4
70 歳代以上	12.1	1.1	—	24.2	4.4	8.8	3.3
その他	—	—	—	100.0	—	—	—

【就労状況別】

就労状況別でみると、他に比べ、勤め人（正規の社員・職員）で「仕事が忙しく、時間がない」「自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない」の割合が高くなっています。また、他に比べ、専業主婦（主夫も含む）で「家事・育児が忙しく、時間がない」「子どもの世話を頼めるところがない」「身近なところに活動する場所がない」の割合が、無職・年金生活者で「自分の健康や体力に自信がない」の割合が、派遣社員で「経済的な余裕がない」の割合が、学生で「特にない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	仕事が忙しく、時間がない	家事・育児が忙しく、時間がない	子どもの世話を頼めるところがない	親や病人の介護を頼めるところがない	自分の健康や体力に自信がない	自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない	身近なところに活動する場所がない
勤め人(正規の社員・職員)	292	59.6	16.1	8.9	3.1	14.4	20.9	4.1
勤め人(非常勤・パート・アルバイト)	166	22.3	17.5	4.8	5.4	28.9	17.5	7.2
商工・サービス業などの自営業	27	40.7	11.1	3.7	—	18.5	3.7	—
派遣社員	13	23.1	7.7	—	—	7.7	15.4	7.7
農林業などの自営業	20	40.0	—	—	10.0	30.0	15.0	5.0
自由業(弁護士・開業医など)	4	50.0	25.0	—	—	25.0	50.0	50.0
家庭内の賃仕事(内職)	3	33.3	—	—	—	33.3	—	33.3
専業主婦(主夫も含む)	68	2.9	22.1	23.5	7.4	26.5	19.1	13.2
学生	39	20.5	—	2.6	2.6	2.6	17.9	7.7
無職・年金生活者	165	4.2	3.0	1.2	10.9	49.1	13.3	3.0
その他	12	25.0	—	—	8.3	41.7	16.7	8.3

区分	経済的な余裕がない	家族の理解が得られない	職場の上司や同僚の理解が得られない	特にない	わからない	その他	無回答
勤め人(正規の社員・職員)	15.4	3.1	4.8	17.5	2.7	4.5	1.4
勤め人(非常勤・パート・アルバイト)	19.9	0.6	0.6	19.9	5.4	4.2	3.6
商工・サービス業などの自営業	11.1	3.7	—	22.2	3.7	—	11.1
派遣社員	23.1	—	—	23.1	7.7	—	7.7
農林業などの自営業	15.0	10.0	—	20.0	—	5.0	—
自由業(弁護士・開業医など)	—	—	—	—	—	—	—
家庭内の賃仕事(内職)	33.3	—	—	33.3	—	—	—
専業主婦(主夫も含む)	14.7	2.9	2.9	16.2	4.4	1.5	1.5
学生	10.3	—	—	30.8	20.5	7.7	—
無職・年金生活者	18.8	2.4	0.6	18.2	3.6	5.5	6.1
その他	25.0	—	—	33.3	—	8.3	—

【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、母子世帯で「仕事が忙しく、時間がない」の割合が高くなっています。また、他に比べ、夫婦と子どもの世帯で「家事・育児が忙しく、時間がない」「子どもの世話を頼めるところがない」の割合が、夫婦だけの世帯で「自分の健康や体力に自信がない」「特にない」の割合が、ひとり世帯で「自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない」の割合が、三世代以上同居世帯で「経済的な余裕がない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	仕事が忙しく、時間がない	家事・育児が忙しく、時間がない	子どもの世話を頼めるところがない	親や病人の介護を頼めるところがない	自信がない	自分の健康や体力に自信がない	自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない	身近なところに活動する場所がない
ひとり世帯	71	35.2	4.2	1.4	2.8	28.2	22.5	4.2	
夫婦だけの世帯	169	17.8	2.4	0.6	2.4	33.1	18.3	7.7	
夫婦と子どもの世帯	308	37.7	20.1	13.3	5.2	21.4	18.2	5.2	
三世代以上同居世帯	134	30.6	14.2	4.5	6.7	22.4	14.9	5.2	
母子世帯	32	40.6	6.3	3.1	3.1	28.1	18.8	6.3	
父子世帯	9	55.6	22.2	33.3	11.1	22.2	22.2	—	
その他の世帯	69	27.5	13.0	1.4	15.9	34.8	13.0	5.8	

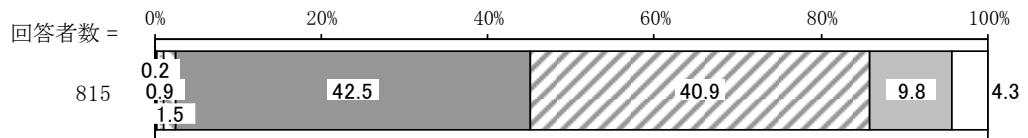
区分	経済的な余裕がない	家族の理解が得られない	職場の上司や同僚の理解が得られない	特にない	わからない	その他	無回答
ひとり世帯	16.9	1.4	7.0	22.5	2.8	5.6	4.2
夫婦だけの世帯	12.4	1.8	2.4	23.7	3.0	5.9	4.7
夫婦と子どもの世帯	16.6	1.9	2.3	15.9	5.2	4.5	2.3
三世代以上同居世帯	22.4	2.2	0.7	22.4	4.5	3.0	2.2
母子世帯	21.9	3.1	—	18.8	6.3	6.3	6.3
父子世帯	22.2	—	—	11.1	11.1	—	—
その他の世帯	15.9	5.8	1.4	13.0	5.8	1.4	2.9

(9) 就労について

問 27 一般的に女性が職業を持つことについて、あなたはどのように考えますか。(1つに○)

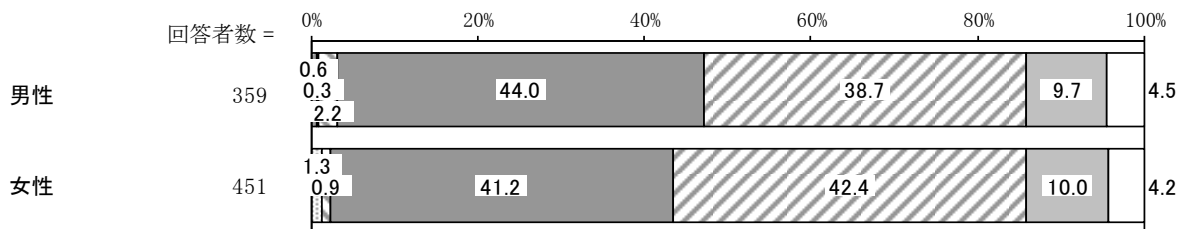
「結婚後、出産したらいったん退職して子育てに専念し、子どもが手を離れたら再就職するのがよい」の割合が42.5%と最も高く、次いで「結婚して出産しても職業を続ける方がよい」の割合が40.9%となっています。

- 女性は職業を持たない方がよい
- ▨ 結婚までは仕事を続け、結婚したら退職するのがよい
- ▩ 結婚しても仕事は続けるが、出産したら退職するのがよい
- 結婚後、出産したらいったん退職して子育てに専念し、子どもが手を離れたら再就職するのがよい
- ▨ 結婚して出産しても職業を続ける方がよい
- その他
- 無回答



【性別】

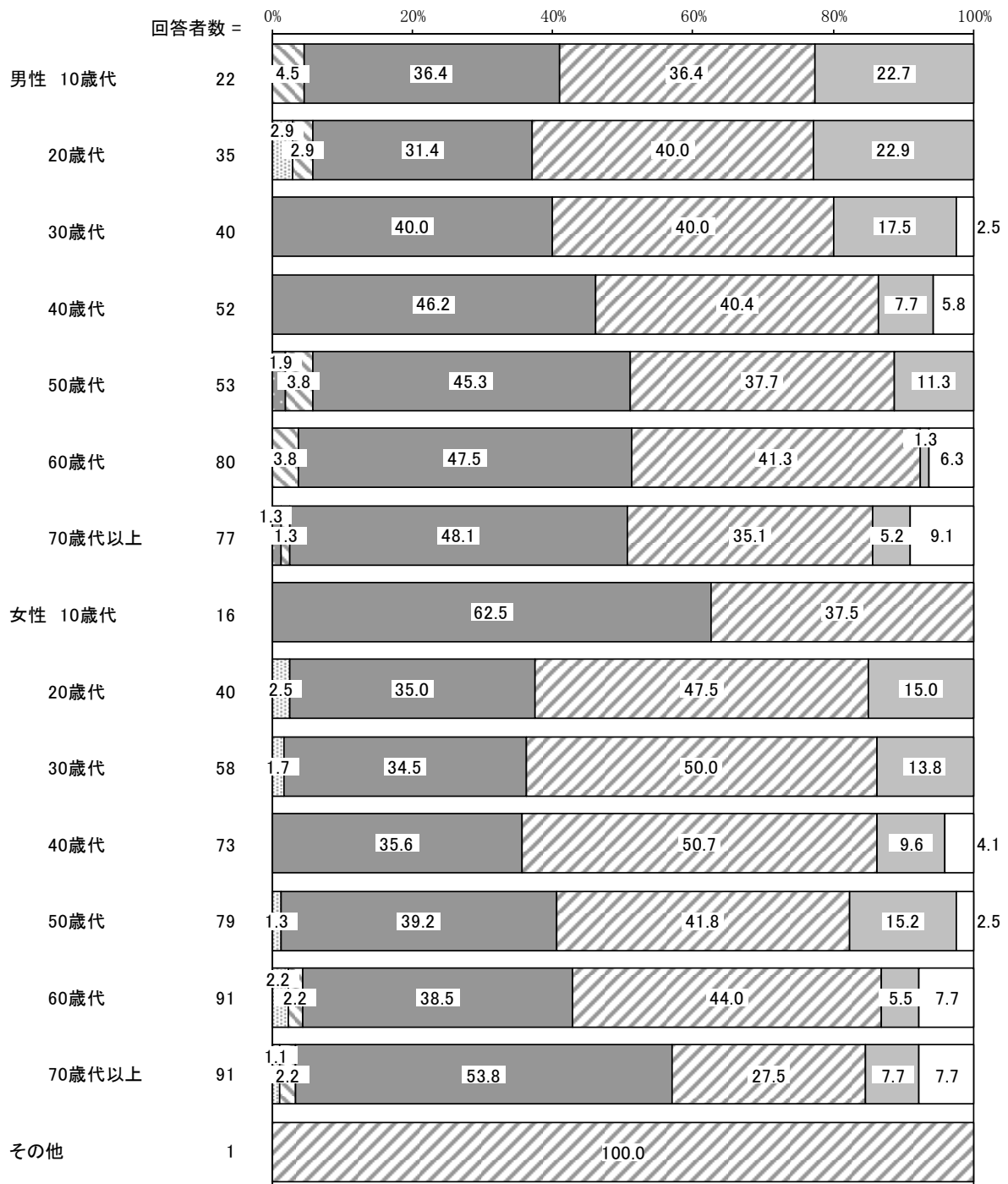
性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、女性の10歳代で「結婚後、出産したらいったん退職して子育てに専念し、子どもが手を離れたら再就職するのがよい」の割合が高くなっています。また、他に比べ、女性の30歳代、40歳代で「結婚して出産しても職業を続ける方がよい」の割合が高くなっています。

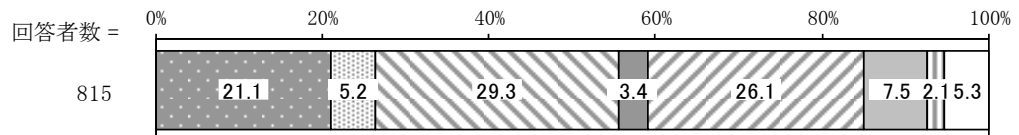
- 女性は職業を持たない方がよい
- ▨ 結婚までは仕事を続け、結婚したら退職するのがよい
- ▩ 結婚しても仕事は続けるが、出産したら退職するのがよい
- 結婚後、出産したらいったん退職して子育てに専念し、子どもが手を離れたら再就職するのがよい
- ▨ 結婚して出産しても職業を続ける方がよい
- その他
- 無回答



問 28 女性の働き方について、あなたはどのように考えますか。(1つに○)

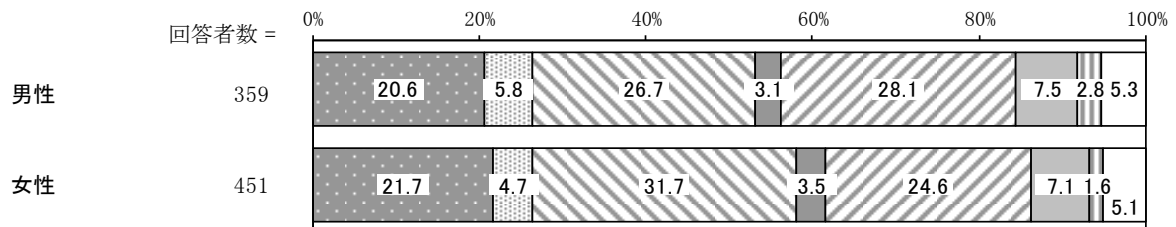
「仕事も家事育児も両方とも大切にする働き方がよい」の割合が 29.3%と最も高く、次いで「性別にかかわらず、個人の適正や能力に見合った評価をすべきだ」の割合が 26.1%、「家事、育児に支障がない程度に働くのがよい」の割合が 21.1%となっています。

- 家事、育児に支障がない程度に働くのがよい
- ▨ 女性も就業していれば、家事育児よりも仕事を優先することがあっても仕方がない
- ▧ 仕事も家事育児も両方とも大切にする働き方がよい
- 女性は、結婚・出産で退職することが多いから、職業面では男性と同じようには処遇できない
- ▧ 性別にかかわらず、個人の適正や能力に見合った評価をすべきだ
- 女性だけが家庭の事情(家業の都合、夫の昇進、転勤等)で退職しなければならないのはおかしい
- ▨ その他
- 無回答



【性別】

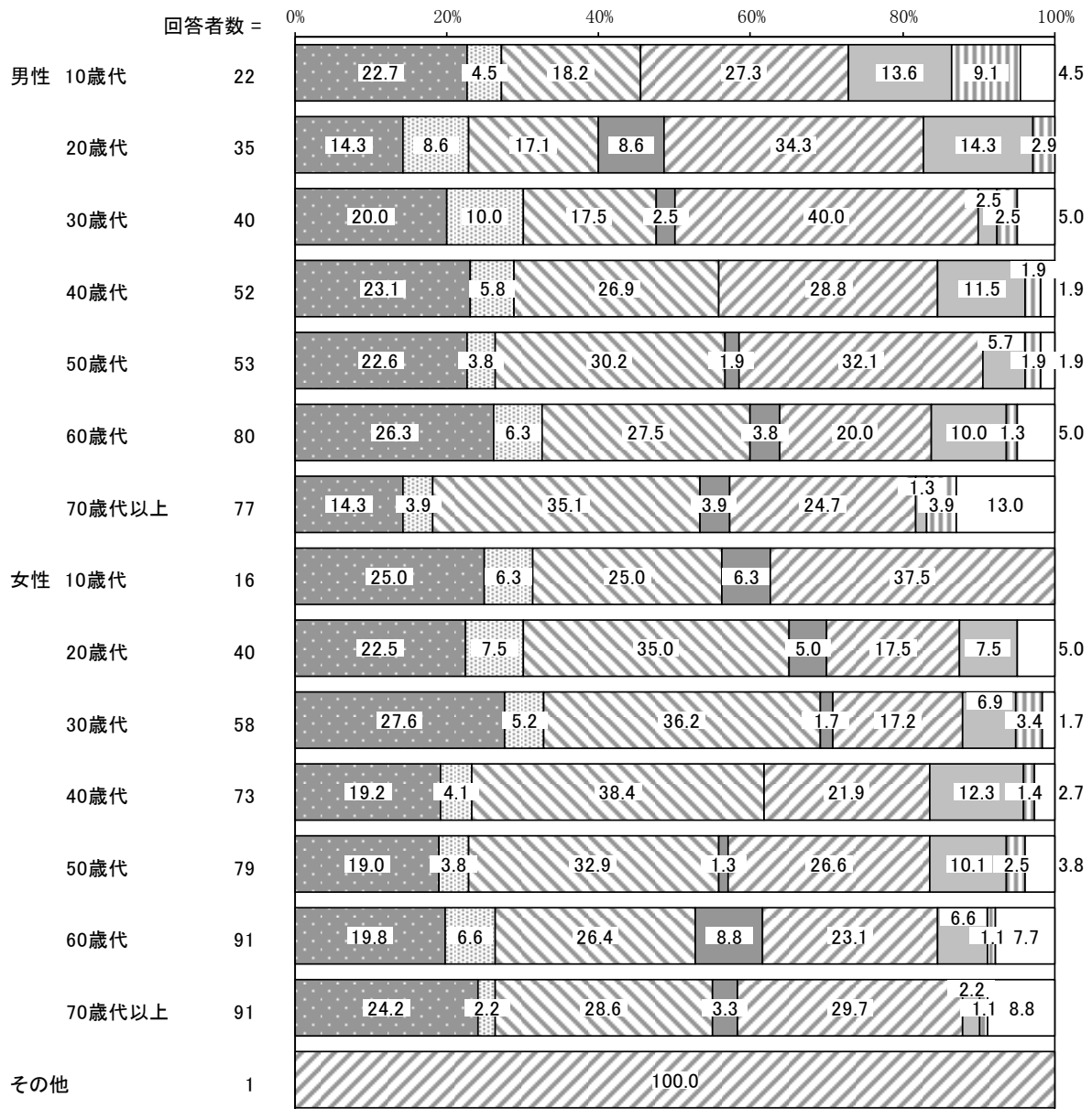
性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

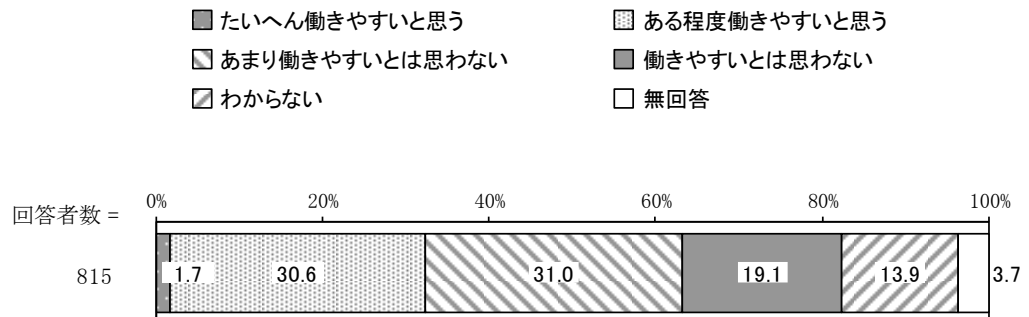
性・年齢別でみると、他に比べ、女性の30歳代で「家事、育児に支障がない程度に働くのがよい」の割合が高くなっています。また、他に比べ、女性の40歳代で「仕事も家事育児も両方とも大切にする働き方がよい」の割合が、男性の30歳代で「性別にかかわらず、個人の適正や能力に見合った評価をすべきだ」の割合が、男性の20歳代で「女性だけが家庭の事情（家業の都合、夫の昇進、転勤等）で退職しなければならないのはおかしい」の割合が高くなっています。

- 家事、育児に支障がない程度に働くのがよい
- ▨ 女性も就業していれば、家事育児よりも仕事を優先することがあっても仕方がない
- ▧ 仕事も家事育児も両方とも大切にする働き方がよい
- 女性は、結婚・出産で退職することが多いから、職業面では男性と同じようには処遇できない
- ▨ 性別にかかわらず、個人の適正や能力に見合った評価をすべきだ
- 女性だけが家庭の事情（家業の都合、夫の昇進、転勤等）で退職しなければならないのはおかしい
- ▨ その他
- 無回答



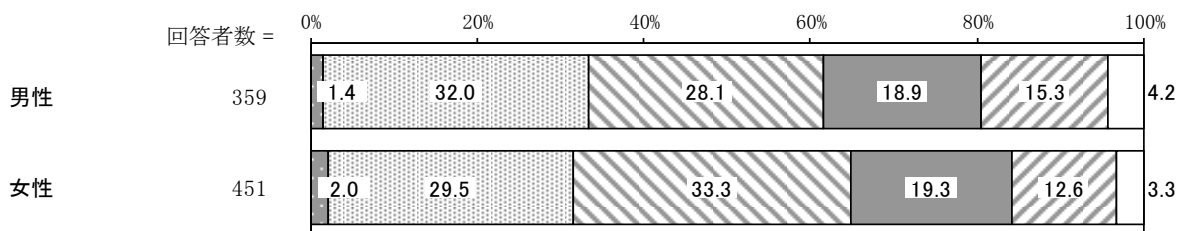
問 29 男性と比較した場合、現在の女性の働きやすさの状況について、どのように思いますか。(1つに〇)

「あまり働きやすいとは思わない」の割合が31.0%と最も高く、次いで「ある程度働きやすいと思う」の割合が30.6%、「働きやすいとは思わない」の割合が19.1%となっています。



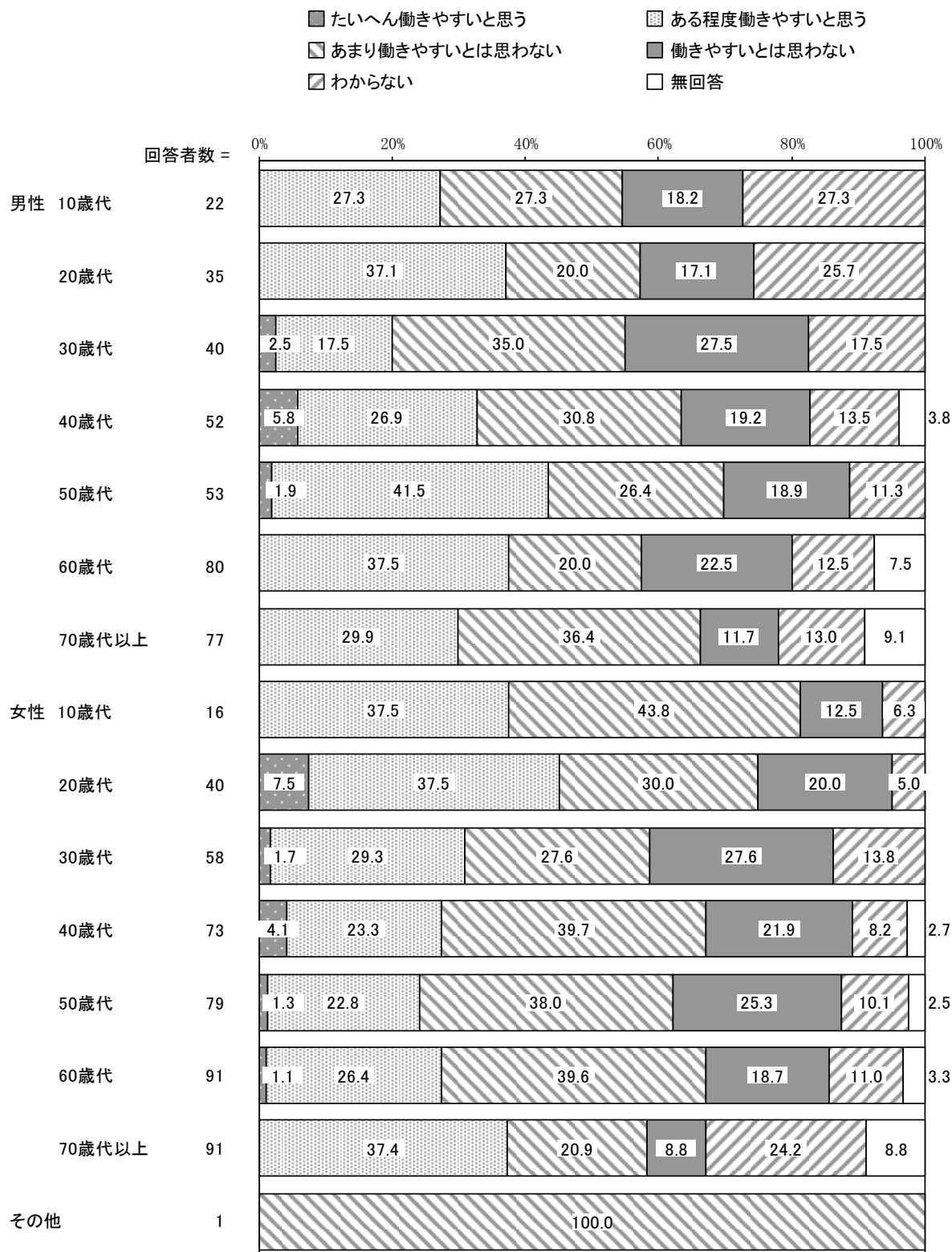
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「あまり働きやすいとは思わない」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

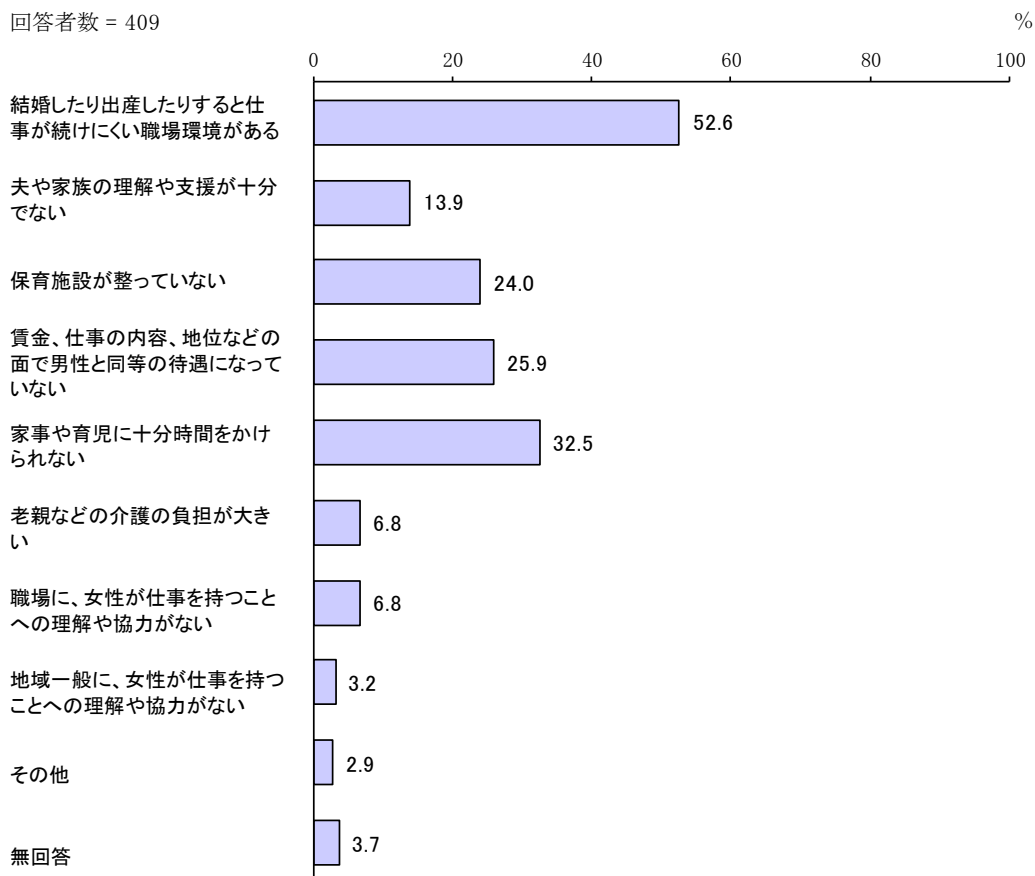
性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の50歳代で「ある程度働きやすいと思う」の割合が高くなっています。また、他に比べ、女性の10歳代で「あまり働きやすいとは思わない」の割合が、男性の30歳代、女性の30歳代で「働きやすいとは思わない」の割合が高くなっています。



<問 29 で「3 あまり働きやすいとは思わない」「4 働きやすいとは思わない」とお答えの方に伺います。>

問 29-1 女性が働きやすい状況の原因は何だと思えますか。(あてはまるもの2つ以内に○)

「結婚したり出産したりすると仕事が続けにくい職場環境がある」の割合が 52.6%と最も高く、次いで「家事や育児に十分時間をかけられない」の割合が 32.5%、「賃金、仕事の内容、地位などの面で男性と同等の待遇になっていない」の割合が 25.9%となっています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「結婚したり出産したりすると仕事が続けにくい職場環境がある」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「家事や育児に十分時間をかけられない」「老親などの介護の負担が大きい」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	結婚したり出産したりすると仕事が続けにくい職場環境がある	夫や家族の理解や支援が十分でない	保育施設が整っていない	賃金、仕事の内容、地位などの面で男性と同等の待遇になっていない	家事や育児に十分時間をかけられない	老親などの介護の負担が大きい	職場に、女性が仕事を持つことへの理解や協力がでない	地域一般に、女性が仕事を持つことへの理解や協力がでない	その他	無回答
男性	169	58.0	11.2	24.3	26.6	29.0	3.6	8.9	3.6	4.7	4.1
女性	237	49.4	16.0	24.1	24.9	34.6	9.3	5.1	3.0	1.7	3.4

【性・年齢別】

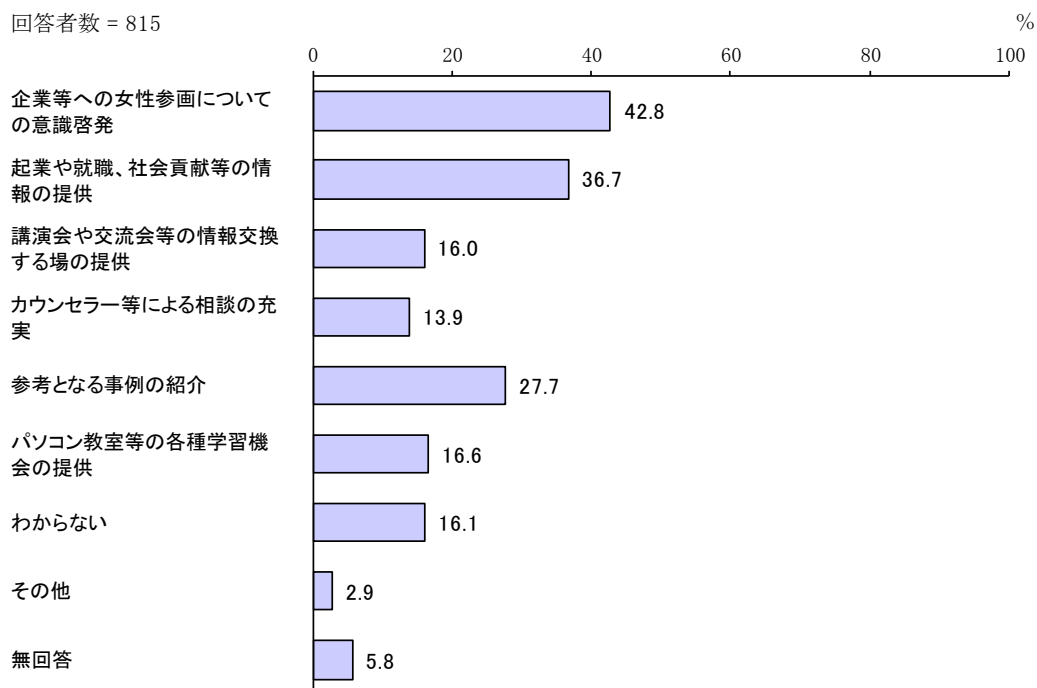
性・年齢別でみると、他に比べ、男性の20歳代で「結婚したり出産したりすると仕事が続けにくい職場環境がある」の割合が高くなっています。また、他に比べ、女性の40歳代で「夫や家族の理解や支援が十分でない」の割合が、女性の70歳代以上で「保育施設が整っていない」の割合が、男性の70歳代以上で「賃金、仕事の内容、地位などの面で男性と同等の待遇になっていない」の割合が、男性の30歳代で「家事や育児に十分時間をかけられない」の割合が、女性の50歳代で「老親などの介護の負担が大きい」の割合が、男性の10歳代で「職場に、女性が仕事を持つことへの理解や協力がでない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	結婚したり出産したりすると仕事が続けにくい職場環境がある	夫や家族の理解や支援が十分でない	保育施設が整っていない	賃金、仕事の内容、地位などの面で男性と同等の待遇になっていない	家事や育児に十分時間をかけられない	老親などの介護の負担が大きい	職場に、女性が仕事を持つことへの理解や協力がでない	地域一般に、女性が仕事を持つことへの理解や協力がでない	その他	無回答
男性 10歳代	10	70.0	20.0	30.0	10.0	30.0	—	20.0	—	10.0	—
20歳代	13	92.3	15.4	15.4	15.4	38.5	—	—	—	—	—
30歳代	25	52.0	16.0	28.0	20.0	40.0	4.0	8.0	4.0	12.0	—
40歳代	26	53.8	11.5	23.1	23.1	34.6	—	3.8	3.8	7.7	7.7
50歳代	24	54.2	16.7	20.8	29.2	20.8	—	8.3	4.2	4.2	4.2
60歳代	34	50.0	2.9	32.4	32.4	26.5	5.9	17.6	—	—	11.8
70歳代以上	37	59.5	8.1	18.9	35.1	21.6	8.1	5.4	8.1	2.7	—
女性 10歳代	9	55.6	22.2	—	22.2	44.4	—	—	11.1	—	—
20歳代	20	65.0	20.0	20.0	25.0	35.0	5.0	—	—	—	5.0
30歳代	32	62.5	6.3	25.0	15.6	34.4	6.3	12.5	—	6.3	3.1
40歳代	45	44.4	22.2	24.4	26.7	37.8	6.7	8.9	6.7	4.4	—
50歳代	50	46.0	16.0	16.0	28.0	36.0	16.0	—	2.0	—	8.0
60歳代	53	41.5	13.2	30.2	26.4	34.0	13.2	3.8	3.8	—	3.8
70歳代以上	27	48.1	18.5	37.0	22.2	25.9	3.7	7.4	—	—	—
その他	1	—	—	—	100.0	—	—	100.0	—	—	—

問 30 女性の社会参画をさらに進めるためには、女性が活躍するための支援が重要です。このために、行政としてどのような取組が必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

「企業等への女性参画についての意識啓発」の割合が 42.8%と最も高く、次いで「起業や就職、社会貢献等の情報の提供」の割合が 36.7%、「参考となる事例の紹介」の割合が 27.7%となっています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「パソコン教室等の各種学習機会の提供」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	企業等への女性参画についての意識啓発	起業や就職、社会貢献等の情報の提供	講演会や交流会等の情報交換する場の提供	カウンセラー等による相談の充実	参考となる事例の紹介	パソコン教室等の各種学習機会の提供	わからない	その他	無回答
男性	359	44.3	35.7	17.8	12.0	27.6	12.8	15.6	3.3	5.8
女性	451	41.5	37.5	14.6	15.5	27.5	19.7	16.6	2.7	5.5

【性・年齢別】

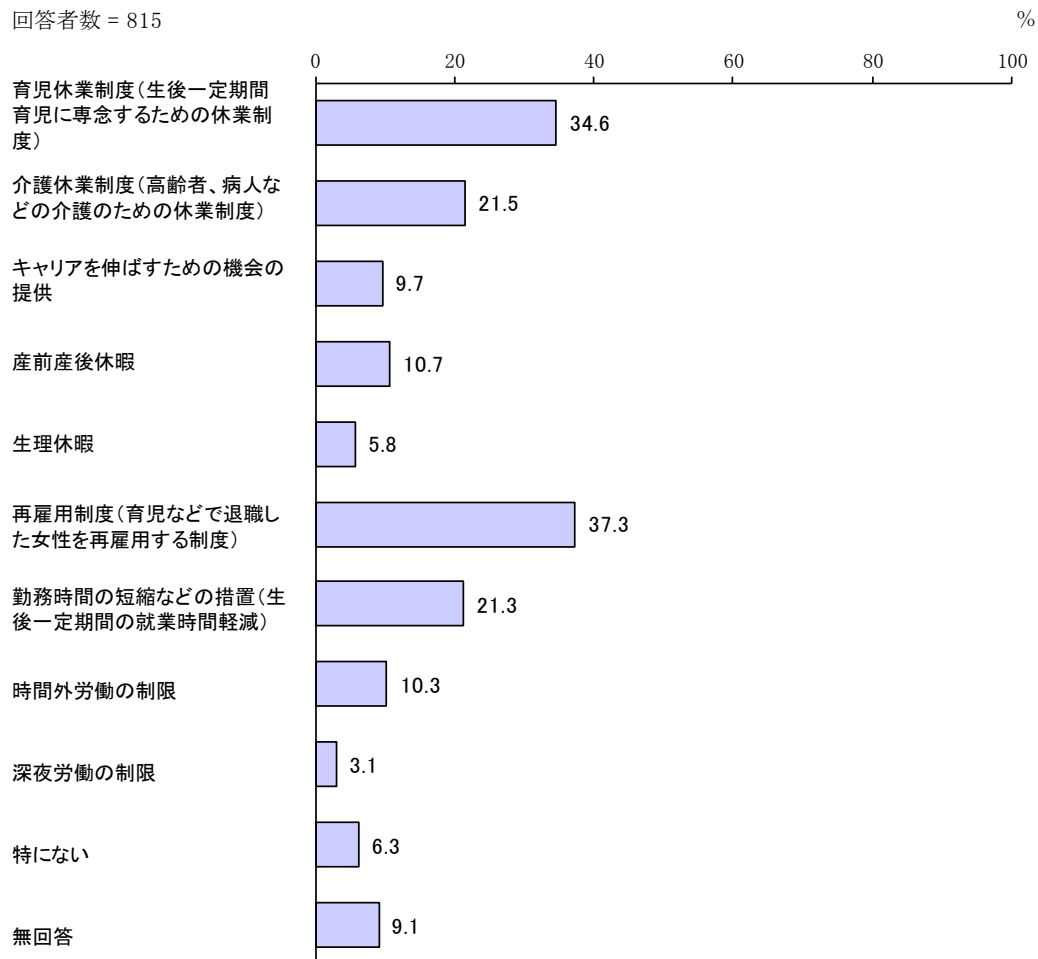
性・年齢別でみると、他に比べ、女性の10歳代で「企業等への女性参画についての意識啓発」の割合が高くなっています。また、他に比べ、男性の20歳代で「起業や就職、社会貢献等の情報の提供」の割合が、女性の20歳代で「起業や就職、社会貢献等の情報の提供」の割合が、女性の60歳代で「起業や就職、社会貢献等の情報の提供」の割合が、男性の70歳代以上で「講演会や交流会等の情報交換する場の提供」「パソコン教室等の各種学習機会の提供」の割合が、男性の10歳代で「カウンセラー等による相談の充実」の割合が、男性の60歳代で「参考となる事例の紹介」の割合が、女性の40歳代で「パソコン教室等の各種学習機会の提供」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	企業等への女性参画についての意識啓発	起業や就職、社会貢献等の情報の提供	講演会や交流会等の情報交換する場の提供	カウンセラー等による相談の充実	参考となる事例の紹介	パソコン教室等の各種学習機会の提供	わからない	その他	無回答
男性 10歳代	22	27.3	27.3	13.6	18.2	13.6	9.1	31.8	4.5	—
20歳代	35	48.6	45.7	20.0	14.3	31.4	17.1	14.3	—	2.9
30歳代	40	40.0	35.0	12.5	2.5	20.0	5.0	12.5	12.5	2.5
40歳代	52	51.9	34.6	11.5	9.6	17.3	9.6	15.4	3.8	5.8
50歳代	53	52.8	35.8	11.3	17.0	30.2	13.2	20.8	1.9	—
60歳代	80	43.8	40.0	22.5	12.5	35.0	12.5	8.8	2.5	8.8
70歳代以上	77	39.0	29.9	24.7	11.7	31.2	18.2	16.9	1.3	11.7
女性 10歳代	16	68.8	12.5	6.3	12.5	18.8	—	18.8	—	—
20歳代	40	45.0	45.0	17.5	12.5	22.5	7.5	17.5	2.5	—
30歳代	58	37.9	41.4	15.5	13.8	29.3	10.3	19.0	5.2	—
40歳代	73	39.7	38.4	5.5	15.1	23.3	26.0	20.5	4.1	4.1
50歳代	79	49.4	41.8	17.7	17.7	31.6	16.5	10.1	2.5	2.5
60歳代	91	35.2	45.1	15.4	16.5	30.8	26.4	14.3	2.2	7.7
70歳代以上	91	37.4	25.3	18.7	15.4	26.4	24.2	19.8	1.1	14.3
その他	1	100.0	100.0	—	—	100.0	—	—	—	—

問 31 女性が働きやすくなるために、現在、次のような制度がありますが、もっと充実してほしいと思うものはどれですか。（あてはまるもの2つ以内に○）

「再雇用制度（育児などで退職した女性を再雇用する制度）」の割合が 37.3%と最も高く、次いで「育児休業制度（生後一定期間育児に専念するための休業制度）」の割合が 34.6%、「介護休業制度（高齢者、病人などの介護のための休業制度）」の割合が 21.5%となっています。



【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「育児休業制度（生後一定期間育児に専念するための休業制度）」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「再雇用制度（育児などで退職した女性を再雇用する制度）」「勤務時間の短縮などの措置（生後一定期間の就業時間軽減）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	育児休業制度 (生後一定期間 育児に専念するた めの休業制度)	介護休業制度 (高齢者、 病人などの介護のため の休業制度)	キャリアを伸ばすため の機会の提供	産前産後休暇	生理休暇	再雇用制度 (育児などで 退職した女性 を再雇用する 制度)	勤務時間の短縮などの 措置 (生後一定期間の就 業時間軽減)	時間外労働の制限	深夜労働の制限	特になし	無回答
男性	359	41.5	19.5	10.3	13.4	3.6	33.7	18.4	8.1	3.3	6.7	9.2
女性	451	29.0	23.3	8.6	8.6	7.5	40.1	23.7	12.2	2.9	6.0	8.9

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、男性の10歳代で「育児休業制度（生後一定期間育児に専念するための休業制度）」の割合が高くなっています。また、他に比べ、女性の60歳代で「介護休業制度（高齢者、病人などの介護のための休業制度）」「再雇用制度（育児などで退職した女性を再雇用する制度）」の割合が、男性の30歳代で「キャリアを伸ばすための機会の提供」の割合が、女性の10歳代で「産前産後休暇」「生理休暇」の割合が、女性の30歳代で「勤務時間の短縮などの措置（生後一定期間の就業時間軽減）」「時間外労働の制限」の割合が高くなっています。

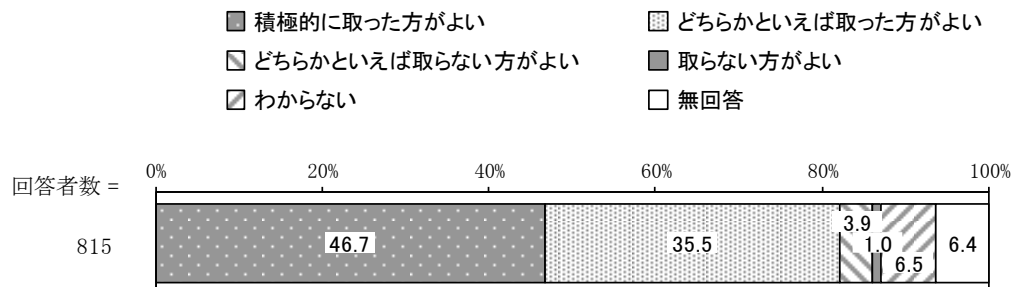
単位：％

区分	有効回答数 (件)	育児休業制度 (生後一定期間育 児に専念するた めの休業制度)	介護休業制度 (高齢者、病人な どの介護のため の休業制度)	キャリアを伸ば すための機会の 提供	産前産後休暇	生理休暇	再雇用制度 (育児などで退 職した女性を再 雇用する制度)	勤務時間の短 縮などの措置 (生後一定期間 の就業時間軽 減)	時間外労働の 制限	深夜労働の制 限	特 に な い	無 回 答
男性 10歳代	22	54.5	9.1	4.5	31.8	9.1	22.7	9.1	13.6	—	9.1	9.1
20歳代	35	37.1	14.3	11.4	8.6	5.7	34.3	22.9	8.6	2.9	14.3	8.6
30歳代	40	45.0	7.5	27.5	12.5	10.0	20.0	22.5	10.0	5.0	2.5	5.0
40歳代	52	40.4	23.1	7.7	15.4	1.9	34.6	17.3	9.6	5.8	3.8	9.6
50歳代	53	45.3	20.8	7.5	17.0	1.9	34.0	18.9	1.9	1.9	11.3	3.8
60歳代	80	40.0	17.5	8.8	8.8	2.5	43.8	21.3	10.0	2.5	6.3	7.5
70歳代以上	77	37.7	29.9	7.8	11.7	1.3	32.5	14.3	6.5	3.9	3.9	16.9
女性 10歳代	16	31.3	18.8	—	43.8	31.3	25.0	18.8	—	6.3	6.3	—
20歳代	40	35.0	10.0	7.5	10.0	15.0	35.0	30.0	12.5	2.5	2.5	15.0
30歳代	58	31.0	6.9	8.6	13.8	17.2	31.0	34.5	22.4	1.7	3.4	8.6
40歳代	73	30.1	19.2	16.4	9.6	11.0	34.2	21.9	19.2	—	6.8	4.1
50歳代	79	27.8	29.1	5.1	5.1	2.5	44.3	22.8	8.9	6.3	7.6	7.6
60歳代	91	28.6	35.2	6.6	1.1	1.1	51.6	27.5	9.9	2.2	3.3	7.7
70歳代以上	91	26.4	26.4	9.9	8.8	1.1	40.7	14.3	7.7	3.3	9.9	13.2
その他	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0

問 32 育児や介護を行うために、男女を問わず育児休業や介護休業を取得できる制度があります。この制度を活用して、男性が育児休業や介護休業をすることについて、あなたはどのように考えますか。(①～②のそれぞれ1つに○)

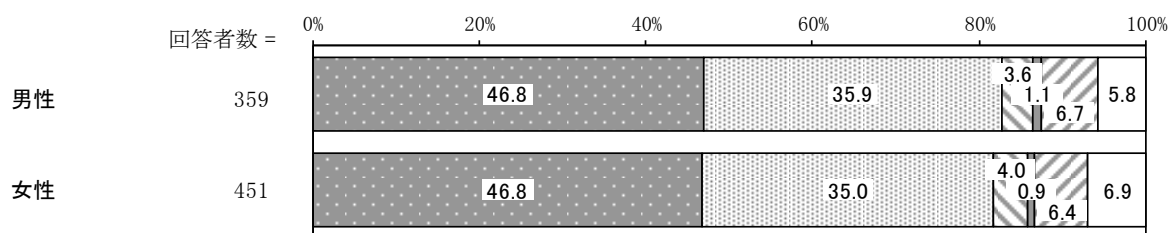
① 育児休業

「積極的に取った方がよい」の割合が46.7%と最も高く、次いで「どちらかといえば取った方がよい」の割合が35.5%となっています。



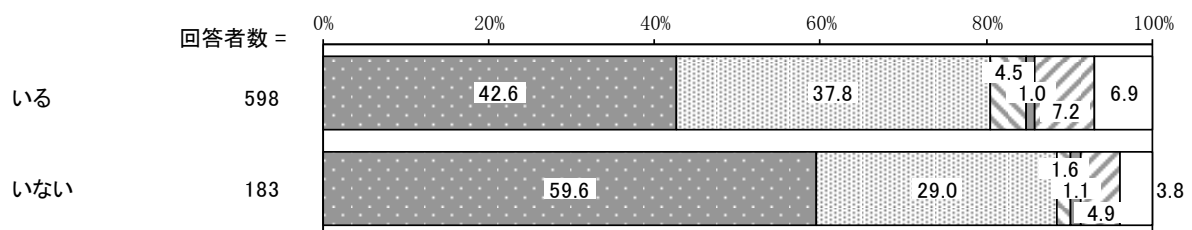
【性別】

性別で見ると、大きな差異はみられません。



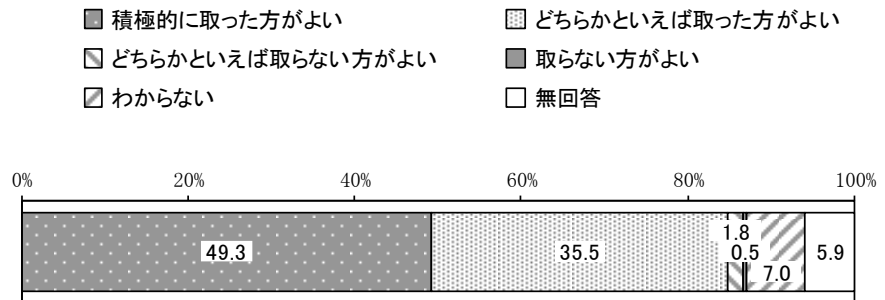
【子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、いるに比べ、いないで「積極的に取った方がよい」の割合が高くなっています。一方、いないに比べ、いるで「どちらかといえば取った方がよい」の割合が高くなっています。



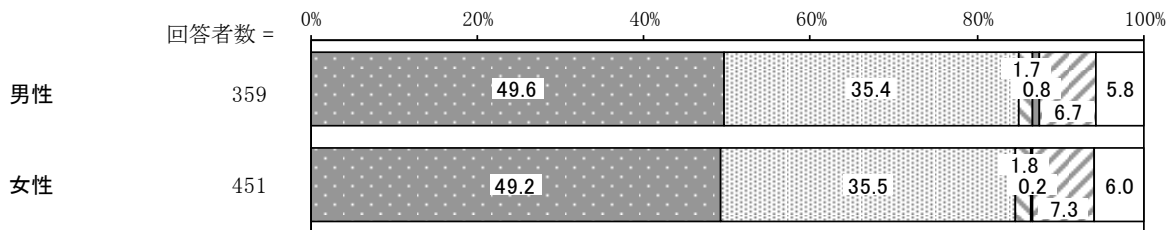
② 介護休業

「積極的に取った方がよい」の割合が49.3%と最も高く、次いで「どちらかといえば取った方がよい」の割合が35.5%となっています。



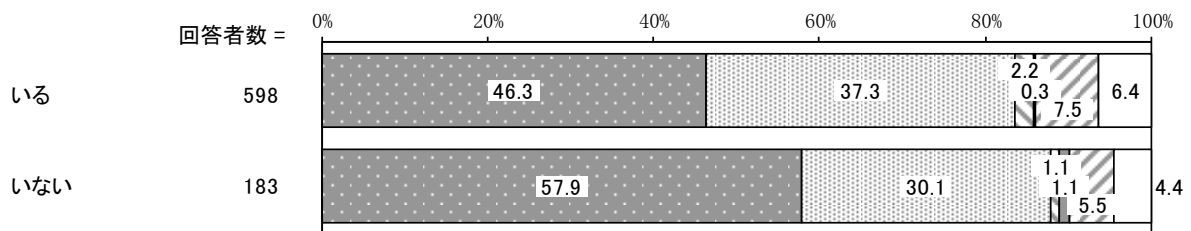
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



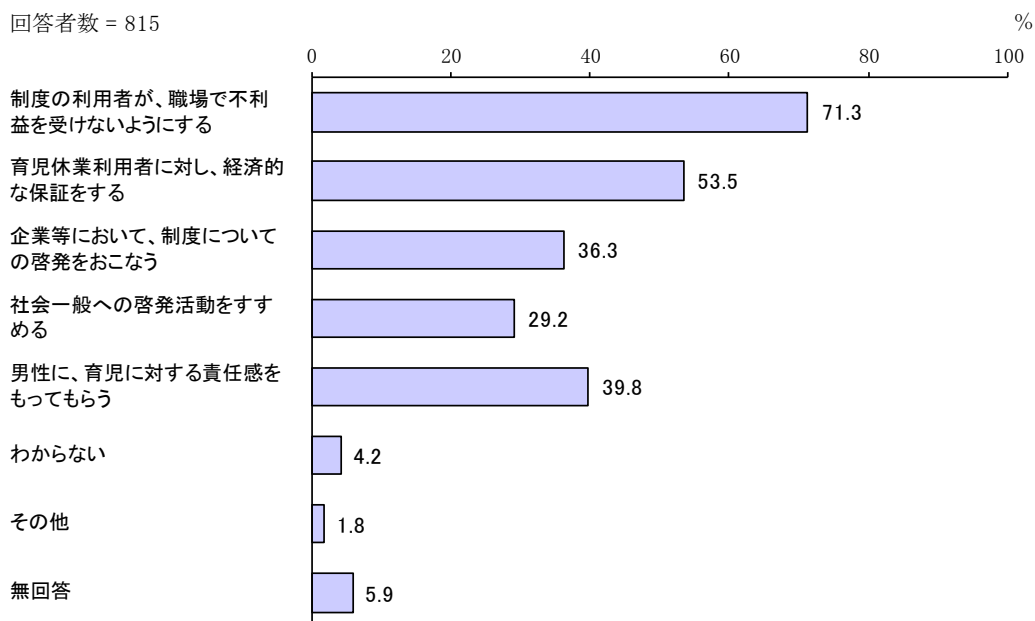
【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、いるに比べ、いないで「積極的に取った方がよい」の割合が高くなっています。一方、いないに比べ、いるで「どちらかといえば取った方がよい」の割合が高くなっています。



問 33 男性の育児休業利用率を高めるためにどのようなことが必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

「制度の利用者が、職場で不利益を受けないようにする」の割合が71.3%と最も高く、次いで「育児休業利用者に対し、経済的な保証をする」の割合が53.5%、「男性に、育児に対する責任感をもってもらおう」の割合が39.8%となっています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「男性に、育児に対する責任感をもってもらおう」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	制度の利用者が、職場で不利益を受けないようにする	育児休業利用者に対し、経済的な保証をする	企業等において、制度についての啓発をおこなう	社会一般への啓発活動をすすめる	男性に、育児に対する責任感をもってもらおう	わからない	その他	無回答
男性	359	71.3	53.8	35.4	29.5	35.1	4.2	2.5	5.0
女性	451	71.0	53.2	37.3	29.0	43.0	4.2	1.3	6.7

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、男性の20歳代で「制度の利用者が、職場で不利益を受けないようにする」の割合が高くなっています。また、他に比べ、女性の30歳代で「育児休業利用者に対し、経済的な保証をする」「企業等において、制度についての啓発をおこなう」「社会一般への啓発活動をすすめる」の割合が、男性の10歳代で「男性に、育児に対する責任感をもってもらう」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	制度の利用者が、職場で不利益を受けないようにする	育児休業利用者に対し、経済的な保証をする	企業等において、制度についての啓発をおこなう	社会一般への啓発活動をすすめる	男性に、育児に対する責任感をもってもらう	わからない	その他	無回答
男性 10歳代	22	59.1	54.5	22.7	27.3	54.5	13.6	—	—
20歳代	35	85.7	68.6	37.1	37.1	51.4	—	—	2.9
30歳代	40	67.5	62.5	25.0	27.5	30.0	2.5	12.5	2.5
40歳代	52	76.9	63.5	46.2	28.8	30.8	—	3.8	5.8
50歳代	53	71.7	52.8	30.2	20.8	30.2	3.8	1.9	1.9
60歳代	80	67.5	52.5	43.8	35.0	33.8	7.5	1.3	3.8
70歳代以上	77	70.1	37.7	31.2	28.6	32.5	3.9	—	11.7
女性 10歳代	16	68.8	25.0	43.8	12.5	43.8	6.3	—	—
20歳代	40	62.5	67.5	37.5	25.0	50.0	—	—	2.5
30歳代	58	75.9	72.4	50.0	39.7	50.0	10.3	3.4	1.7
40歳代	73	79.5	54.8	35.6	26.0	45.2	1.4	—	1.4
50歳代	79	74.7	62.0	31.6	25.3	49.4	2.5	1.3	8.9
60歳代	91	76.9	52.7	41.8	34.1	40.7	1.1	1.1	3.3
70歳代以上	91	57.1	30.8	28.6	28.6	30.8	8.8	2.2	18.7
その他	1	100.0	100.0	—	100.0	100.0	—	—	—

【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、大きな差異はみられません。

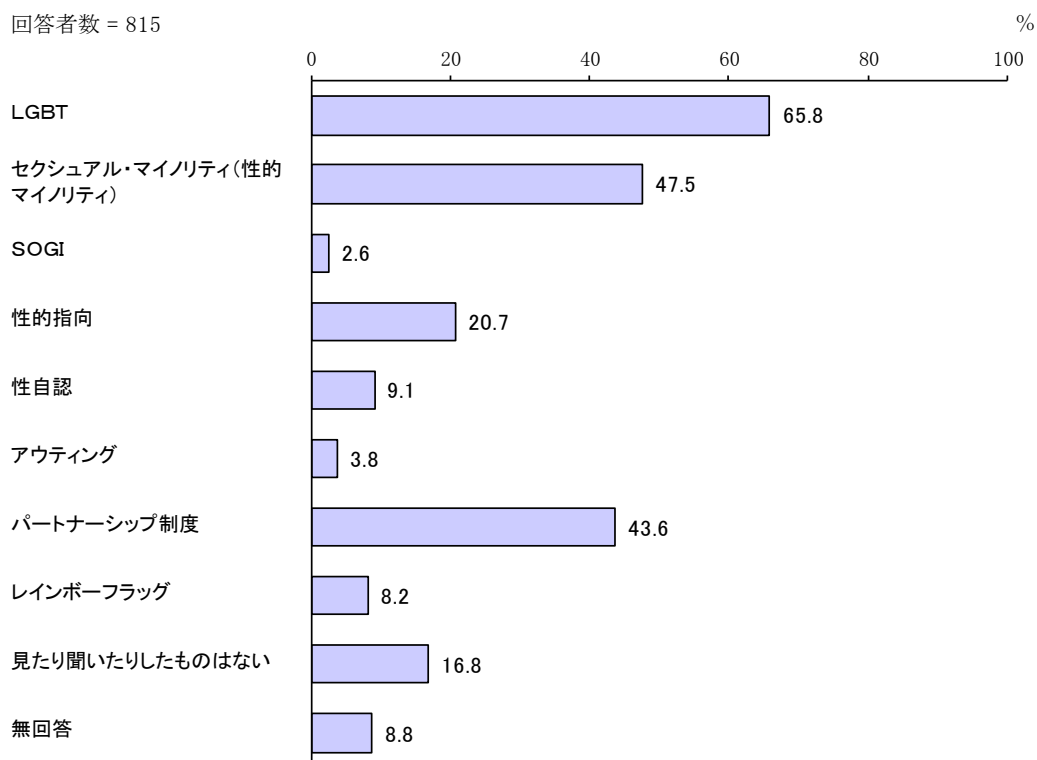
単位：％

区分	有効回答数(件)	制度の利用者が、職場で不利益を受けないようにする	育児休業利用者に対し、経済的な保証をする	企業等において、制度についての啓発をおこなう	社会一般への啓発活動をすすめる	男性に、育児に対する責任感をもってもらう	わからない	その他	無回答
いる	598	71.7	54.8	36.8	28.9	38.5	3.8	1.8	6.4
いない	183	71.0	51.4	34.4	31.7	43.2	6.0	1.6	4.4

(10) 性の多様性について

問 34 次の言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものを教えてください。(あてはまるものすべてに○)

「LGBT」の割合が 65.8%と最も高く、次いで「セクシュアル・マイノリティ（性的マイノリティ）」の割合が 47.5%、「パートナーシップ制度」の割合が 43.6%となっています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「パートナーシップ制度」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	LGBT	セクシュアル・マイノリティ(性的マイノリティ)	SOGI	性的指向	性自認	アウティング	パートナーシップ制度	レインボーフラッグ	見たり聞いたりしたものはなし	無回答
男性	359	66.0	47.6	2.2	21.7	8.1	4.2	39.8	7.5	16.7	7.5
女性	451	65.6	47.5	2.9	19.7	10.0	3.5	46.1	8.9	17.1	10.0

【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の20歳代で「LGBT」「セクシュアル・マイノリティ（性的マイノリティ）」「性的指向」「性自認」「パートナーシップ制度」の割合が高くなっています。また、他に比べ、女性の10歳代で「アウティング」「レインボーフラッグ」の割合が、女性の70歳代以上で「見たり聞いたりしたものはない」の割合が高くなっています。

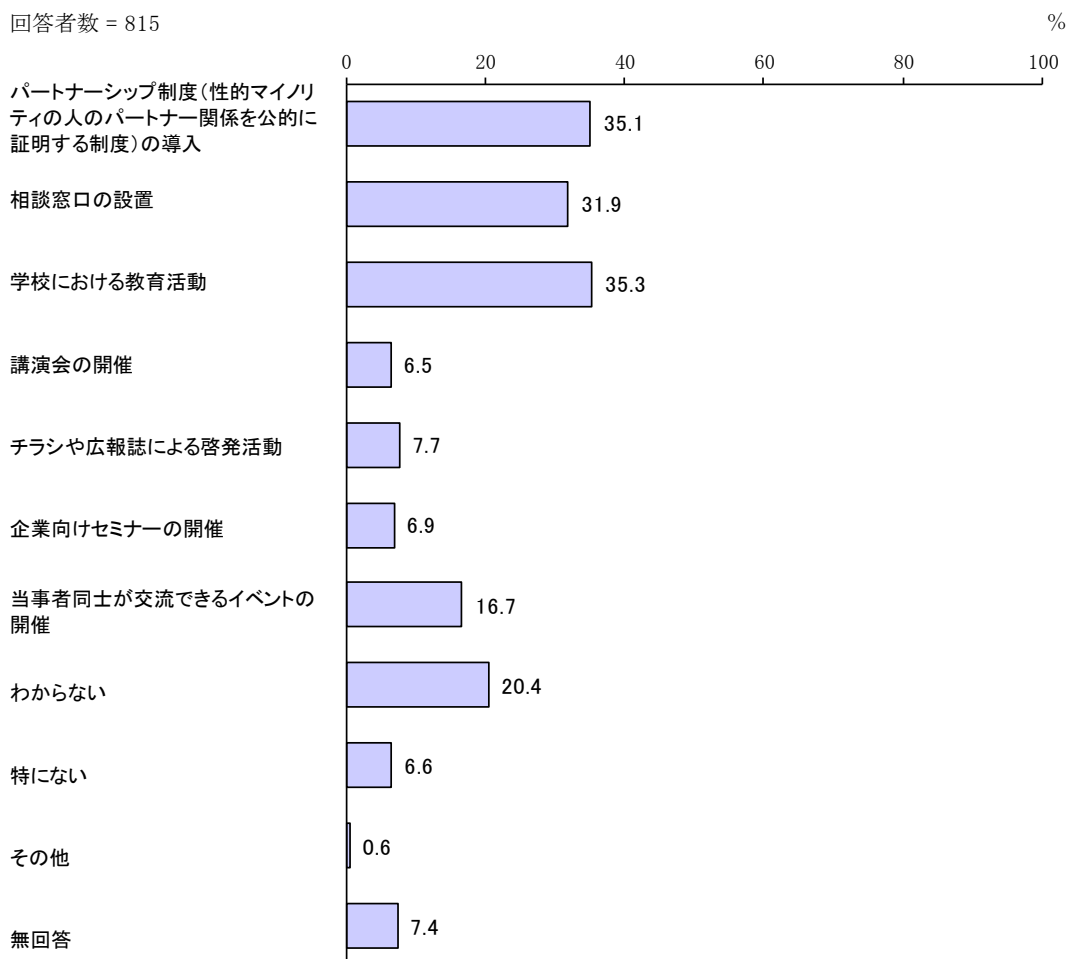
単位：%

区分	有効回答数（件）	LGBT	セクシュアル・マイノリティ（性的マイノリティ）	SOGI	性的指向	性自認	アウティング	パートナーシップ制度	レインボーフラッグ	見たり聞いたりしたものはない	無回答
男性 10歳代	22	72.7	50.0	—	27.3	9.1	—	45.5	9.1	13.6	—
20歳代	35	85.7	62.9	5.7	40.0	22.9	11.4	54.3	14.3	11.4	2.9
30歳代	40	77.5	47.5	2.5	32.5	22.5	7.5	45.0	17.5	15.0	5.0
40歳代	52	65.4	44.2	—	13.5	3.8	3.8	34.6	9.6	25.0	1.9
50歳代	53	67.9	52.8	—	28.3	5.7	5.7	39.6	7.5	20.8	1.9
60歳代	80	63.8	50.0	3.8	12.5	2.5	1.3	41.3	3.8	11.3	7.5
70歳代以上	77	50.6	36.4	2.6	16.9	3.9	2.6	31.2	1.3	18.2	20.8
女性 10歳代	16	68.8	50.0	6.3	18.8	25.0	12.5	43.8	18.8	18.8	—
20歳代	40	92.5	72.5	7.5	42.5	40.0	7.5	72.5	17.5	—	—
30歳代	58	82.8	56.9	1.7	31.0	12.1	8.6	55.2	12.1	10.3	1.7
40歳代	73	75.3	61.6	1.4	27.4	5.5	2.7	53.4	11.0	16.4	1.4
50歳代	79	69.6	50.6	6.3	22.8	10.1	5.1	49.4	12.7	15.2	10.1
60歳代	91	63.7	42.9	1.1	11.0	4.4	—	46.2	4.4	17.6	8.8
70歳代以上	91	34.1	20.9	1.1	3.3	2.2	—	20.9	1.1	28.6	29.7
その他	1	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—

問 35 性の多様性への理解を促進するために、あなたが行政に求める施策は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

「学校における教育活動」の割合が 35.3%と最も高く、次いで「パートナーシップ制度（性的マイノリティの人のパートナー関係を公的に証明する制度）の導入」の割合が 35.1%、「相談窓口の設置」の割合が 31.9%となっています。



【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	パートナシップ制度 (性的マイノリティの人のパートナ ー関係)の導入 の導入	相談窓口の設置	学校における教育活動	講演会の開催	チラシや広報誌による啓発活動	企業向けセミナーの開催	当事者同士が交流できるイベント の開催	わからない	特にない	その他	無回答
男性	359	33.1	32.9	34.8	6.1	9.2	6.7	16.2	19.5	7.2	1.1	6.7
女性	451	36.6	31.0	35.7	6.7	6.7	6.9	17.3	21.3	6.2	0.2	8.0

【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の20歳代で「パートナーシップ制度（性的マイノリティの人のパートナー関係を公的に証明する制度）の導入」の割合が高くなっています。また、他に比べ、男性の10歳代で「相談窓口の設置」「特にない」の割合が、女性の10歳代で「学校における教育活動」「当事者同士が交流できるイベントの開催」の割合が、女性の30歳代で「チラシや広報誌による啓発活動」の割合が、女性の20歳代で「企業向けセミナーの開催」の割合が、男性の70歳代以上、女性の50歳代、70歳代以上で「わからない」の割合が高くなっています。

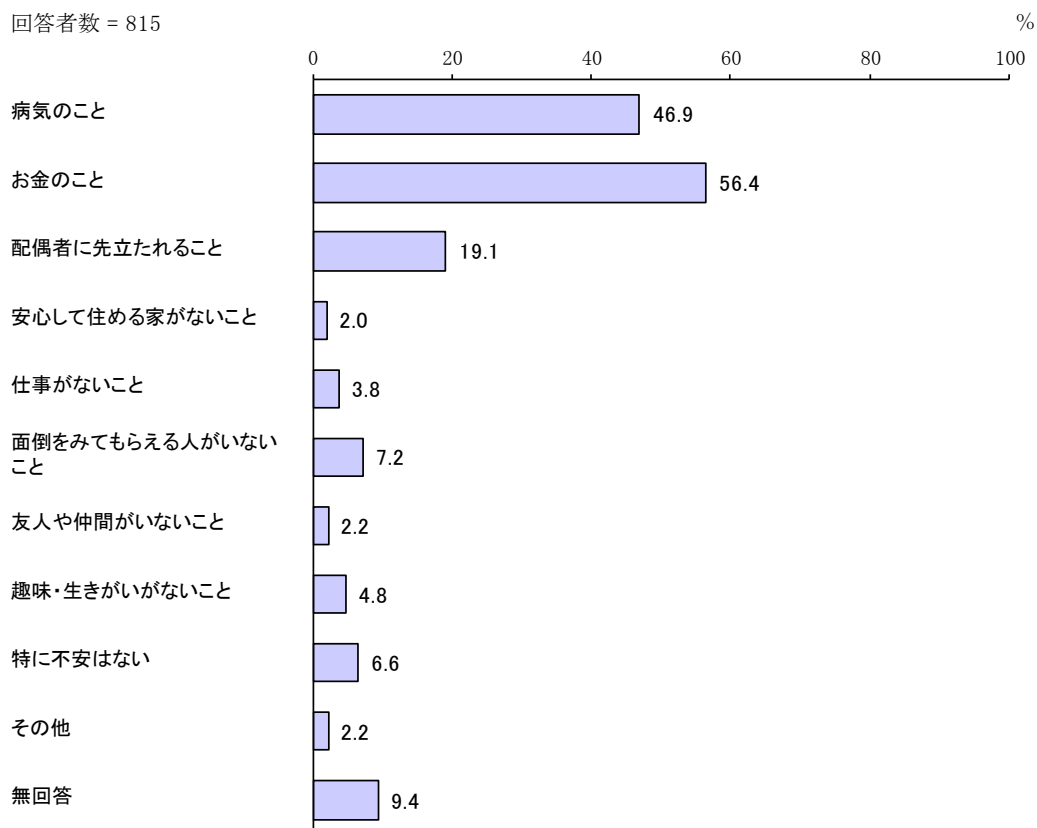
単位：％

区分	有効回答数 (件)	パートナーシップ制度 (性的マイノリティの人の パートナー関係を公的に証明する制度) の導入	相談窓口の設置	学校における教育活動	講演会の開催	チラシや広報誌による啓発活動	企業向けセミナーの開催	当事者同士が交流できるイベントの開催	わからない	特にない	その他	無回答
男性 10歳代	22	40.9	50.0	31.8	4.5	4.5	4.5	22.7	13.6	13.6	—	—
20歳代	35	60.0	37.1	48.6	5.7	5.7	8.6	34.3	17.1	5.7	2.9	—
30歳代	40	27.5	7.5	45.0	5.0	10.0	12.5	7.5	12.5	7.5	2.5	7.5
40歳代	52	34.6	34.6	32.7	5.8	11.5	1.9	13.5	25.0	3.8	1.9	5.8
50歳代	53	34.0	39.6	34.0	5.7	9.4	9.4	15.1	11.3	9.4	—	3.8
60歳代	80	28.8	33.8	37.5	8.8	12.5	5.0	15.0	20.0	7.5	1.3	7.5
70歳代以上	77	24.7	32.5	23.4	5.2	6.5	6.5	14.3	27.3	6.5	—	13.0
女性 10歳代	16	56.3	6.3	56.3	—	6.3	6.3	37.5	12.5	12.5	—	—
20歳代	40	55.0	37.5	55.0	10.0	—	12.5	27.5	5.0	7.5	—	—
30歳代	58	55.2	31.0	44.8	5.2	12.1	10.3	13.8	15.5	5.2	1.7	3.4
40歳代	73	49.3	30.1	43.8	5.5	5.5	4.1	17.8	16.4	5.5	—	2.7
50歳代	79	32.9	30.4	27.8	5.1	6.3	5.1	21.5	27.8	10.1	—	8.9
60歳代	91	25.3	38.5	34.1	8.8	5.5	7.7	13.2	25.3	1.1	—	6.6
70歳代以上	91	18.7	25.3	19.8	7.7	8.8	4.4	12.1	27.5	7.7	—	20.9
その他	1	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(11) 老後・介護について

問 36 あなたの老後の不安は何ですか。(あてはまるもの2つ以内に○)

「お金のこと」の割合が56.4%と最も高く、次いで「病気のこと」の割合が46.9%、「配偶者に先立たれること」の割合が19.1%となっています。



【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	病気のこと	お金のこと	配偶者に先立たれること	安心して住める家がないこと	仕事がないこと	面倒をみてもらえない人がいないこと	友人や仲間がいないこと	趣味・生きがいがないこと	特に不安はない	その他	無回答
男性	359	44.8	57.1	21.4	1.7	4.7	7.5	1.7	5.3	8.4	1.7	7.8
女性	451	48.6	55.9	17.3	2.2	3.1	7.1	2.4	4.4	5.1	2.7	10.9

【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の60歳代で「病気のこと」の割合が高くなっています。また、他に比べ、男性の40歳代で「お金のこと」「仕事がないこと」の割合が、男性の60歳代で「配偶者に先立たれること」の割合が、男性の20歳代で「面倒をみてもらえる人がいないこと」の割合が、男性の10歳代で「特に不安はない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	病気のこと	お金のこと	配偶者に先立たれること	安心して住める家がないこと	仕事がないこと	面倒をみてもらえない人がいないこと	友人や仲間がいないこと	趣味・生きがいがないこと	特に不安はない	その他	無回答
男性 10歳代	22	31.8	59.1	4.5	4.5	4.5	4.5	9.1	4.5	13.6	4.5	9.1
20歳代	35	31.4	68.6	11.4	—	8.6	11.4	—	8.6	8.6	—	5.7
30歳代	40	20.0	75.0	25.0	—	5.0	5.0	—	5.0	12.5	—	5.0
40歳代	52	44.2	84.6	13.5	1.9	11.5	9.6	1.9	3.8	3.8	1.9	1.9
50歳代	53	45.3	62.3	24.5	3.8	5.7	7.5	—	5.7	7.5	1.9	5.7
60歳代	80	58.8	47.5	30.0	—	1.3	5.0	1.3	2.5	5.0	3.8	11.3
70歳代以上	77	53.2	29.9	23.4	2.6	1.3	9.1	2.6	7.8	11.7	—	11.7
女性 10歳代	16	37.5	62.5	—	6.3	6.3	6.3	6.3	—	6.3	—	6.3
20歳代	40	35.0	67.5	17.5	2.5	2.5	5.0	10.0	10.0	—	—	12.5
30歳代	58	32.8	60.3	27.6	3.4	—	3.4	1.7	1.7	3.4	6.9	13.8
40歳代	73	46.6	82.2	6.8	4.1	5.5	9.6	—	5.5	1.4	4.1	5.5
50歳代	79	41.8	53.2	16.5	2.5	6.3	8.9	2.5	3.8	5.1	3.8	15.2
60歳代	91	63.7	56.0	15.4	—	2.2	6.6	2.2	6.6	5.5	1.1	7.7
70歳代以上	91	58.2	28.6	25.3	1.1	1.1	6.6	1.1	2.2	11.0	1.1	13.2
その他	1	—	100.0	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—

【結婚の有無別】

結婚の有無別でみると、他に比べ、結婚している（事実婚を含む）で「病気のこと」「配偶者に先立たれること」の割合が高くなっています。また、他に比べ、結婚していないで「お金のこと」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	病気のこと	お金のこと	配偶者に先立たれること	安心して住める家がないこと	仕事がないこと	面倒をみてもらえない人がいないこと	友人や仲間がいないこと	趣味・生きがいがないこと	特に不安はない	その他	無回答
結婚している(事実婚を含む)	583	49.2	54.5	25.0	1.4	2.9	5.5	1.2	3.6	7.0	2.4	9.3
結婚していない	161	38.5	63.4	3.7	4.3	6.8	11.8	4.3	8.1	5.6	1.2	9.3
結婚していたが、離婚・死別した	67	46.3	56.7	4.5	1.5	4.5	11.9	6.0	7.5	6.0	3.0	11.9
その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、いないに比べ、いるで「病気のこと」「配偶者に先立たれること」の割合が高くなっています。また、いるに比べ、いないで「面倒をみてもらえない人がいないこと」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	病気のこと	お金のこと	配偶者に先立たれること	安心して住める家がないこと	仕事がないこと	面倒をみてもらえない人がいないこと	友人や仲間がいないこと	趣味・生きがいがないこと	特に不安はない	その他	無回答
いる	598	50.2	55.5	22.4	1.0	3.2	5.2	1.8	3.8	6.9	2.5	9.4
いない	183	35.5	59.6	9.8	4.4	6.6	14.2	3.3	7.1	6.6	1.1	9.3

【家族構成別】

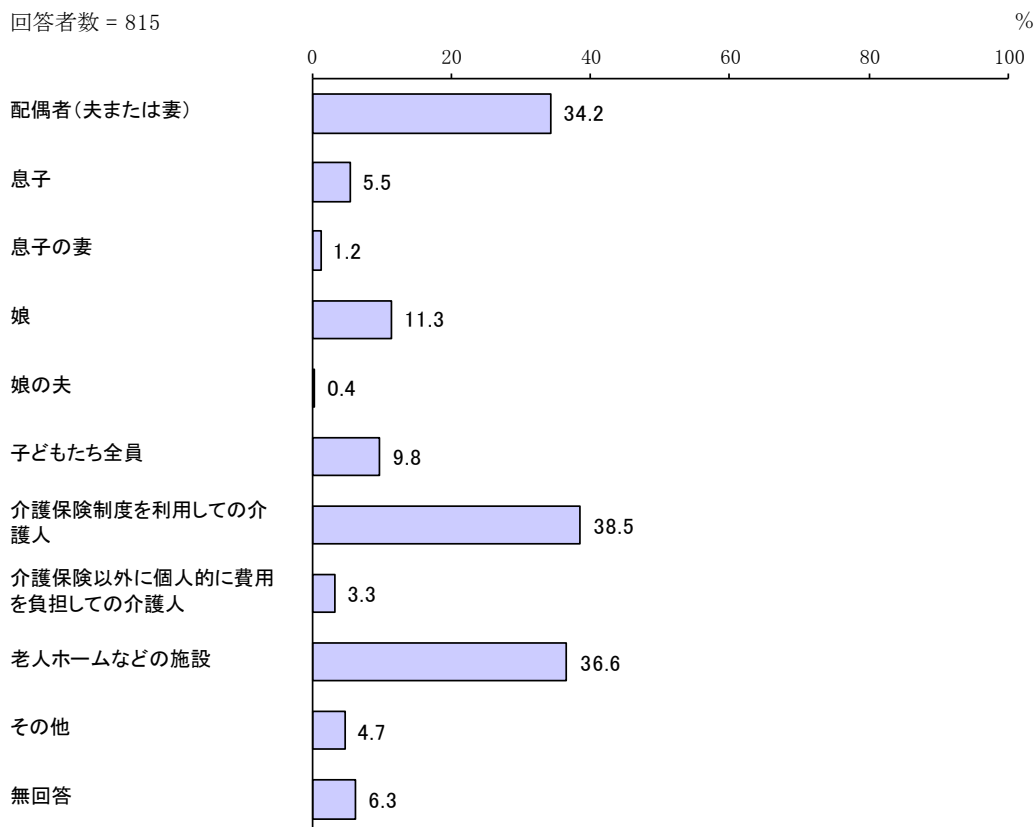
家族構成別でみると、他に比べ、夫婦だけの世帯で「病気のこと」「配偶者に先立たれること」の割合が高くなっています。また、他に比べ、夫婦と子どもの世帯で「お金のこと」の割合が、三世代以上同居世帯で「お金のこと」の割合が、ひとり世帯で「お金のこと」「面倒をみてもらえる人がいないこと」の割合が、母子世帯で「面倒をみてもらえる人がいないこと」「趣味・生きがいがないこと」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	病気のこと	お金のこと	配偶者に先立たれること	安心して住める家がないこと	仕事がないこと	面倒をみてもらえない人がいないこと	友人や仲間がいないこと	趣味・生きがいがないこと	特に不安はない	その他	無回答
ひとり世帯	71	47.9	64.8	5.6	4.2	5.6	12.7	4.2	7.0	4.2	1.4	9.9
夫婦だけの世帯	169	50.9	34.9	32.0	1.8	1.8	8.9	2.4	3.0	8.9	1.8	11.8
夫婦と子どもの世帯	308	44.2	64.3	19.8	1.6	2.3	5.2	2.3	4.2	6.2	2.6	8.8
三世代以上同居世帯	134	47.0	64.2	19.4	1.5	6.0	5.2	0.7	5.2	4.5	1.5	8.2
母子世帯	32	46.9	56.3	6.3	3.1	9.4	12.5	3.1	12.5	9.4	—	9.4
父子世帯	9	22.2	44.4	—	—	22.2	—	11.1	—	22.2	22.2	—
その他の世帯	69	46.4	52.2	11.6	1.4	5.8	10.1	1.4	4.3	8.7	2.9	10.1

問 37 あなたの老後の介護は誰に頼みたいですか。(あてはまるもの2つ以内に○)

「介護保険制度を利用しての介護人」の割合が38.5%と最も高く、次いで「老人ホームなどの施設」の割合が36.6%、「配偶者（夫または妻）」の割合が34.2%となっています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「配偶者（夫または妻）」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「娘」「介護保険制度を利用しての介護人」「老人ホームなどの施設」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	配偶者(夫または妻)	息子	息子の妻	娘	娘の夫	子どもたち全員	介護保険制度を利用しての介護人	介護保険以外に個人的に費用を負担しての介護人	老人ホームなどの施設	その他	無回答
男性	359	44.6	6.1	0.8	7.8	0.8	9.2	31.8	3.3	33.4	6.1	5.6
女性	451	25.9	5.1	1.6	14.2	—	10.2	43.7	3.3	38.8	3.5	6.9

【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の60歳代で「配偶者（夫または妻）」の割合が高くなっています。また、他に比べ、女性の60歳代で「娘」「老人ホームなどの施設」の割合が、女性の20歳代で「子どもたち全員」の割合が、女性の40歳代で「介護保険制度を利用しての介護人」の割合が、女性の30歳代で「老人ホームなどの施設」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	配偶者 (夫または妻)	息子	息子の妻	娘	娘の夫	子どもたち全員	介護保険制度を利用して の介護人	介護保険以外に個人的に 費用を負担しての介護人	老人ホームなどの施設	その他	無回答
男性 10歳代	22	40.9	—	—	4.5	—	9.1	13.6	4.5	27.3	18.2	4.5
20歳代	35	25.7	8.6	—	5.7	—	14.3	37.1	8.6	37.1	8.6	2.9
30歳代	40	30.0	5.0	—	7.5	—	17.5	30.0	5.0	30.0	7.5	5.0
40歳代	52	32.7	5.8	—	5.8	—	7.7	40.4	1.9	42.3	7.7	3.8
50歳代	53	45.3	9.4	1.9	7.5	—	5.7	26.4	3.8	32.1	9.4	3.8
60歳代	80	58.8	6.3	1.3	10.0	1.3	3.8	40.0	3.8	33.8	2.5	3.8
70歳代以上	77	54.5	5.2	1.3	9.1	2.6	11.7	24.7	—	29.9	1.3	11.7
女性 10歳代	16	18.8	—	—	12.5	—	12.5	31.3	—	37.5	6.3	6.3
20歳代	40	17.5	—	—	7.5	—	20.0	37.5	7.5	42.5	5.0	7.5
30歳代	58	31.0	5.2	—	13.8	—	10.3	43.1	5.2	46.6	5.2	1.7
40歳代	73	28.8	9.6	—	12.3	—	9.6	52.1	2.7	37.0	2.7	1.4
50歳代	79	21.5	1.3	1.3	12.7	—	6.3	50.6	3.8	36.7	6.3	11.4
60歳代	91	27.5	3.3	1.1	18.7	—	9.9	47.3	3.3	46.2	—	4.4
70歳代以上	91	27.5	9.9	5.5	16.5	—	9.9	33.0	—	28.6	3.3	13.2
その他	1	—	—	—	—	—	—	100.0	—	100.0	—	—

【結婚の有無別】

結婚の有無別でみると、他に比べ、結婚している（事実婚を含む）で「配偶者（夫または妻）」の割合が高くなっています。また、他に比べ、結婚していたが、離婚・死別したで「息子」「娘」「子どもたち全員」の割合が、結婚していないで「老人ホームなどの施設」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	配偶者（夫または妻）	息子	息子の妻	娘	娘の夫	子どもたち全員	介護保険制度を利用している介護人	介護保険以外に個人的に費用を負担している介護人	老人ホームなどの施設	その他	無回答
結婚している（事実婚を含む）	583	43.4	5.7	1.4	11.8	0.5	8.6	38.1	3.3	35.0	3.1	6.7
結婚していない	161	15.5	1.9	—	5.0	—	11.2	37.3	3.7	42.9	11.8	5.0
結婚していたが、離婚・死別した	67	1.5	13.4	3.0	22.4	—	17.9	41.8	1.5	35.8	1.5	6.0
その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、いないに比べ、いるで「配偶者（夫または妻）」「娘」「子どもたち全員」の割合が高くなっています。また、いるに比べ、いないで「老人ホームなどの施設」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	配偶者（夫または妻）	息子	息子の妻	娘	娘の夫	子どもたち全員	介護保険制度を利用している介護人	介護保険以外に個人的に費用を負担している介護人	老人ホームなどの施設	その他	無回答
いる	598	39.3	7.0	1.7	14.2	0.5	10.4	38.1	2.5	34.4	3.0	6.2
いない	183	21.3	1.6	—	3.3	—	8.2	38.3	5.5	44.3	9.3	5.5

【家族構成別】

家族構成別で見ると、他に比べ、夫婦だけの世帯で「配偶者（夫または妻）」の割合が高くなっています。また、他に比べ、三世代以上同居世帯で「子どもたち全員」の割合が、母子世帯で「介護保険制度を利用しての介護人」「老人ホームなどの施設」の割合が高くなっています。

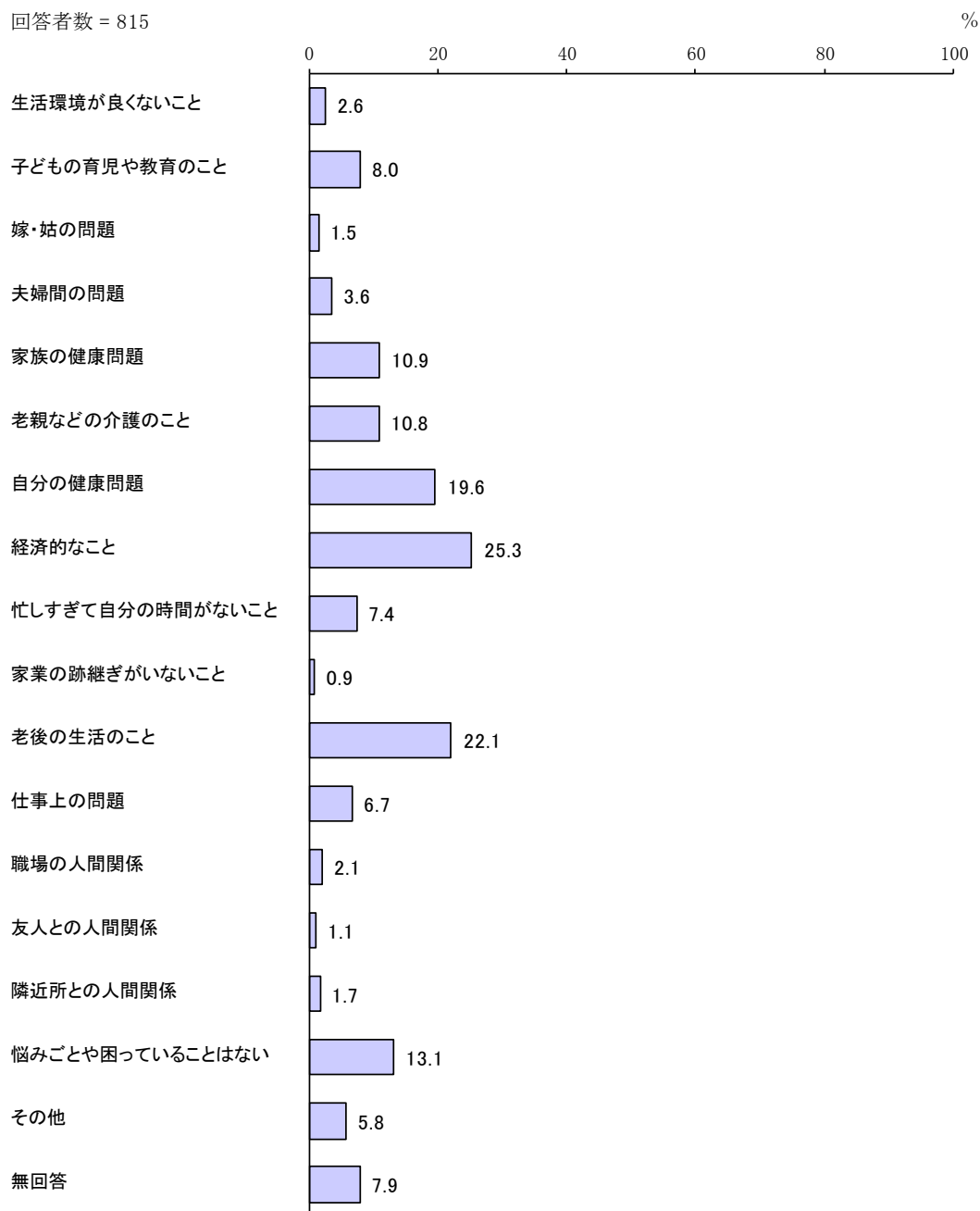
単位：％

区分	有効回答数（件）	配偶者（夫または妻）	息子	息子の妻	娘	娘の夫	子どもたち全員	介護保険制度を利用しての介護人	介護保険以外に個人的に費用を負担しての介護人	老人ホームなどの施設	その他	無回答
ひとり世帯	71	8.5	7.0	—	7.0	—	11.3	43.7	4.2	47.9	5.6	4.2
夫婦だけの世帯	169	43.2	3.0	1.2	6.5	0.6	5.9	38.5	4.1	36.1	2.4	12.4
夫婦と子どもの世帯	308	41.2	6.2	0.6	11.0	0.3	11.0	35.1	3.9	36.4	4.9	4.9
三世代以上同居世帯	134	35.1	6.7	3.0	17.2	0.7	12.7	36.6	1.5	35.8	2.2	3.7
母子世帯	32	3.1	6.3	—	15.6	—	6.3	53.1	—	50.0	6.3	3.1
父子世帯	9	—	11.1	—	22.2	—	11.1	44.4	—	11.1	22.2	11.1
その他の世帯	69	30.4	4.3	2.9	14.5	—	5.8	42.0	2.9	29.0	10.1	5.8

(12) 心身環境について

問 38 あなたの悩みや困っていることは何ですか。(あてはまるもの2つ以内に○)

「経済的なこと」の割合が25.3%と最も高く、次いで「老後の生活のこと」の割合が22.1%、「自分の健康問題」の割合が19.6%となっています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「経済的なこと」「仕事上の問題」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	生活環境が良くないこと	子どもの育児や教育のこと	嫁・姑の問題	夫婦間の問題	家族の健康問題	老親などの介護のこと	自分の健康問題	経済的なこと	忙しすぎて自分の時間がないこと
男性	359	2.5	5.3	1.4	2.5	9.2	10.9	18.7	30.1	7.2
女性	451	2.7	10.2	1.6	4.4	12.2	10.9	20.4	21.3	7.3

区分	家業の跡継ぎがないこと	老後の生活のこと	仕事上の問題	職場の人間関係	友人との人間関係	隣近所との人間関係	悩みごとや困っていることはない	その他	無回答
男性	1.1	20.3	10.0	1.4	0.3	2.2	15.0	6.4	6.7
女性	0.7	23.5	4.2	2.7	1.8	1.1	11.5	5.3	8.9

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、女性の20歳代で「生活環境が良くないこと」「職場の人間関係」の割合が高くなっています。また、他に比べ、女性の30歳代で「子どもの育児や教育のこと」の割合が、女性の70歳代以上で「家族の健康問題」「自分の健康問題」の割合が、女性の50歳代で「老親などの介護のこと」の割合が、男性の30歳代で「経済的なこと」「忙しすぎて自分の時間がないこと」の割合が、女性の60歳代で「老後の生活のこと」の割合が、男性の40歳代で「仕事上の問題」の割合が、女性の10歳代で「友人との人間関係」の割合が、男性の10歳代で「悩みごとや困っていることはない」の割合が高くなっています。

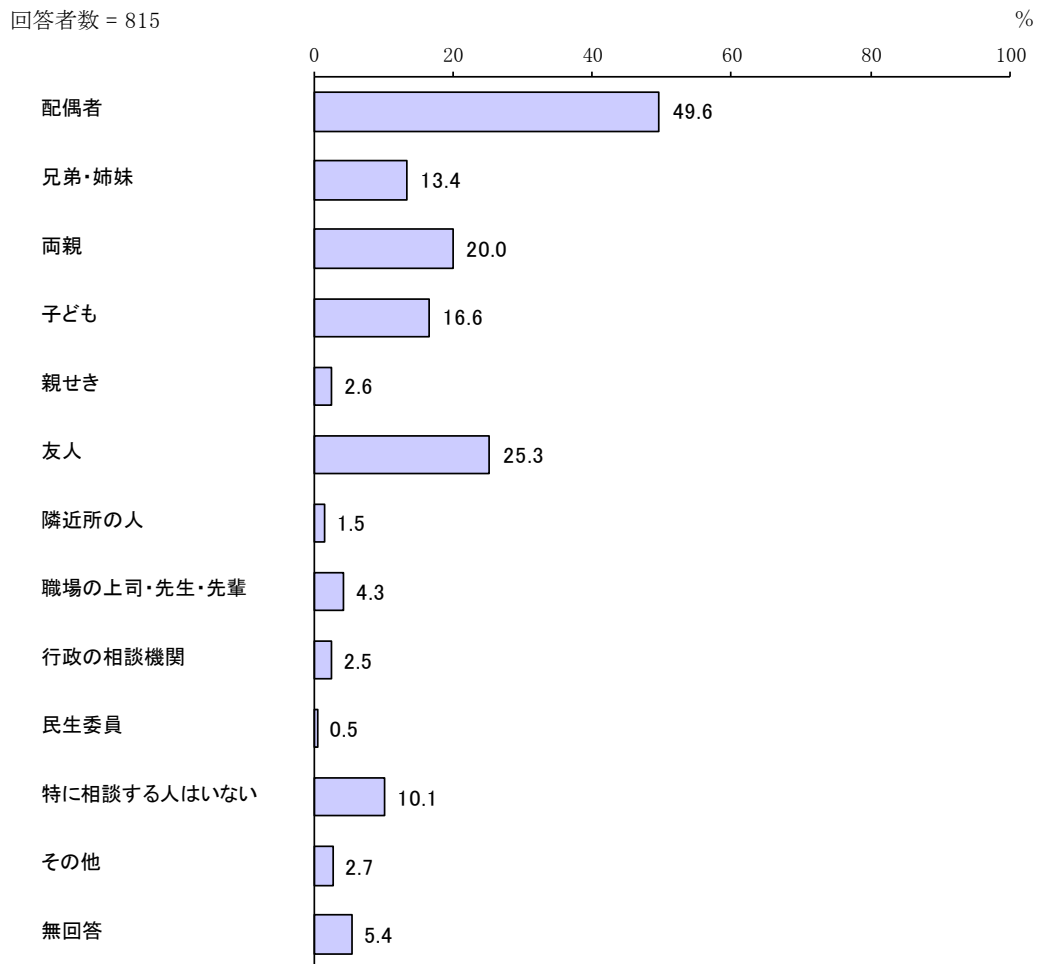
単位：%

区分	有効回答数(件)	生活環境が良くないこと	子どもの育児や教育のこと	嫁・姑の問題	夫婦間の問題	家族の健康問題	老親などの介護のこと	自分の健康問題	経済的なこと	忙しすぎて自分の時間がないこと
男性 10歳代	22	—	—	—	—	—	—	13.6	13.6	9.1
20歳代	35	5.7	5.7	—	5.7	2.9	2.9	8.6	40.0	14.3
30歳代	40	2.5	15.0	—	5.0	7.5	2.5	5.0	42.5	27.5
40歳代	52	1.9	15.4	1.9	1.9	11.5	19.2	9.6	32.7	1.9
50歳代	53	3.8	1.9	3.8	3.8	3.8	20.8	17.0	26.4	9.4
60歳代	80	3.8	1.3	1.3	—	13.8	12.5	25.0	31.3	2.5
70歳代以上	77	—	1.3	1.3	2.6	13.0	7.8	32.5	23.4	—
女性 10歳代	16	—	—	—	—	6.3	—	—	12.5	18.8
20歳代	40	12.5	12.5	2.5	—	10.0	7.5	12.5	30.0	15.0
30歳代	58	1.7	37.9	—	5.2	6.9	3.4	10.3	29.3	5.2
40歳代	73	5.5	23.3	—	8.2	11.0	8.2	17.8	28.8	8.2
50歳代	79	1.3	2.5	2.5	1.3	6.3	25.3	15.2	17.7	8.9
60歳代	91	1.1	—	3.3	9.9	15.4	16.5	27.5	18.7	4.4
70歳代以上	91	—	—	1.1	1.1	19.8	2.2	33.0	14.3	4.4
その他	1	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0

区分	家業の跡継ぎがないこと	老後の生活のこと	仕事上の問題	職場の人間関係	友人との人間関係	隣近所との人間関係	悩みごとや困っていることはない	その他	無回答
男性 10歳代	—	4.5	4.5	—	4.5	—	45.5	18.2	4.5
20歳代	—	2.9	20.0	5.7	—	—	11.4	14.3	2.9
30歳代	—	10.0	17.5	2.5	—	7.5	2.5	2.5	2.5
40歳代	—	17.3	23.1	3.8	—	1.9	7.7	7.7	3.8
50歳代	—	24.5	13.2	—	—	1.9	15.1	5.7	7.5
60歳代	3.8	33.8	—	—	—	1.3	12.5	6.3	7.5
70歳代以上	1.3	23.4	2.6	—	—	2.6	22.1	1.3	11.7
女性 10歳代	—	—	6.3	—	18.8	—	37.5	6.3	6.3
20歳代	—	2.5	12.5	12.5	2.5	—	10.0	10.0	7.5
30歳代	—	12.1	8.6	3.4	3.4	1.7	10.3	6.9	8.6
40歳代	—	15.1	5.5	2.7	1.4	2.7	6.8	5.5	5.5
50歳代	—	32.9	5.1	3.8	1.3	2.5	11.4	5.1	11.4
60歳代	—	39.6	—	—	—	—	6.6	4.4	6.6
70歳代以上	3.3	25.3	—	—	—	—	17.6	3.3	13.2
その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—

問 39 あなたが悩み事や困っている事がある場合の相談相手は誰ですか。(あてはまるもの2つ以内に○)

「配偶者」の割合が 49.6%と最も高く、次いで「友人」の割合が 25.3%、「両親」の割合が 20.0%となっています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「配偶者」「特に相談する人はいない」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「両親」「子ども」「友人」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	配偶者	兄弟・姉妹	両親	子ども	親せき	友人
男性	359	54.9	10.9	16.7	8.4	2.8	19.5
女性	451	45.0	15.3	22.8	23.1	2.4	29.9

区分	隣近所の人	先輩 職場の上司・先生・	行政の相談機関	民生委員	特に相談する人はいない	その他	無回答
男性	1.1	4.5	2.8	0.3	14.5	2.8	5.6
女性	1.8	4.2	2.2	0.7	6.7	2.7	5.3

【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の50歳代で「配偶者」の割合が高くなっています。また、他に比べ、女性の60歳代で「兄弟・姉妹」「子ども」の割合が、女性の10歳代で「両親」「友人」の割合が、男性の30歳代で「職場の上司・先生・先輩」の割合が、女性の20歳代で「職場の上司・先生・先輩」の割合が、男性の20歳代で「特に相談する人はいない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	配偶者	兄弟・ 姉妹	両親	子ども	親せき	友人
男性 10歳代	22	—	9.1	59.1	—	—	31.8
20歳代	35	28.6	5.7	45.7	—	—	28.6
30歳代	40	60.0	7.5	15.0	—	2.5	17.5
40歳代	52	55.8	11.5	26.9	—	—	23.1
50歳代	53	64.2	15.1	5.7	—	—	28.3
60歳代	80	63.8	6.3	10.0	15.0	2.5	16.3
70歳代以上	77	63.6	16.9	—	23.4	9.1	7.8
女性 10歳代	16	—	—	81.3	—	6.3	62.5
20歳代	40	17.5	12.5	55.0	—	5.0	50.0
30歳代	58	63.8	8.6	43.1	—	—	29.3
40歳代	73	41.1	9.6	37.0	9.6	1.4	30.1
50歳代	79	54.4	15.2	13.9	21.5	3.8	39.2
60歳代	91	42.9	23.1	4.4	46.2	1.1	25.3
70歳代以上	91	51.6	19.8	—	40.7	3.3	12.1
その他	1	100.0	—	—	—	—	—

単位：%

区分	隣近所の人	先輩 職場の上司・先生・	行政の相談機関	民生委員	特に相談する人は いない	その他	無回答
男性 10 歳代	—	9.1	—	—	13.6	—	13.6
20 歳代	—	5.7	—	—	22.9	8.6	2.9
30 歳代	—	15.0	—	—	20.0	2.5	2.5
40 歳代	—	3.8	3.8	—	19.2	1.9	1.9
50 歳代	—	7.5	3.8	—	9.4	—	5.7
60 歳代	3.8	—	3.8	1.3	15.0	2.5	3.8
70 歳代以上	1.3	—	3.9	—	7.8	3.9	10.4
女性 10 歳代	—	12.5	—	—	6.3	6.3	—
20 歳代	—	15.0	—	—	5.0	7.5	5.0
30 歳代	1.7	5.2	—	—	5.2	3.4	8.6
40 歳代	1.4	6.8	2.7	—	8.2	1.4	9.6
50 歳代	2.5	3.8	—	—	3.8	3.8	2.5
60 歳代	1.1	—	4.4	—	9.9	1.1	3.3
70 歳代以上	3.3	—	4.4	3.3	6.6	1.1	5.5
その他	—	—	—	—	—	—	—

【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、夫婦だけの世帯で「配偶者」の割合が高くなっています。また、他に比べ、ひとり世帯で「兄弟・姉妹」「特に相談する人はいない」の割合が、三世代以上同居世帯で「両親」の割合が、母子世帯で「子ども」「友人」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	配偶者	兄弟・ 姉妹	両親	子ども	親せき	友人
ひとり世帯	71	4.2	22.5	12.7	19.7	1.4	39.4
夫婦だけの世帯	169	68.0	11.8	6.5	21.9	4.7	16.0
夫婦と子どもの世帯	308	60.1	10.1	23.1	11.0	0.6	25.0
三世代以上同居世帯	134	48.5	11.9	27.6	17.2	1.5	26.1
母子世帯	32	6.3	15.6	15.6	28.1	3.1	43.8
父子世帯	9	—	11.1	22.2	11.1	22.2	11.1
その他の世帯	69	47.8	23.2	15.9	23.2	5.8	17.4

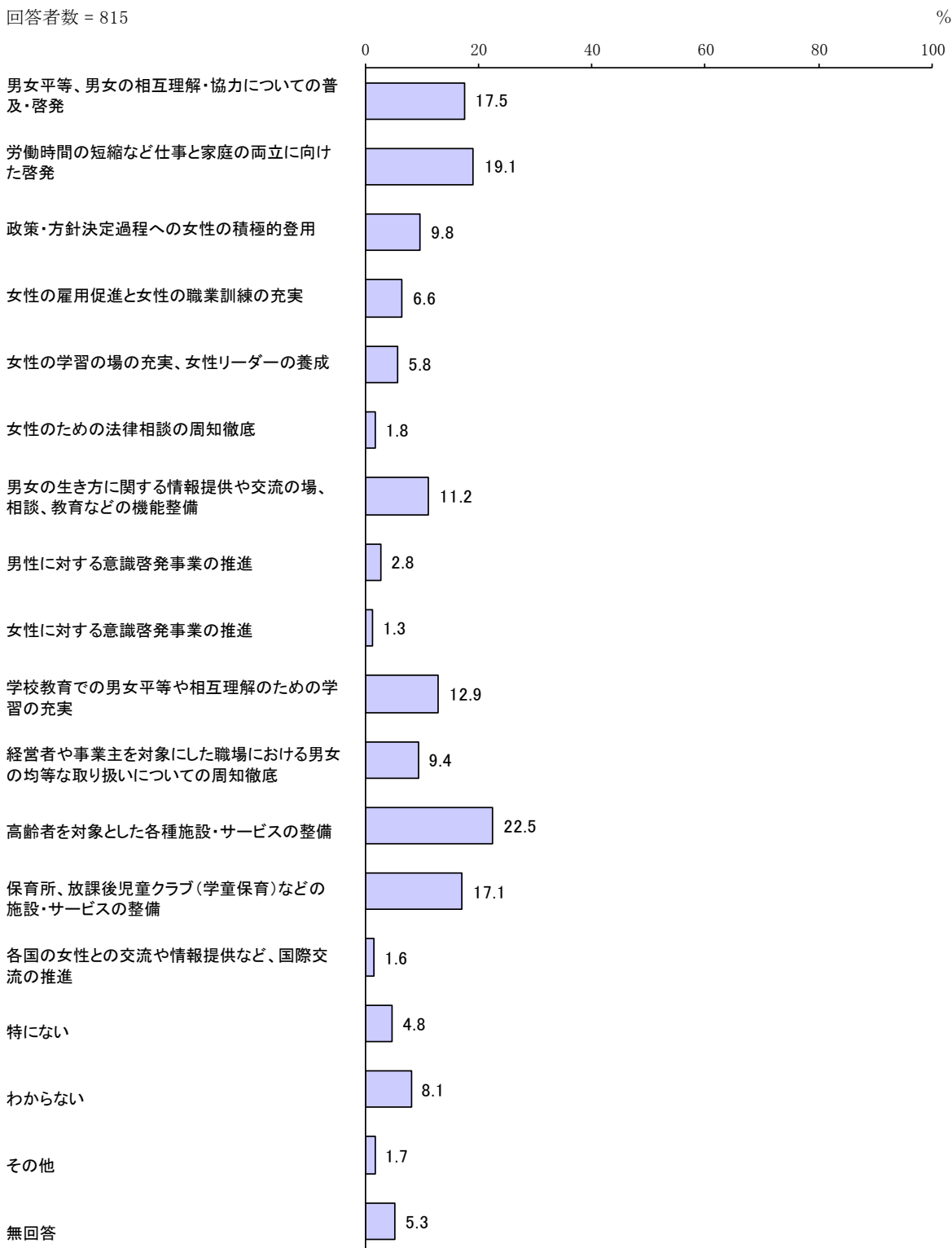
区分	隣近所の人	先輩 職場の 上司・先生・	行政の 相談機関	民生委員	特に 相談する 人はい ない	その他	無回答
ひとり世帯	1.4	7.0	2.8	1.4	23.9	7.0	1.4
夫婦だけの世帯	2.4	0.6	3.6	—	5.9	2.4	8.3
夫婦と子どもの世帯	1.6	5.8	1.6	—	9.4	1.9	5.5
三世代以上同居世帯	0.7	6.0	3.0	0.7	6.7	3.0	6.0
母子世帯	—	—	3.1	3.1	18.8	—	6.3
父子世帯	—	—	—	11.1	44.4	—	—
その他の世帯	1.4	1.4	2.9	—	10.1	2.9	2.9

(13) 市に要望する施策について

問 40 男女共同参画を進めるため、掛川市の施策に希望するものは何ですか。(あてはまるもの2つ以内に○)

「高齢者を対象とした各種施設・サービスの整備」の割合が 22.5%と最も高く、次いで「労働時間の短縮など仕事と家庭の両立に向けた啓発」の割合が 19.1%、「男女平等、男女の相互理解・協力についての普及・啓発」の割合が 17.5%となっています。

回答者数 = 815



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「政策・方針決定過程への女性の積極的登用」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「学校教育での男女平等や相互理解のための学習の充実」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	男女平等、男女の相互理解・協力についての普及・啓発	男女平等、男女の相互理解・協力についての普及・啓発	労働時間の短縮など仕事と家庭の両立に向けた啓発	政策・方針決定過程への女性の積極的登用	女性の雇用促進と女性の職業訓練の充実	女性の学習の場の充実、女性リーダーの養成	女性のための法律相談の周知徹底	男女の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育	男性に対する意識啓発事業の推進	女性に対する意識啓発事業の推進
男性	359	17.0	19.5	12.8	5.3	6.4	0.8	11.7	3.3	1.9	
女性	451	18.2	18.6	7.5	7.8	4.9	2.7	10.9	2.4	0.9	

区分	学校教育での男女平等や相互理解のための学習の充実	経営者や事業主を対象にした職場における男女の均等	高齢者を対象とした各種施設・サービスの整備	保育所、放課後児童クラブ(学童保育)などの施設・サービ	各国の女性との交流や情報提供など、国際交流の推進	特にな	わからない	その他	無回答
男性	10.0	11.4	20.3	16.2	1.4	5.6	8.6	2.8	5.0
女性	15.3	7.8	23.7	17.7	1.8	4.2	7.8	0.9	5.5

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、男性の10歳代で「男女平等、男女の相互理解・協力についての普及・啓発」「特になし」の割合が高くなっています。また、他に比べ、女性の20歳代で「労働時間の短縮など仕事と家庭の両立に向けた啓発」「保育所、放課後児童クラブ（学童保育）などの施設・サービスの整備」の割合が、女性の30歳代で「労働時間の短縮など仕事と家庭の両立に向けた啓発」の割合が、男性の60歳代で「政策・方針決定過程への女性の積極的登用」の割合が、女性の40歳代で「女性の雇用促進と女性の職業訓練の充実」の割合が、女性の60歳代で「男女の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育などの機能整備」の割合が、女性の10歳代で「学校教育での男女平等や相互理解のための学習の充実」の割合が、男性の50歳代で「経営者や事業主を対象にした職場における男女の均等な取り扱いについての周知徹底」の割合が、女性の70歳代以上で「高齢者を対象とした各種施設・サービスの整備」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	男女平等、男女の相互理解・協力についての普及・啓発	労働時間の短縮など仕事と家庭の両立に向けた啓発	政策・方針決定過程への女性の積極的登用	女性の雇用促進と女性の職業訓練の充実	女性の学習の場の充実、女性リーダーの養成	女性のための法律相談の周知徹底	男女の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育などの機能整備	男性に対する意識啓発事業の推進	女性に対する意識啓発事業の推進
男性 10歳代	22	27.3	22.7	4.5	—	—	4.5	13.6	—	—
20歳代	35	14.3	28.6	5.7	8.6	8.6	2.9	11.4	2.9	—
30歳代	40	7.5	30.0	5.0	5.0	7.5	—	12.5	5.0	2.5
40歳代	52	9.6	26.9	11.5	5.8	7.7	—	11.5	3.8	1.9
50歳代	53	20.8	22.6	9.4	5.7	3.8	—	9.4	3.8	—
60歳代	80	23.8	17.5	20.0	7.5	6.3	—	11.3	2.5	3.8
70歳代以上	77	15.6	3.9	18.2	2.6	7.8	1.3	13.0	3.9	2.6
女性 10歳代	16	12.5	6.3	12.5	6.3	6.3	—	—	6.3	6.3
20歳代	40	25.0	32.5	10.0	5.0	5.0	5.0	5.0	—	—
30歳代	58	20.7	32.8	5.2	6.9	1.7	3.4	1.7	1.7	—
40歳代	73	17.8	27.4	9.6	19.2	5.5	2.7	11.0	4.1	1.4
50歳代	79	19.0	12.7	7.6	8.9	1.3	1.3	10.1	2.5	—
60歳代	91	18.7	11.0	7.7	3.3	6.6	3.3	19.8	2.2	—
70歳代以上	91	14.3	11.0	5.5	4.4	7.7	2.2	13.2	2.2	1.1
その他	1	—	100.0	—	—	100.0	—	—	—	—

単位：%

区分	学校教育での男女平等や相互理解のための学習の充実	経営者や事業主を対象にした職場における男女の均等な取り扱いについての周知徹底	高齢者を対象とした各種施設・サービスの整備	保育所、放課後児童クラブ（学童保育）などの施設・サービスの整備	各国の女性との交流や情報提供など、国際交流の推進	特になし	わからない	その他	無回答
男性 10 歳代	—	4.5	18.2	—	—	13.6	22.7	—	9.1
20 歳代	5.7	11.4	8.6	28.6	—	5.7	14.3	5.7	—
30 歳代	10.0	7.5	7.5	27.5	—	5.0	5.0	5.0	7.5
40 歳代	11.5	7.7	19.2	25.0	1.9	5.8	9.6	5.8	1.9
50 歳代	11.3	17.0	24.5	11.3	3.8	5.7	5.7	3.8	3.8
60 歳代	12.5	13.8	15.0	13.8	1.3	5.0	6.3	1.3	6.3
70 歳代以上	10.4	11.7	36.4	9.1	1.3	3.9	7.8	—	6.5
女性 10 歳代	25.0	—	6.3	12.5	6.3	6.3	25.0	—	—
20 歳代	10.0	15.0	2.5	32.5	2.5	2.5	10.0	2.5	2.5
30 歳代	19.0	6.9	12.1	27.6	1.7	5.2	6.9	—	3.4
40 歳代	15.1	11.0	11.0	19.2	1.4	2.7	5.5	1.4	2.7
50 歳代	16.5	10.1	22.8	13.9	1.3	6.3	13.9	1.3	7.6
60 歳代	22.0	3.3	36.3	15.4	1.1	2.2	2.2	—	8.8
70 歳代以上	6.6	4.4	40.7	11.0	2.2	5.5	6.6	1.1	6.6
その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—

Ⅲ 自由意見

1 男女共同参画の考え方について【69件】

No.	性別	年齢	男女共同参画の考え方について
1	男性	70歳代以上	(まず上から変革していかなければ、下は変っていかない) 小手先だけの男女平等では大きな変化・変革は望めない。一番先にやるべきは、女性天皇であると思っております。過去のしきたり決め事に固執しては、根本的な解決はできないと思っております。次は学校教育、家庭教育により前が出る女性、積極的行動のできる女性が多く出られるようのぞみます。
2	女性	50歳代	「男女共同参画」は、誰にとっても住みやすい地域、社会を作っていくための1つのプロジェクトで、つきつめて考えていくと、最終的には、ジェンダーに関係なく、年齢にも関係なく、身体、精神面のハンディキャップに関係なく、あらゆる垣根を越えて、生きやすいバリアフリーな社会を構築していくことが、まずビジョンとしてあるべきだと思います。
3	男性	60歳代	・女性自身の意識改革と社会全体(会社・組織・政治等)の改革。 ・女性の持っている強みも大切にしたいですね。(子育てには大切です)母の愛。
4	女性	60歳代	①共にではなくみんなで創る社会や地域という考え方が大切になってほしい。②選択制夫妻別姓の実現。
5	男性	70歳代以上	あまり深く考えた事はありませんでした。
6	女性	60歳代	アンケートを読みながら改めて男女共同参画の意味等を考えさせられました。ありがとうございました。
7	男性	60歳代	いろいろな施策に女性の視点を生かす様につとめてほしい。
8	女性	20歳代	全部を理解し合う事は1000%ムリな話だけど男女共に、男女の前に一個人を尊敬、尊重し合える関係になるといいと思います。老害も多いし、若い子でもしっかりしてる子はしっかりしてる。
9	男性	50歳代	お互い違う生き物ととらえ、それぞれの生き方が選択できる道すじがあると良いと思う。
10	男性	20歳代	このアンケートでは女性中心の話題が多い気がした。それだと「男女共同参画」とは少しずれるのでは？本当に男女平等にするなら男性差別についても考えるべき。少なくともこのアンケートからはソレが感じられなかった。あと子育てについては「誰が中心」という考え自体がおかしい。子育てはその子に関わる人全員がその子の人生を左右するという意識が重要。
11	女性	40歳代	それぞれの家庭で、かんきょうもちがうので男女共同はむずかしいと思います。家族、家庭の考え方ではないでしょうか？
12	男性	50歳代	それほど現状を悪くも感じないのですが。

No.	性別	年齢	男女共同参画の考え方について
13	女性	50 歳代	できれば共同参画が実現して欲しいと思いますが、なかなか難しいことだと思っております。男女の考え方が違うところをお互いに尊重しあい実現に向けてガンバっていきましょう。
14	女性	10 歳代	みんなで協力して、男女が平等になる社会になると良いと思う。
15	女性	70 歳代以上	以前に比べ理解されてきたと思います。
16	男性	30 歳代	違う生き物である事を認識し、同じであろうとせず、それぞれの適性に合った役割を持っていく事が大事ではないでしょうか。
17	男性	40 歳代	一口に「男女共同参画」と言っても幅広い事柄を指すのだとこのアンケートによって気づかされた。もっと知識を深めたい。
18	男性	70 歳代以上	何かを行えば急に共同参画が進むものではないと思う。積極的な気持ちを持つ女性が増えていき、それを受け入れる社会を養成。それぞれのケース、立場で努力していくことが必要だと思う。
19	女性	40 歳代	家事等で男女で協力している様なCMなどの映像を見て普及・啓発につながるがあると感じる為、皆が目にしやすい方法で広めていくのがいいのではないかなと思う。
20	男性	60 歳代	掛川市における男女共同参画の最大の啓発は来春に予定されている市長選に女性が立候補することです。今の所、4名が表明していますが、勇気と知性のある女性が立候補したら良いと思います。私の記憶では過去にありません。かな？
21	男性	20 歳代	頑張りたい女性が現れた時にすんなりと活躍できる社会環境づくりが大切だと思います。
22	女性	60 歳代	互いに思いやり、気遣い、沢山の物を求めず、普通に生活して行く事に満足して行けば、多少の傷みや苦しみも乗り越えられるのでは？男だから女だから、若いから古いから、損得を考えずに、上を見ても下を見ても切りが無いのであれば、今有る物(制度)を利用しながら、少し前を向いて歩いてみたらと、そんな風に何時も考え歩んだ事に今が有る私、良いか悪いか解らないけど。
23	女性	70 歳代以上	考え方の概念をなくす。
24	女性	40 歳代	高齢化が進む社会を、男女平等に支えていける社会であってほしいです。
25	女性	70 歳代以上	今はまだ現役です。こうしていざ回答となるとむずかしいものがありますネ。色んな事聞いたりします。いざ相談されたりする事がありました。やはりいいかげんな事言ったりできないので…これから勉強します。ありがとうございました。
26	女性	20 歳代	今は学生のため男女への差別は感じません

No.	性別	年齢	男女共同参画の考え方について
27	男性	20 歳代	妻の不倫の場合、圧倒的に旦那が不利である。慰謝料、婚費、親権、養育費などが、夫が不倫した場合に有利に出来ているのはおかしい。女性だけでなく男性への不平等も強く感じている。
28	男性	50 歳代	仕事・家事等同等に人間として生きていける社会が実現出来る事を望みます。
29	女性	60 歳代	私は男女共同参画についてなかなか難しい問題だと思います。男性は力も強いし、女性は力はないけれど得意な物もあります。それぞれいい所を認め合い、協力していく事がいち番いいと思います。
30	女性	70 歳代以上	私達の若い頃に比べれば女性の立場が良くなったと思いますが、根本的な問題は変わらないと思う。
31	男性	50 歳代	社会生活全般のスピードをゆるめ、ゆとり余裕のある社会を実現(人の意識的にも)することが大切
32	男性	30 歳代	社会的に男性が優遇される場面が多いと思いますが、場合によっては、女性が優遇されている場面もあります。なので男女共に男女共同参画について理解を深める必要があると思います。コロナで大変な時期ですが市民が安心できるように市役所のみな様がんばって下さい！
33	女性	30 歳代	収入を考えても男性の方が基本高い(専門職をのぞき)ため、どうしても家計収入を男性にたよりがちになっているが、家事労働における代価をもう少し考えてほしい。「女性がやるのはあたりまえ」と思う事はやめてほしい。
34	男性	60 歳代	女性の視点で社会を形成することは増々重要になってきます。男女共に相方をリスペクトすることが大事です。
35	男性	60 歳代	女性の話を聞き入れる世の中を。
36	男性	40 歳代	女性リーダーの養成がいいかなと思います。
37	女性	70 歳代以上	男女の差異を認めつつ、平等という感覚を育てるのは教育しかないと思う。あらゆる場所で啓発を促すような計画を。
38	女性	40 歳代	人は、かんきょうで、考え方が違うので、男女平等はむずかしいと思う。とにかく、市民が生活しやすいかんきょうを作って頂きたい。
39	女性	40 歳代	人間ひとりひとりが社会や会社や家庭(配偶者)に依存せず、搾取もされず、精神的にも独立して自信を持って生きていくのなら、結婚は必要なく、女性も自然と社会のリーダーを目指す人もでてくるでしょうし、男性で子育てや家事を専門的にする人も多くなるのではないのでしょうか。性別ではなく個人の特性によって生きればいいと思います。

No.	性別	年齢	男女共同参画の考え方について
40	女性	40 歳代	制度等作ったとしても、根本は変わらない。けれど、やらないよりは一つづつ変えて試していかないと何も進まないから、やるべきだとは思う。
41	男性	20 歳代	性別に関係なく個人の能力を最大限に発揮し、より掛川市が発展できることを願っております。
42	女性	50 歳代	全てに於いて、男社会が強いと感じます。ソフト面よりハード面で女性が参画できる環境を作らないといつまでたっても変わらないと感じます。
43	女性	50 歳代	全ての人が雇用や社会において男女の均等な機会や待遇が理想ということはないと思います。子供を産んでも働きたい人もあれば家庭に入り子育てをしたい人もいます。経済的に家庭に入りたくても仕事をしなければならない人もいます。人それぞれの考え方で理想的な生活があり、理想的な生活があり、理想ではなくてもそうせざる得ないこともあり、なかなか大変なことだと思います。
44	女性	50 歳代	男だから、女だからという考え方をしないで済む社会になっていくといいと思う。
45	男性	50 歳代	男女が完全に対等、平等である必要は無いと思います。男性が不利益な場面も、女性と同じ位にあります。性差があるのだから役割分担があつて然るべきだと思います。
46	男性	10 歳代	男女が同じステージに立つ必要は無い。それぞれ得意な分野・役割があつて当然だから。分業・分担で尊重し合いながら活躍できたらいいと思う。
47	男性	10 歳代	男女が平等になるにはかなりの時間がかかると思います。
48	女性	30 歳代	男女が平等になるのは、難しいと思いますが、せめて女性が、家事、育児、介護がある方でも、融通がきき、そちらを優先させられ無理なく働ける環境が必要かと思っています。
49	女性	20 歳代	男女ともに、身体的な有利、不利はあると思うが、ともに補いつつ、互いの“差”に理解や、尊重の意思を、1人1人が持つことが大切だと考えました。行政や、教育の場から、そのようなメッセージが積極的に発信、推進されていくことに期待しております。
50	男性	30 歳代	男女と分けてる段階で差別を助長していると思うので、アンケートにたよらず全員が積極的に参画したくなるような施策(楽しい、やりがい)を実施して下さい。
51	女性	40 歳代	男女の区別だけでなく、様々な条件(育児・介護・病気等)のある方が、引け目を感じずに働けるよう、ワークライフバランスを考えた働き方を推進してほしいです。

No.	性別	年齢	男女共同参画の考え方について
52	女性	50 歳代	男女の差を超えて、1人1人がお互いを尊重し合えば良いと思います。
53	男性	10 歳代	男女共に平等である世界を作り出す。
54	男性	30 歳代	男女共同参画することで何につながるのか、ということを確認にすべき。人それぞれ価値観が違うため、形だけ男女共同を進めても根本の問題は解決しない。未だ「女は男の一步後ろ」という考えは一定数存在している。そこが変わると、どのような未来になるのか、またはしたいのか、ということに共感してもらわなければならない。
55	女性	70 歳代以上	男女共同参画と聞いた事はありましたが実際の所は??? 男女共同参画社会とは・・・を読み素晴らしい取り組みだと思います。私自身掛川市はとても住みやすく大好きです。明るく希望の持てるまちづくり・・・私も応援しています。
56	女性	60 歳代	男女共同参画は人が生きていく中でとても大切な事と思っています。小さな頃から学校教育の中で理解を深める事をして頂きたいです。ある程度の年齢を重ねてからでは、行動と考えがかけ離れているように感じます。
57	男性	50 歳代	男女共同参画を希望する方が、自由に選択出来る環境が望ましい。
58	女性	30 歳代	男女平等、共同参画といっても、ほとんどが女性に対しての働きかけや女性を変えることばかりであり、男性側への働きかけが少ない気がする。「女性のための〇〇」ということよりも、「〇〇となるためには男性には△△、女性にも××、企業や社会には□□」というように、根本的な部分から考え直していかなければ、今後何十年と経っても、数歩程度の進歩しかないと思う。
59	女性	50 歳代	男女平等によって、男性が男性らしくなくなってきたと思う。責任感や、男性の持っている力を発揮しない。平等だからと力仕事を女性にさせながら、お茶くみも女性にさせる。変な世になっているので、男女平等は 100%意味のあるものではない。他の国の様に良い所を取り入れてほしい。
60	女性	40 歳代	男女平等は、難しいと思います。男女公平を求めます。「男性に、母性は出せない!!」から。教師に特別支援教育の専門的な知識を必須に!! 早急にインクルーシブ教育システム構築を求めます。こちらこそ、ありがとうございました。より、住みやすい掛川市になりますように。

No.	性別	年齢	男女共同参画の考え方について
61	男性	70 歳代以上	男女平等はあたりまえ。今までも言われ続けてきました。今ごろ「男女共同参画」についてアンケートをとって行う、参考にするなど遅れています。もっとどんどん「男女共同参画」としてではなく男女平等の考えで市政をすすめて行って下さい。
62	女性	70 歳代以上	男性にも女性にもそれぞれ与えられた特性があります。それを頭に入れながら思いやり成長できたら良いなと思います。
63	女性	60 歳代	男性の理性あってこそその社会なんだとは思う。力ではかなわないもの、それぞれの能力をひきだしあって思いやりのある社会にならねばと思う！
64	女性	50 歳代	男尊女卑の風潮はあらゆる所である。セクハラもあるし、下に見られている。特にシングルマザーの人は男性から軽くみられて可愛想である。なめてかかっている。男性は酷い所がある。
65	男性	70 歳代以上	長い間男女共同参画という言葉が政策の中に位置づけられています。今になっては、異なる表現の方が伝わるのでは？と感じます。多様性を認め合う方向性がありますので、掛川市らしい政策を期待申し上げます。又これまでと違い貧富の差が社会の中に存在するようにも見え、教育格差に陥らない方向も、男女共同参画施策に重要な視点かもしれません。
66	女性	40 歳代	日本の文化全体に男女の性差の文化や意識が根強いため、社会を変えるにはそれなりの時間がかかると思う。次世代の子どもたちに対する教育や私たち大人が意識を変えていくことが必要だと思う。
67	男性	30 歳代	不平等というよりは、自分自身が男女の差をつけることがないので、よくわからない。
68	女性	不明	保守的な場合が多い。女性軽視的。
69	女性	60 歳代	老人の方が男女の差別が激しい。特に女性。

2 男女の役割分担について【12件】

No.	性別	年齢	男女の役割分担について
1	男性	30歳代	「男は仕事、女は家庭」を見て育った世代が今子育て世代となり、頭では何となく男女平等とわかっているけど昔の意識のままに実際に実行できている家庭は少ない。結局のところ、家事(特に食事)や育児は妻任せで夫は手伝うレベル。女性が育休でしばらく(一年程)家庭内に入ることがズルズルいく原因だと思う。復職後もその流れでお迎えもほぼ妻となる。妻ももっと夫に意見を言うべし。妻は夫の母親ではない。家事を手伝うのではなく自分事とすること。物品の補充、保育園の準備、目に見えない名もなき家事を夫もやること！という意識改革をする。子どもには今からその意識付けを！
2	女性	20歳代	育児は女が主体だと思われる場面が多い。でも2人の子供なんだから2人で育てる事があたり前だと思う。なんで女があそびに行くだけで叩かれなきゃいけない世の中なのか不思議です。
3	女性	70歳代以上	家庭内でも役割等協力し合っている姿をよく見かける様になりました。
4	男性	60歳代	共同は各々の違いを認識し一緒に成す事が肝要。必ずしも同じ事をする事ではないと考える。役割の違いを見失わない事。
5	男性	40歳代	結婚すると(嫁に行く場合)子供を通じて女性は友人ができるので育児は女性が担当した方がよいと感じます。
6	男性	60歳代	市職員の中で、家事、掃除、センタク等を行なっている男性が何人いる→私は0人と思う。それをただせ！！
7	女性	30歳代	女は家を守る、男は仕事という考えが少なからず残っているように思う。
8	女性	50歳代	育児に関しては夫婦2人で同じように担っていく事は理想だが産むのは女性なので働くうえで負担は大きいと思う。出来る事なら子育ての時期は短いので育休制度を使いしっかり関わって欲しいと思う。
9	女性	40歳代	男は仕事、女は家庭という意識は自分も含めて全員もっているのではないと思う。自分自身も女ということで甘えている部分もあるが、もっともっと家のことを男の人にもやってもらいたい。仕事も休むのも(子の病気などで)私ときまっている…。もっと早く帰ってきて家のことをしてほしい！！
10	女性	70歳代以上	男は狩、女は家を守る。身体的にも思考も今でもある程度変わらないと思う。
11	男性	60歳代	男女の心身の働きが違うので共に違いをみとめ確認した上で仕事の分担役割を決めるのがいいのかな。

No.	性別	年齢	男女の役割分担について
12	女性	70 歳代以上	男女平等は大事ですが、私達の年代は戦後の生れ、女性は子供を守り、男性は仕事をする。やはり男性にはない、女性本能を生かした事が大事、家庭を守ることもこれは男女平等です。

3 結婚・家庭生活について【7件】

No.	性別	年齢	結婚・家庭生活について
1	女性	60 歳代	家庭内における家事、育児への男性の協力はかなり進んできていると思います。(若い人達)。しかし、職場等、社会の意識はまだまだ低く、男性は仕事優先にならざるを得ないため、家庭内の仕事は女性に負担がかかりやすく、仕事との両立は、かなり難しい状況にあると思います。
2	女性	20 歳代	会社だけでなく自宅でも男女が平等にならないと意味がないと思います。
3	女性	70 歳代以上	子育て、看護等男性の協力は必要。
4	女性	60 歳代	私達夫婦はずっと共働きでした。家事・育児共に二人で助け合ってきました。ですので、家庭内での男女平等、共同参画は全くあたり前のことでした。しかし、周りを見わたすと女性ばかりに家事の負担が求められる家庭がほとんどでした。男性の意識改革が必要です。
5	女性	70 歳代以上	男、女で協力し、家庭を守ってほしいものです。そんな家庭から子供達が育ってほしいです。
6	女性	70 歳代以上	全て平等でなくても女性には子孫を残す大事な使命がある。この基本を忘れないで結婚、出産と出来る様な環境作りが大切と思う。
7	男性	60 歳代	男性が家庭での役割をどこまで出来るかがどうかと？

4 子育て、子どもの教育について【14件】

No.	性別	年齢	子育て、子どもの教育について
1	女性	50歳代	未来を背負うのは子供達で、格差が進む今、家庭環境に左右されずに教育を受けられるよう、教育費の無料化は最低限実現させるべきで、最優先事項だと思います。
2	男性	30歳代	・男性の育児参画について、意識啓発が必要ではないでしょうか。
3	女性	20歳代	お互いの性別に分かり合えない部分が多いから教育から見直すべきだと思う。
4	女性	30歳代	それぞれが物事に対して責任をもつことで平等になると思う。地域や学校でやるものではなく、それぞれの世帯で性別関係なく環境をつくるのが大事だと思う。家庭内で差別的な環境で過ごす外でもそういった考え方になり、後から教育や注意をしても直らない。
5	女性	60歳代	育児は、夫婦で協力して行うことができるような社会になってほしいと思う。母親の負担を軽減する必要があると思う。家庭、子育て、教育がしっかりしていれば自ずと社会もよくなってくると思います。
6	女性	50歳代	何もかも、女性も男性と同様に！！とは、思わないです。特に、子育て(小学校卒業程度まで)は、母親が、子どもに向き合える様に時間、金銭面、心のゆとりが整っている事が、とても大切で、その間を充実した家庭生活を送れた子どもは心身ともに豊かな成人に向かって成長できると思っています。その為の施策が最も重要だと思っています。
7	女性	60歳代	近代教育にゆとりがなく、家庭では共働き、皆ではないが、しつけ等他人まかせ。大切な時期には保育所、学童、核家族になるにつれ家族のつながりがうすれ、自分達が良ければ他人への思いやり、お互い様の気持ちもうすれてゆく。これでは皆で協力し合うこと、助けてあげようということなく、他人のためにつくす、たよれる人間がいなくなる。いやなことは他の方へでは明るい街にはならない。あたえられたことは、選別しながらもやるけど自ら変えてゆこう、行動力のある人間はつくれない。つながり、ゆとりがない！小さいころより勉強だけではなくもっと大切なことを伝えていきたい。

No.	性別	年齢	子育て、子どもの教育について
8	女性	70歳代以上	今、独身の男、女や離別等で1人になってしまう人達(特に男性の場合)がいて、家の片づけ、掃除が出来ない。食事を作ることが出来ない為、栄養が片寄って不調を訴える人達が増えているようです。子供の頃から男、女問わずきちんとした基本生活が出来よう、学校でも(しつけられる親ばかりではない為)教育をしていただけたらと思います。とても大事なことだと思います。現に私の家族で悩みとなっています。
9	男性	60歳代	子供の頃から教育していく。
10	男性	50歳代	幼少期よりの男女の平等、性役割について教育が必要。女性がいなければ(出産ということで)社会が存続しないので女性に最大の優しさを示せるはず。
11	女性	60歳代	人として(男、女関係なく)生きていくという事、働くという事、勉強するという事、結婚するという事、子育てをしていくということを小さい頃から知っていったり考えたり話し合ったりしていくことが大切なのではないでしょうか。
12	女性	20歳代	男の人の育休をもっと取りやすくしてほしいが、経済的にできないと思います。もっと、そこら辺の制度を充実してほしい。
13	女性	70歳代以上	子育ては男性の意識が重要と思う。負担を女性だけに強いるのではないことは全面的に男女共同参画でと思う。
14	男性	40歳代	幼少期から男女の区別ではなく、個人として扱うよう教育をすすめた方が良いと思う。

5 職場や就労について【26件】

No.	性別	年齢	職場や就労について
1	男性	30歳代	男性ももっと部分休を取って良いと思う。人を雇って育休を取りやすい雰囲気を。
2	男性	60歳代	・女性は、出産、育児、主婦業等女性ならではの行き方、生活、特性は切っても切れないので職場、社会での大きな課題面等をまず、しっかり受け止めたうえで行政の施策を考えなければなりません。男女共同参画は、大変良いことで達成できれば良いと思いますが、男女平等とは、男女同一労働効果、一般的に一致はむずかしいと根本的に考えます。(現在)。女性が社会、職場で活躍、企業等の中枢として働けるためには、まず各種休業制度利用を完全実施したうえで、職場復帰を保証しなければならないと思います。しかし、これによる職業的ハンディは必ず発生すると考えます。これを行政と会社が一体となり、男女共同参画の土台を築くことが大切だと思います。その上で女性が仕事、職業の意欲向上、人材育成、責任向上につながると思います。優秀な女性は数多くいると思います。社会、職場等で活躍できるためには、安心して働ける様々な社会環境しくみの取組みで、行政により多くを期待します。
3	女性	60歳代	・男性によって職場の配置や給料など決められる。現在は公平とはいえません。・大多数が女子の職場で保育園などなくたとえ園でみてもらえたとしても少しの熱で会社を休む人がいる事女性は大変と思います。
4	男性	70歳代以上	サラリーマンが全国の何%をしめるか知らないが、経営者、事業主の方針に従って生きてる人が99%でしょう…。経営者を対象にアンケートを取ったら…。
5	女性	30歳代	一見男女平等は進んでいるように見えますが、現実には全くちがいます。私は夫と同じ旧帝大の大学院まで進みましたが、就職先では「女の子だから」と言われたり、セクハラにも合いました。妊娠中に仕事が続けていける状態ではなくなり、再雇用制度に申し込み、退職。再雇用制度にも期限があります。今、夫の転勤で静岡にいますが、元にした会社からはかなり遠く、再雇用制度の期限までに前の会社に戻れない可能性が高いです。出産後「育児をするのは女」という社会の圧力を幾度となく感じました。教育は男女平等でも、仕事ではまだまだ平等とはとても感じられません。このまま2度と社会に影響を与えられるような、また正社員での仕事はつけないのではないかと思います。社会が変わる事、1人1人の意識が変わるよう、切に願います。

No.	性別	年齢	職場や就労について
6	女性	40 歳代	一定期間、同じ会社で働いている者に正規社員へ移行できる様な法律にしてもらいたい。
7	女性	50 歳代	掛川市内の企業の女性の正社員数と男性の正社員数は、どれくらいでしょうか？女性を非正規、パートで雇用すればよいと考えている企業があるままでは、いつまでもよくなりません。若い女性を正規で雇用してくれる、他市、他都道府県に流出してしまうと思います。それが、出会いの場をなくし、未婚の男性ばかりが増え、少子化にもつながっていると思うのです。乱筆にて失礼。
8	女性	40 歳代	男女の雇用賃金格差を解消してほしい。おなじ仕事をしているのに賃金が違う。
9	女性	70 歳代以上	今から 20 数年前に女性管理職となり勤務しておりました折、初めての女性という事もあり男性職員からのいじめがありとてもつらい思いをした事をおもいだしました。今でもあまり変わっていない事を見聞きすると、もっともっと女性を認めてほしいと思っております。
10	女性	20 歳代	仕事に就くと差別を感じるのではないかと不安ではあります。
11	女性	40 歳代	仕事をする上で男女関係なく自己肯定が必要不可欠であるので、経済格差のない教育をしていく事が一番重要な事であると考えます。子どもは宝だと考え、地域で大人たちが子どもを見守っていく社会にしていく欲しいと思います。
12	男性	40 歳代	時間外労働が多く、心身共に余裕がなく、職場でうつになる人も多い。職場環境によって人は大きく変わるので、国が厳しく制限しない限り会社の体質は変わらないと思う。以前よりは良くなっていると思うが、まだまだだと思う。
13	男性	60 歳代	自営業なので家族全員で男女平等で仕事をする事。
14	女性	20 歳代	就職活動を通して、女性の働く環境の厳しさを知った。今よりもっと働きやすい環境を整えることが、他の問題解決につながると考えている。
15	女性	60 歳代	出産後も働く女性が多いのでとてもいいことだと思います。
16	女性	60 歳代	女性をもっと仕事がしやすい社会になると良いと思います。
17	女性	40 歳代	女性が外に出て働くことはとても良いと思うが、仕事を中心となり親としての仕事が二の次にならないようにしてほしい。それには支援の充実、夫・家族の理解が必要。
18	男性	40 歳代	女性が活躍するような仕事、人のお世話をする仕事の賃金が安すぎる。企業まかせでなく市として上乗せできないのか？
19	女性	70 歳代以上	女性が職業を持ちながら、子育てできる社会が早く来る事を願っています。

No.	性別	年齢	職場や就労について
20	女性	30 歳代	職場が変わらなければ難しいと思う。仕事が生活のほとんどを占めている現状では、男女平等な社会にはならないと思う。
21	男性	70 歳代以上	職場でも地域活動でも個人的な心理啓発活動を試みる。モデルを自身に1~2人作り「あの人はよくやる、立派だ」と先ず当該女性を認める、尊敬するということからスタートするしかない。またこれを男性諸氏に啓発するセミナー(経験者・実践者)を開催して、一歩ずつすすむ。年金生活者男性より。
22	女性	70 歳代以上	職場と地域では男女共同参画は難しいと思う。例えば女性の管理職など感情が優先して失敗した例をいくつか聞きました。
23	女性	40 歳代	男女共同参画とって、女性管理職を増やすための数合わせ的に昇進させる必要はなく、男女ともに能力がある人がそれに見合った評価を受けるべきと思う。性別、年齢に関係なく、能力がある人が正当な評価で昇進していけば良い。
24	女性	30 歳代	男女平等という以前に、残業をせず定時で帰宅するというワークライフバランスが取れれば自然と男性が育児や家事に積極的になると思います。実際子育てをしながら仕事をしていても、子どもの平日の行事(懇談会や健康診断)、また子どもが熱を出した際に犠牲になるのはほぼ母親。父親は仕事が忙しく、子どもが寝た後に帰宅する家庭が多くある現状です。職場の上司の理解も必要だと思います。
25	女性	40 歳代	非正規雇用・パート・派遣社員等の正規職員との賃金・処遇の格差是正。低所得層向け経済援助の拡充は男性もそうだが女性にとっては特に経済的自立のために必要。
26	男性	50 歳代	役所員の男女問わず、残業の多さ(人によって定時、人によっては残業)。

6 地域での習慣や地域活動、社会活動について【6件】

No.	性別	年齢	地域での習慣や地域活動、社会活動について
1	男性	70歳代以上	掛川は地域特性として男性中心の考え方をする人が多く、社会活動に女性を生かすのは大変です。
2	女性	70歳代以上	私は高齢者なので、すでに乗り越えた事柄ですが行政、地域生活で女性(私)は意志決定に手を挙げにくい環境下でした。役を担いたかった、が、持ち廻りで知らぬ間に決定されている事が多々。適応する能力が無い、ですが、学習する。学びの場。地域生活はむつかしい事が、いっぱいです。
3	男性	60歳代	自分が住んでいる神社総代の役員すべてが男性である事。神社によっては女性はダメの決まりごと等ある。時代のながれによっては決まりごとを変えていくことも必要ではないでしょうか。
4	女性	70歳代以上	地域では高齢者層で女性は男性より下に(劣る)見る傾向があります。男女の差異を認めつつ、平等という感覚を育てるのは教育しかないと思う。あらゆる場所で啓発を促すような計画を。
5	男性	60歳代	地域における子育て世代に役割が多い。祭典の参加や消防団の廃止をすれば地域に若者がもどってくる。同級生でもそのような風習が嫌で出ていく人が多い。
6	女性	40歳代	地域活動での女性参加人数が2人、3人と決められていると、やりたくなくてもまわってくるので参加したい人がやるように。やりたくない、表にでて活動したくない女性への配慮をしてもらいたいです。地域によっては参加しなければならない行事が多く、とても日常生活への負担が大きいです。

7 社会問題、政治について【5件】

No.	性別	年齢	社会問題、政治について
1	女性	60歳代	外国で女性が一定数の人数を必ず登用させるといった強制力を持ったやり方で政治がまず手本を示すことと、教育の場面でも小さな時から、自分の身近な市や町の自治等を体験させ興味を持たせないと結局、政治に無関心なままで終わってしまう。
2	男性	70歳代以上	掛川市の女性職員も県職の女性職員なみのスキルをもって欲しい。
3	男性	60歳代	市長、市議会議員に女性がもっと立候補したほうがよい。
4	男性	60歳代	市長の取り組み方で内容は大きく変わる。何もしない、できない市長では市は成長しない。止まった8年間をどう回復させSpeed感を持って進めるか、次の市長が大変。
5	男性	10歳代	女性が生きやすいようにするために外国の政治の女性増加を行うべきだと考える。良い町づくりのために差別という根元念を無くす未来の為に女性の意見をなるべく多く取り入れる。

8 高齢化社会、介護について【3件】

No.	性別	年齢	高齢化社会、介護について
1	女性	60歳代	・70を過ぎたら若者にまかせ、前線から退く。・老人に出来る、社会活動の場を設け、若者の為に社会の為に尽くせる場所を作ってほしい。
2	女性	60歳代	これから、年を重ねるとき、親の介護や夫婦でも家族のあり方をよく、考えて、快適に暮らしたいです。老後のことを考えると不安になるが、夫婦で、健康のことをゆっくり話し合える環境にしたい。
3	女性	70歳代以上	今のところ元気しているので先の事はあまり考えてはいませんが、いずれ高齢になった時の事を思うと心配です。

8 その他【34件】

No.	性別	年齢	その他
1	女性	40歳代	あまり期待をしていない。
2	女性	50歳代	アンケートもなかなか難しく答えられずすみません。
3	男性	50歳代	いつまでたっても自民党がいるってことは、国民の意識はうすいと思う。
4	男性	70歳代以上	キライな人に役員を押しつけない。順番とかを言い押しつけない。好きな人が役員をする。キライな人はしなくて良い。
5	女性	70歳代以上	これからの若い世代に期待しています。
6	女性	30歳代	そもそもこのアンケートの質問自体も、どちらかに偏り過ぎているものばかりなので、こんな風では男女平等は無理だろうと思った。男女関係なく能力のある分野や適した分野の方が責任をもち行えば良いと思う。
7	女性	70歳代以上	もう歳ですので・・・なにもありません！若い人達におまかせします。
8	その他	30歳代	もっと目につくようにイベントやセミナーを行って頂くと人の意識が少しでも興味を持つと思う。テレビをつかって呼びかけなど。あまりそういう行動が見えないので積極的に進めていると思えなかった。
9	女性	50歳代	よく分からず。
10	男性	30歳代	意見を活用して下さい。
11	女性	60歳代	学校を卒業して半世紀、同じ会社で働く事がいろいろな制度があり充実していた事、市政の中での制度も利用し働きながら両親、夫を送り今にいたり、「自分がその気になって利用しよう、皆に理解してもらおう」という前向きな姿勢があるかないかでいろいろかわってくると思います。
12	女性	70歳代以上	掛川市は街はある程度交通機関も充実しているが中心以外は交通手段がないので買物もままならない。今は車が運転できるので良いが先行きが不安です。スーパーや病院なども近くなないのでそれが一番心配です。男女の意見でなくて恐縮ですがこの点についても考えて欲しいです。
13	女性	60歳代	掛川市役所内で男女共同参画の為に、行っている事柄等、市民にアピールしてほしい。
14	男性	70歳代以上	言葉は知っていても難しくよくわかりません。
15	男性	10歳代	広く分かりやすく普及されたいなと思います。
16	男性	20歳代	行政は、企業へ向けて施策して下さい。個人に向けての施策だと、中途半端になりがちです。使い勝手が悪いです。それと、誰がどう生きようが個人の自由です。問25や問27は不愉快です。

No.	性別	年齢	その他
17	女性	40 歳代	高校や大学も小中学校のようにお金がかからないようにしてほしい。
18	男性	60 歳代	今、予算(税)を使い、このアンケートをとるのか意義を問いたい。今、問題は、男女よりも、少子高齢化ではないか。女性に限って、アンケートを取る必要有り。(税の節約)。(女性にとって、どう不都合を感じているか、etc)。この結果は、どう集約され、どう公表されるのか？
19	女性	70 歳代以上	今は一番幸せです。
20	女性	20 歳代	子育て、介護の経済的負担が減らせるように。特に女性の給料の見直し、贈与と男女問わず税金を減らして下さい。
21	男性	70 歳代以上	子供ができた時、いつでも希望(あれこれ条件なしに)の保育園に入れる環境(時間外も含めて)の充実。それが最優先だと思います。
22	男性	40 歳代	子供や高齢者に対する手当の拡充を希望する。
23	女性	70 歳代以上	市が良くなる様宜しくお願いします。
24	男性	40 歳代	市民がもっと認知できる状況にしてください。
25	女性	30 歳代	私は今げんざい、どくしん者で、家族とくらしているのです、すべて、がいとうしませんでした。でも自分の思うことをすべておこたえしました。
26	女性	40 歳代	時間的余裕がないので、地域行事・PTA活動など無くして欲しい。コロナでキャンセルになっても特に困らなかったし、必要性が疑問。
27	男性	10 歳代	質問が学生には答え辛いものが多かった。学生についての質問をもう少し増やしてほしい。
28	女性	40 歳代	集まる機会が少なくなっているのでお互いに意見を出すときも少なく世の中(きんりん住民)考えていることがよくわからない。
29	女性	20 歳代	女性にもこれ以上増やしてほしいです。
30	女性	50 歳代	全ての質問が時代にあってない。もっともっと前を見つめては？
31	女性	60 歳代	地区役員の仕事をなるべく減らしてほしい。
32	男性	20 歳代	年が上がるにつれて固定観念が強く、よく意見が違う事がある為、年齢層が高い人にも教育の場を設けてほしい、。
33	男性	30 歳代	保育所、幼稚園を充実させて下さい。一度出産を機に仕事を辞めると、保育園にも入れず仕事復帰もできない。
34	男性	40 歳代	問 25 地域活動ありきの選択肢はおかしい「仕事・家庭生活のみを優先」が無い。